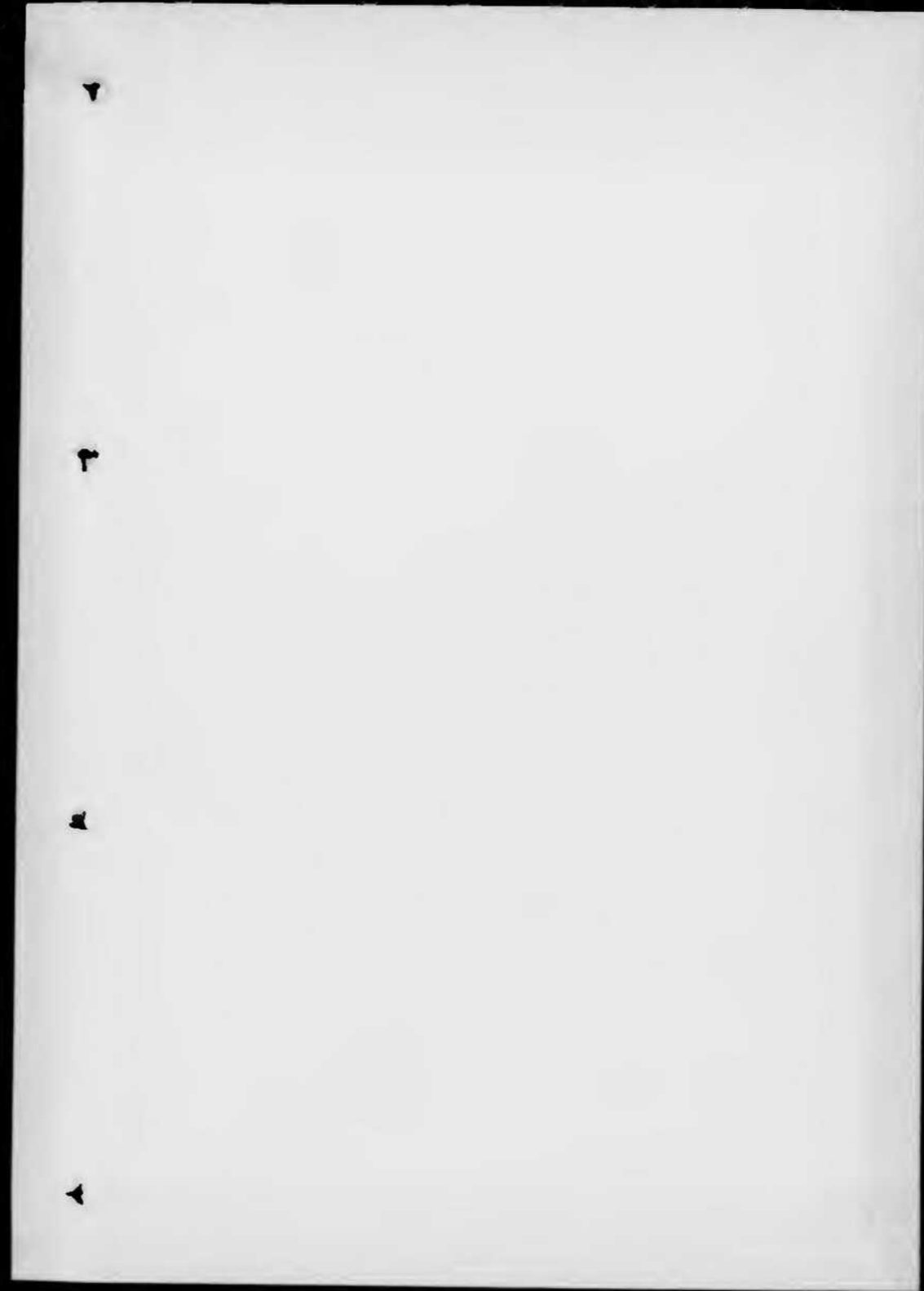


昭和十七年
官制改正原議
(三)



国立公文書館	
分自治省	
類	④8
排架番号	3 A
	13-9
	269



25

内務大臣官房人事課

裏面白紙

裏面あり

番 年 月 日	件 名	目 次	備 考
一七二一	行政簡素化及内外地行政一元化ニ関スルモノ (本省関係)		
二七七八	内務省官制、内務部内臨時職員等設置制、 神祇院官制、警務講習所官制、神宮司 廳官制、神宮皇字館官制、及明治神宮外苑 管理署職員制中改正		
三七八三	造神宮使廳官制中改正		
四七九二	内務省官制及内務部内臨時職員等設置 制中改正		原 系
五七八三	内務省官制及内務部内臨時職員等設置 制中改正		
六一七二	廳府縣行政簡素化ニ関スルモノ		
七一七九	警視廳官制、北海道廳官制、地方官官制、 廳府縣臨時職員等設置制、都市計画 地方委員官官制、高等官官等俸給令		

(25)

及委任文官特別任用令中改正

八、一七、九、七 警視廳官制、北海道廳官制、地方官官制

鹿府縣臨時職員等設置制、高等官官制等

俸給令及昭和十五年勅令第四十七号中改正

九、一六、七、八 當省各課長在職期間調

一〇、一六、八、三 待遇官吏ニ関スル調

一一、一七、九、二 内外地行政ノ一元化ニ関スル件等閣議決定通牒

一二、一七、〇、三 應召官吏等ノ身分取扱ニ関スル勅令草案
ニ関スル意見

(昭四八、七、目次作成)

昭和十七年十一月二十一日

行政刷新及内外地行政一元化ニ関スル

草案 (本有内容)

裏面白紙

勅令第七百二十五號

内務省官制中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

内務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ統理ス

第三條中「十五人」ヲ「十九人」ニ改ム

第四條中「四局」ヲ「五局」ニ、「防空局」ヲ「防空局」ニ改ム

第八條ノ二 管理局ニ於テハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條中「專任内務事務官二十三人及專任内務理事官八人」ヲ「專任内務事務官二十二人及專任内務理事官五人」ニ改ム

第十一條中「專任監査官三人」ヲ「專任監査官二人」ニ改メ「但シ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得」ヲ削ル

第十二條第一項中「專任技師二十五人」ヲ「專任技師二十七人」ニ、「同條第二項中「二百五十人」ヲ「二百十人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三十二年四月三日

參照

内務省官制(明治三十一年勅令第三百五十九號)

第一條 内務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、土木、地方計畫、都市計畫、防空、地理、出版、著作權及拓殖ニ關スル事務ヲ管理シ警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス

内務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ統理ス

第三條 内務省專任書記官ハ十五人十九人ヲ以テ定員トス

第四條 内務省ニ左ノ四局五局ヲ置ク

地方局

警保局

國土局

防空局

警備局

第九條ノ二 警備局ニ警備官ハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 内務省ニ專任内務事務官二十三人二十二人及專任内務理事官八人五人ヲ置ク奏任トス上官ノ命

ヲ承ケ事務ニ従事ス

四

第十一條 内務省ニ専任監査官三人二人ヲ置ク奏任トス但シ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得上官ノ命ヲ承ケ地方行財政ノ監査ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條 内務省ニ専任技師二十五人二十七人ヲ置ク内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
内務省ニ専任屬及専任技手通ジテ二百五十人二百十人ヲ置ク

行政簡素化及内外地行政一元化ノ實施ノ爲ニスル
内務省官制中改正ノ件

参照添附

勅令第七百四十二號

第一條 内務部内臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條ヲ削リ第一條ノ二中「屬 專任三人」ヲ「屬 專任一人」ニ改メ同條ヲ第一條トス

第二條第一項第一號中「土木事務官 專任七人」ヲ「土木事務官 專任五人」ニ、「技師 專任百十三人」ヲ「技師 專任九十人」ニ、「屬 專任百五人」ヲ「屬 專任八十一人」ニ、「技手 專任三百十六人」ヲ「技手 專任二百五十四人」ニ改ム

同項第二號中「内務事務官 專任一人」ヲ削リ「土木事務官 專任三人」ヲ「土木事務官 專任一人」ニ、「技師 專任四十九人」ヲ「技師 專任三十七人」ニ、「屬 專任七十五人」ヲ「屬 專任五十六人」ニ、「技手 專任百十二人」ヲ「技手 專任九十七人」ニ改ム

同項第三號中「土木事務官 專任五人」ヲ「土木事務官 專任四人」ニ、「技師 專任七十七人」ヲ「技師 專任五十八人」ニ、「屬 專任百二人」ヲ「屬 專任八十一人」ニ、「技手 專任二百十二人」ヲ「技手 專任百六十人」ニ改ム

同項第四號中「内務事務官 專任一人」ヲ削リ「技師 專任九人」ヲ「技師 專任六人」ニ、「屬 專任八人」ヲ「屬 專任四人」ニ、「技手 專任十六人」ヲ「技手 專任八人」ニ改メ同號ヲ第五號トス

同項第五號中「技師 專任六人」ヲ「技師 專任四人」ニ、「屬 專任二人」ヲ「屬 專任一人」ニ、「技師 專任十九人」ヲ「技師 專任十人」ニ改メ同號ヲ第六號トス
同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 土木事業助成ニ關スル事務ニ従事スル者

内務事務官 專任一人
土木事務官 專任三人 奏任
技師 專任七人
屬 專任五人
技師 專任十人

同條第二項中「十二人」ヲ「十一人」ニ改ム

第三條中「内務事務官 專任一人」ヲ削リ「技師 專任八人」ヲ「技師 專任六人」ニ、「屬 專任十九人」ヲ「屬 專任九人」ニ改ム

第三條ノ三中「屬 技師」專任四人」ヲ「屬 專任二人」ニ改ム

第三條ノ四第一項中「内務事務官 專任十五人」内一人ヲ勅任ト「内務事務官 專任九人」ニ、「内務理

事官 專任三人」ヲ「内務理事官 專任二人」ニ、「屬 專任六十五人」ヲ「屬 專任三十五人」ニ改ム

第四條中「内務事務官 專任五人」ヲ「内務事務官 專任三人」ニ、「屬 專任二十四人」ヲ「屬 專任十六人」ニ改ム

第四條ノ二ヲ削ル

第五條中「技師 專任二人」ヲ「技師 專任一人」ニ、「技師 專任十八人」ヲ「技師 專任十五人」ニ改ム

第六條中「内務事務官 專任二人」ヲ「内務事務官 專任一人」ニ、「屬 專任四人」ヲ「屬 專任三人」ニ改ム

第七條 内務省ニ左ノ職員ヲ置キ管理局ニ屬セシム

一時局ニ緊要ナル物資ノ需給ノ調整ニ關スル事務ニ従事スル者

事務官 專任二人
屬 專任一人
理事官 專任一人
屬 專任一人

二 物價統制ニ關スル事務ニ従事スル者

理事官 專任一人
屬 專任一人

三 米穀統制ニ關スル事務ニ従事スル者

理事官 専任一人

屬 専任一人

四 交通及電力ノ動員ニ關スル事務ニ従事スル者

屬 専任二人

五 石炭ノ増産ニ關スル事務ニ従事スル者

事務官 専任一人

屬 専任一人

六 貿易ニ關スル事務ニ従事スル者

事務官 専任一人

屬 専任一人

七 勞務ノ需給ノ調整ニ關スル事務ニ従事スル者

事務官 専任一人

屬 専任一人

八 國土計畫ノ設定上必要ナル調査連絡ニ關スル事務ニ従事スル者

事務官 専任一人

屬 専任一人

第二條 神祇院官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「事務官 専任二人」ヲ「事務官 専任一人」ニ、「祭務官 専任二人」ヲ「祭務官 専任一人」ニ改ム

人」ニ、「屬 専任十七人」ヲ「屬 専任十一人」ニ、「考證官補 専任四人」ヲ「考證官補 専任二人」ニ改ム

「技手 専任二人」ヲ「技手 専任一人」ニ改ム

同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

總務局長ハ副總裁ヲシテ之ヲ兼ネシム

第三條 造神宮使廳官制中左ノ通改正ス

第五條ノ二中「二人」ヲ「一人」ニ、「神祇院局長」ヲ「神祇院教務局長」ニ改ム

第四條 警察講習所官制中左ノ通改正ス

第二條中「書記 専任二人」ヲ「書記 専任一人」ニ改ム

第五條 神宮司廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「技手 專任十三人」ヲ「技手 專任十一人」ニ改ム

第六條 神宮皇學館官制中左ノ通改正ス

第二條中「教授 專任六人」ヲ「教授 專任五人」ニ、「書記 專任三人」ヲ「書記 專任二人」ニ改ム

第七條 明治神宮外苑管理職員制中左ノ通改正ス

第二條中「主事補 專任五人」ヲ「主事補 專任四人」ニ改ム

第八條 高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「神祇院各局長」ヲ「神祇院教務局長」ニ改メ「内務事務官」ヲ削ル

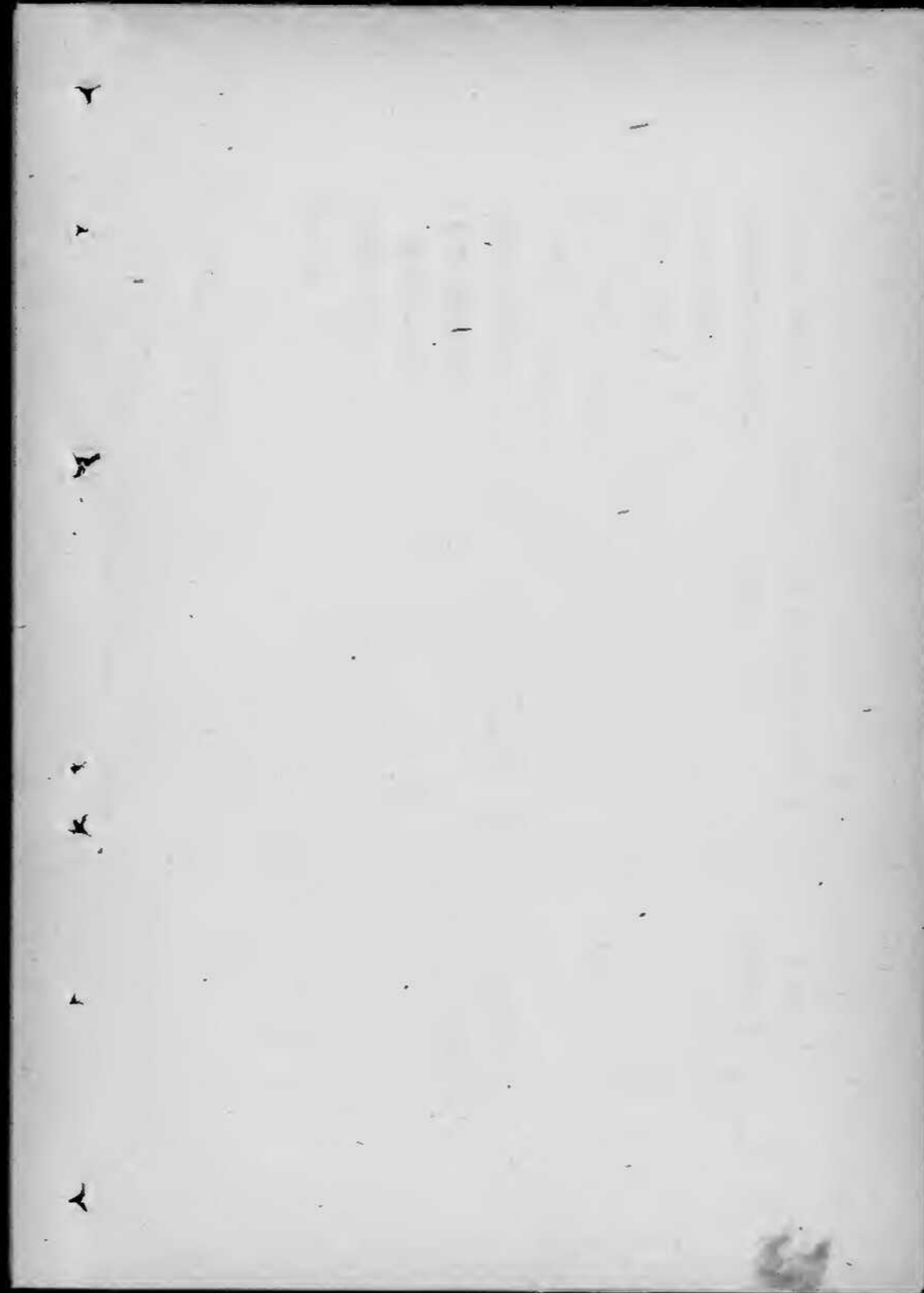
別表第一表内務省ノ部中内務事務官ノ項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

行政簡素化實施ノ爲改正ノ要アルニ依ル





裏面白紙

神祇院官制中定員改正調

官名	局長	事務官	祭務官	屬	技手	考證官補
現在官制 定員	二	二	二	一七	二	四
十七年度 節減				△ 一		△ 一
簡素化 伴員				△ 五	△ 一	△ 一
差引減員				△ 六	△ 一	△ 二
改正官制 定員	一	一	一	一	一	二

神宮司廳官制・神宮學館官制・明治神宮外苑管理職員制中定員改正調

官制	官職名	現在官制 定員	簡素化 伴員	改正官制 定員
神宮司廳官制	技手	一三	△ 二	一一
神宮學館官制	教授	六	△ 一	五
明治神宮外苑 管理職員制	主事補	五	△ 一	四
	書記	三	△ 一	二

行政簡素化に伴う減員調（官制改正ヲ要スルモノ）

官職名	内務省 官制	内務部内臨時 職員等設置制	神祇院 官制	神宮司廳 官制	神皇正統記 官制	明治神宮外 苑管理職員制	計
局長	1		(勅) 1				(勅) 1
書記官	2						2
事務官	8	(勅) 1					(勅) 10
理事官	3						4
監査官	(勅) 1						(勅) 1
工本事務官		2					2
祭務官							1
教授							1
技師	5	(勅) 5					(勅) 10
属技手	27	17	6	2			52
考證官補							1
書記							1
主事補							1
備考	高等官	計 88					
	判任官(待遇)合計	計 240					
	簡素化に伴う減員ニシテ官制改正ヲ要セザルモノ判任官(待遇)合計	122					

昭和十七年八月十三日

大臣
文書課長
秘書課長
庶務課長
内務省
文書課
庶務課
秘書課

請議案

内務省官制、内務部内臨時職自
設置制、神祇院官制、警察及講習所
官制、神宮司廳官制、神宮皇學館官
制、及明治神宮外苑管理署職自
中改正、要マリ別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

内務省

内閣總理大臣

大臣

年 月 日

乙第ニシテ

施行日

署名

計
内務省
第109號
昭和
17. 8.

昭和十七年八月十三日

大臣
文書課
會計課
庶務課
印刷課
文書課
庶務課
印刷課

請議案

内務省官制、内務部内臨時職制、
設置制、神祇院官制、警察系講習所
官制、神宮司廳官制、神宮皇學館官

内務省

制、又明治神宮外苑管理署職制、
中改正ノ要アリ別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

年 月 日

内閣總理大臣 大 臣

大臣

勅令第 號

内務省官制中左ノ通改正ス

第三條中「十五人」ヲ「十四人」ニ改ム

第十條中「専任内務事務官二十三人及専任内務理事官八人」ヲ「専任内務事務官二十人及専任内務理事官五人」ニ改ム

第十一條中「三人」ヲ「二人」ニ改メ「但シ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得」ヲ削ル

第十二條第二項中「二百五十人」ヲ「百九十一人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

本令施行ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄臨時内務省ニ左ノ職員ヲ置ク

内務書記官	専任二人
内務事務官	専任八人
内務理事官	専任三人
監査官	専任一人 勅任ト爲スコトヲ得
技師	専任五人
技 手	専任五十七人

理由

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基キ
人員ヲ減少セントスルト豫算改訂ニ伴フ人員ノ組管及昭和十七年
度經費節減ニ伴フ減員ヲ整理セントスルニ依ル

内務省

勅令第

號

内務部内臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條ヲ削リ第一條ノ二ヲ第一條トシ同條中「屬 專任三人」ヲ

「屬 專任一人」ニ改ム

第二條第一項第一號中「土木事務官 專任七人」ヲ「土木事務官

專任五人」ニ、「技師 專任百十三人」ヲ「技師 專任九十人」

ニ、「屬 專任百五人」ヲ「屬 專任八十一人」ニ、「技手 專

任三百十六人」ヲ「技手 專任二百五十四人」ニ改メ同項第二號

中「内務事務官 專任一人」ヲ削リ「土木事務官 專任三人」ヲ

「土木事務官 專任一人」ニ、「技師 專任四十九人」ヲ「技師

專任三十七人」ニ、「屬 專任七十五人」ヲ「屬 專任五十六

人」ニ、「技手 專任百十二人」ヲ「技手 專任九十七人」ニ、

同項第三號中「土木事務官 專任五人」ヲ「土木事務官 專任四

人」ニ、「技師 專任七十七人」ヲ「技師 專任五十八人」ニ、

「屬 專任百二人」ヲ「屬 專任八十一人」ニ、「技手 專任二

百十二人」ヲ「技手 專任百六十人」ニ改メ同項第四號中「内務

事務官 專任一人」ヲ削リ「技師 專任九人」ヲ「技師 專任六

人」ニ、「屬 專任八人」ヲ「屬 專任四人」ニ、「技手 專任十

六人」ヲ「技手 專任八人」ニ、同項第五號中「技師 專任六人」

ヲ「技師 專任四人」ニ、「屬 專任二人」ヲ「屬 專任一人」

内務省

ニ、「技手 専任十九人」ヲ「技手 専任十人」ニ改メ同項第四號ヲ第五號トシ第五號ヲ第六號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 土木事業助成ニ關スル事務ニ従事スル者

内務事務官 専任一人

土木事務官 専任三人 奏任

技師 専任七人

屬 専任五人

技手 専任十人

同條第二項中「十二人」ヲ「十一人」ニ改ム

第三條中「内務事務官 専任一人」ヲ削リ「技師 専任八人」ヲ

内務省

「技師 専任六人」ニ、「屬 技手」 専任十五人」ヲ「屬 技手」 専任九人」ニ改ム

第三條ノ三中「屬 技手」 専任四人」ヲ「屬 技手」 専任二人」ニ改ム

第三條ノ四第一項中「内務事務官 専任十五人 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得」ヲ「

内務事務官 専任九人」ニ、「内務理事官 専任三人」ヲ「内務理事官 専任二人」ニ、「屬 専任六十五人」ヲ「屬 専任三十

五人」ニ改ム

第四條中「内務事務官 専任五人」ヲ「内務事務官 専任三人」

ニ、「屬 専任二十四人」ヲ「屬 専任十六人」ニ改ム

ニ、「屬 専任二十四人」ヲ「屬 専任十六人」ニ改ム

ニ、「屬 専任二十四人」ヲ「屬 専任十六人」ニ改ム

ニ、「屬 専任二十四人」ヲ「屬 専任十六人」ニ改ム

第四條ノニヲ削ル

第五條中「技師 専任二人」ヲ「技師 専任一人」ニ、「技手 専任十八人」ヲ「技手 専任十五人」ニ改ム

第六條中「内務事務官 専任二人」ヲ「内務事務官 専任一人」

ニ、「屬 専任四人」ヲ「屬 専任三人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄臨時内務省及神祇院

ニ左ノ職員ヲ置ク

一、大臣官房ニ屬スル者

内 務 省

屬 専任二人

二、國土局、土木出張所又ハ土木試験所ニ屬スル者

内務事務官 専任二人

土木事務官 専任二人 奏任

技 師 専任五十人 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

屬 専任四十八人

技 手 専任九十三人

三、警保局ニ屬スル者

内務事務官 専任八人 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

内務理事官 専任一人

屬 專任二十六人

四、神祇院ニ屬スル者

技師 專任一人

技手 專任二人

五、地方局ニ屬スル者

内務事務官 專任一人

屬 專任一人

内務省

理由

第一條、第四條ノ二

豫算改訂ニ伴ヒ内務省官制ニ組替フルノ要アルニ依ル

第一條ノ二、第三條ノ三、第四條、第六條

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基

キ人員ヲ減少セントスルニ依ル

第二條、第三條

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基

キ人員ヲ減少セントスルト豫算改訂ニ伴フ人員ノ組替及昭和十

七年度經費節減ニ伴フ減員ヲ整理セントスルニ依ル

内務省

第三條ノ四、第五條

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基

キ人員ヲ減少セントスルト昭和十七年度經費節減ニ伴フ減員ヲ

整理セントスルニ依ル

勅令第 號

神祇院官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「事務官 専任二人」ヲ「事務官 専任一人」ニ、
「祭務官 専任二人」ヲ「祭務官 専任一人」ニ、「屬 専任十
七人」ヲ「屬 専任十一人」ニ、「考證官補 専任四人」ヲ「考
證官補 専任二人」ニ、「技手 専任二人」ヲ「技手 専任一人」
ニ改ム

同條第二項ヲ第三項トシ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

局長總務局長ハ副總裁ヲシテ之ヲ兼ネシム

附 則

内 務 省

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第二條第二項ノ規定ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄臨時神祇院ニ左ノ職

員ヲ置ク

事務官	専任一人
祭務官	専任一人
屬	専任五人
考證官補	専任一人
技手	専任一人

理 由

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基キ
人員ヲ減少セントスルト昭和十七年度經費節減ニ伴フ減員ヲ整理
セントスルニ依ル

内 務 省

勅令第 號

警察講習所官制中左ノ通改正ス

第二條中「書記 專任二人」ヲ「書記 專任一人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理由

経費節減ニ伴フ減員ヲ整理セントスルニ依ル

内務省

勅令第

號

神宮司廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「技手 專任十三人」ヲ「技手 專任十一人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄臨時神宮司廳ニ左ノ
職員ヲ置ク

技

手

專任二人

内務省

理 由

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基キ
人員ヲ減少セントスルニ依ル

内 務 省

勅令第 號

神宮皇學館官制中左ノ通改正ス

第二條中「教授 專任六人」ヲ「教授 專任五人」ニ、「書記 專任三人」ヲ「書記 專任二人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄臨時神宮皇學館ニ左ノ職員ヲ置ク

教 授 專任一人

書 記 專任一人

内 務 省

理 由

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基キ
人員ヲ減少セントスルニ依ル

内 務 省

勅令第

號

明治神宮外苑管理署職員制中左ノ通改正ス

第二條中「主事補 專任五人」ヲ「主事補 專任四人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄臨時明治神宮外苑管理署ニ左ノ職員ヲ置ク

主事補

專任一人

内務省

理由

行政簡素化等ニ關スル閣議決定（昭和十七年六月十六日）ニ基キ
人員ヲ減少セントスルニ依ル

内務省

以下各考

内務省

一、行政簡素化實施大綱

(一) 部局ノ廢合

局内課ノ廢止三アルモ部局ノ廢止統合等無シ

(二) 行政簡素化實施ニ依ル減員調

區分	中央官廳							作業廳	計
	勅任	奏任	奏任待遇	判任	判任待遇	勅託	人員		
中央官廳	四	六〇	一五八	一	一九	二	七三	二四	八四四
作業廳			八四	一〇	七	一	五一	二六	一一〇
計	四	六〇	二四二	一	二六	三	一二四	八四	八三四

(三) 減員數ノ所定率ニ違セザル理由

(1) 神宮司廳職員中左記ノ者ハ國家ノ重儀タル神宮祭祀ニ奉仕スル者ナルヲ以テ減員スルコトヲ得ズ

勅任 二 (大宮司一、少宮司一)

奏任 一 (勸宣一)

判任 六〇 (權勸宣二〇、宮掌四〇)

判任待遇 九 (伶人九)

(2) 神宮神部署職員中左記ノ者ハ神宮ニ於ケル臣民奉養ノ祭祀ヲ掌ル者ナルヲ以テ減員スルコトヲ得ズ

奏任待遇 二 (神部二)

判任待遇 四〇 (神部補二八、伶人一二)

(四) 地方廳關係ハ別途考慮スルモノトス

三行政事務系化實施ニ依ル減員總括表

中央官廳

計	分				官制定員	實質上ノ定員	減員數 (三割)	減員數	減員後ノ定員
	任	任	託	人					
一、七九一	一五	二〇〇	五六四	二四四	一七五四	一五	二〇〇	一七五四	
	四	六〇	一五八	七三	三二五	四	六〇	三二五	
	一五	二〇〇	五二七	二四四	一七五四	一五	二〇〇	一七五四	
	四	六〇	一五八	七三	三二五	四	六〇	三二五	
	一	一四〇	三六九	一七一	一、二二九	一	一四〇	一、二二九	
	一	一四〇	三六九	一七一	一、二二九	一	一四〇	一、二二九	

(二) 作業廳

計	分				官制定員	實質上ノ定員	減員數 (三割)	減員數	減員後ノ定員
	任	任	託	人					
三、二八五	一三	二四二	九七六	三一二	三、二〇四	一三	二四二	三、二〇四	
	一	二三八	八九九	五一二	三、二〇四	一	二三八	三、二〇四	
	一	二三八	八九九	五一二	三、二〇四	一	二三八	三、二〇四	
	一	二三八	八九九	五一二	三、二〇四	一	二三八	三、二〇四	
	一	二三八	八九九	五一二	三、二〇四	一	二三八	三、二〇四	
	一	二三八	八九九	五一二	三、二〇四	一	二三八	三、二〇四	

備	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬
備	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬	屬
人員	託	任	任	任	任	人員	託	手		
二四四	七〇四	六四	五六四	二〇〇	一五	一、七九一	二四四	七〇四	六四	二
二四四	七〇四	六四	五二七	二〇〇	一五	一、七五四	二四四	七〇四	六四	二
七三	二一一	一九	一五八	六〇	四	五二五	七三	二一一	一九	一
一七一	四九三	四五	三六九	一四〇	一一	一、二二九	一七一	四九三	四五	一

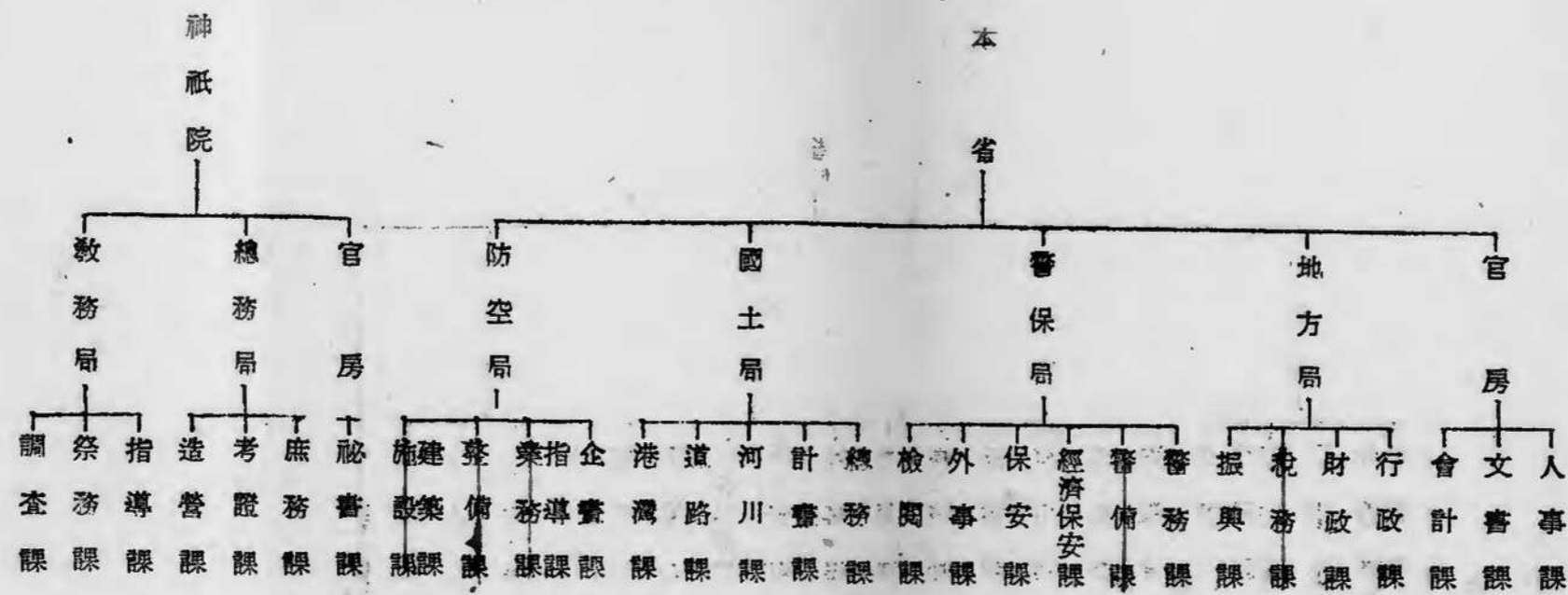
考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考
考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考
任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任
二	二	四	二七	二	二	二	二	一	一	二
二	二	三	二五	二	二	二	二	一	一	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	一八	二	二	二	一	一	一	二

神官神部署 奏任待遇	神 部	判任待遇	神部補 人	伶人	神官皇學館 奏任	館長	教授	學生主事	教諭	判任	助教
二	二	四〇	二八	一	九	六	一	二	八	二	二
二	二	四〇	二八	一	九	六	一	二	八	二	二
二	二	四〇	二八	一	八	五	一	二	七	二	二

小官司 奏任	初宜	衛士長	技師	判任	權宜	官掌	衛士副長	技手	判任待遇	伶人	衛士	森林監守
一	一	二	七	二	〇	〇	二	一	一〇	九	三	五
一	一	二	七	二	〇	〇	二	一	一〇	九	三	五
一	一	二	七	二	〇	〇	二	一	一〇	九	三	五
一	一	二	七	二	〇	〇	二	一	一〇	九	三	五

計	勅任	奏任	奏任待遇	判任	判任待遇	處託	展員	備員	管	明	治	神	宮	外	苑	署	記	論
三、二八五	一三	二四二	五	九七六	一五六	七六	一、三〇五	五二二	三	一	一	一	三	三	三	三	三	
三、二〇四	一三	二三八	五	八九九	一五六	七六	一、三〇五	五二二	三	一	一	一	三	三	三	三	三	
三〇九	一	二四	一	八四	一〇	七	一三三	五一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二、八九五	一三	二一四	五	八一五	一四六	六九	一、一七二	四六一	三	一	一	一	三	三	三	三	三	
三、二八五	一三	二四二	五	九七六	一五六	七六	一、三〇五	五二二	三	一	一	一	三	三	三	三	三	
三、二〇四	一三	二三八	五	八九九	一五六	七六	一、三〇五	五二二	三	一	一	一	三	三	三	三	三	
三〇九	一	二四	一	八四	一〇	七	一三三	五一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二、八九五	一三	二一四	五	八一五	一四六	六九	一、一七二	四六一	三	一	一	一	三	三	三	三	三	

三行政簡素化實施後ノ部局課一覽表



裏面白紙

第一詳計

技手	属	技師	未事務官	事務官	書記官	新技師	新技監
三〇九	一〇一	一〇〇	六	二	一	六	一
▲三一	▲九	▲一					
二三八	九二	九九	六	二	一	六	一
二三六	六二	八一	五	二	一	五	一
▲一五九	▲三九	▲二二	▲一			▲一	
二三六	六一	八一	五	二	一	五	一
二五四	八一	八五	五	三	一	五	一

未事務官一
技師七
事務官四
書記官七

新現員二〇名

技手	屬	技師	土木事務官	勅技師	第三節計
二〇八	一〇一	七一	四	四	
八二八	八二一	六一	三一	四	
△△ 三一五	△△ 一五五	△△ 二一五			
一六〇	八一	五四	四	四	

三六、三九、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

新設係令一知加。

技手	屬	技師	臺灣緊急地務
八	四	二	
八	四	二	
八	四	二	
△	△	△	
六	三	一	

技手	屬	技師	滿洲帶遺骸費
三〇	一三	一〇	
三〇	一三	一〇	
二八	一〇	三九	
△△ 七一	△△ 二一	△ 二	
三一	八二	七一	
二二	一〇	八	

技手	屬	技師	土木事務官	勅技師	臺灣改良費	賞目
一七〇	八四	五九	四	四		十六年度十七年度官制定員豫算裁員
一七〇	八四	五九	四	四		差引増減官制定員
一五二	六一	四九	三一			右中央三割分左作業一割分
△△ 二四	△△ 一四	△△ 二四				改正官制
一三二	六八	四六	四	四		備考

第三條ノ二

費目	十六年度	十七年度	差引	右口	左口	差引	官制	備考
神官関係施設増費								
事務官	一			一			一	
理事官	一			一			一	
技師	二			二			二	
属	三			三			二	
技手	四			四			四	

第三條ノ三

技 手	属	技 師	事 務 官	地方 計畫 調査	責 任 目
二	二	一	一		十六年度 官制変更
					十七年度 職員減員
					差引増員
二	二	一	一		右中央 三副令 左作業 一副令
					差引官制
一	一	一	一		正定員
					備
					老ノ

新規費目		十六年度		十七年度		十八年度	
賞目	十六年度 官制定員	十七年度 算算員	差引増減 官制定員	右中央三割分	改差引 定員	一	一
土木事業助費							
事務官	一		一	一		一	一
土木事務官	三		三	三		三	三
技師	五		四	四		六	六
屬	一〇		九	九		五	五
技手	八		六	六		一〇	一〇

矢方

197		87						定員
技	屬	技	未	事	書	勅	技	
年		師	事務官	務官	記官	任技師	監	
57	22	14	1	2	1	1	1	号一
12	20	11	2			1		号二
20	21	11	1					号三
5	3	2		1				号四
10	7	6						号五
16	9	14	3	1				号六
6	4	6		1				号七
2	2	1		1				号八
1	6	3			2	1		号九
109	88	68	7	6	3	3	1	計
67		33						定員
9	8	7	1			1	号一	
3	9	5	1				号二	
15	5	5					号三	
3		2		1			号四	
2		2					号五	
6	4	7					号六	
1	1			1			号七	
39	28	28	2	2		1	計	
		$\frac{261}{17} = 15.35$						

事務官

技 年	属	技 師	理 事 官	主 事 官	事 務 官	助 任 技 師	(出張所)				
							一	二	三	四	五
241	90	55	.	6	.	5	1	1	1	1	1
94	46	32	1	1	1	1	1
188	136	60	.	3	.	4	1	1	1	1	1
6	2	5	.	.	.	1					
2					
4	3	2	1	.	1	.					
<hr/>											
135	201	174	1	2	1	10					
<hr/>											
	756			204							
<hr/>											
15	3	2					
6	1	2					
33	15	12					
.	1					
<hr/>											
	20	21									
<hr/>											
	74										

物
得
向
減
多
早
日
以
内
得

書 次 書	属 ノ	扱 師	理 車 良	事 め 書	
-	八	-	=	三	正 上 書 (石 の 上 書 封)
	八		-	五	正 上 書 (計 帳 簿 三 年 の 四 月)
	八			二	正 上 書 (一 回 書 一)
-	四	-	三	一	計

物
得
向
減
多
早
日
以
内
得
()

裏
面
白
紙

斗	官	内務省	印刷費	斗	地方
	官	内務省	印刷費	斗	
	書記官	1	1		
	事務官	2	2		
	理事官	1	1		
	予	1	1		
	斗	1	1		

大日本帝國政府

(折上り圖定規格B5一八二×二五五紙)

技 手	屬	判 考 證 官 補 任	祭 務 官	奉 務 官 任	局長
一	五	一七	一	一	一
總務局	總務局	總務局	教務局	教務局	總務局
一	三	一	一	一	一
神祇院官制第二條	神祇院官制第二條	神祇院官制第二條	神祇院官制第二條	神祇院官制第二條	神祇院官制第二條
一	三	一	一	一	一

神 祇 院 任	判 任 技 手	文 書 課	會 計 課	地 方 局	警 保 局	國 土 局	防 空 局
一	一五二	四	七	一六	四四	六七	一三
內務省官制第十二條	內務省官制第十二條	內務省官制第十二條	內務省官制第十二條	內務省官制第十二條	內務省官制第十二條	內務省官制第十二條	內務省官制第十二條
一	二二	七	一五	一一	八八	二七	三

急 昭和十七年八月二十六日

大臣了

次官

別当

又言

有

子

議案

造神宮使廳官制中改正、要アリ別

紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

年 月 日

内務省

大臣

内閣總理大臣花

昭 和 十 七 年 八 月 二 十 六 日

大臣了

次官

副次官

文書課長

内務省

右大臣

左大臣

八廿之

二三四號

請 議 案

造 神 宮 使 廳 官 制 中 改 正 案 要 案 列

紙 勒 令 案 列 提 出 ス

右 閣 議 ヲ 請 フ

年 月 日

内 務 省

大 臣

内 閣 總 理 大 臣 亮

勅令第 号

造神宮使廳官制中左ノ通改正ス

第 五 条 一 中 「 二 人 」 シ 「 一 人 」 ニ 「 神 祇 院 局

長 」 ヲ 「 神 祇 院 院 務 向 長 」 ニ 改 ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

めくれず

理由

行政官素に音読ニ伴ヒ神祇院惣務
局長ハ神祇院別惣裁ヲシテ之ヲ兼ス
ルニトナリタヘニ依ル

内務省

久

朱書 今回、以ニテ子又

遣神官使廳官制抄

ヲ由テ 別使一人 勅任トス 神祇院 別惣裁

ヲニテ之ヲ兼スルニ使、事、以テ佐テ使事故

アルトキハ其ノ職以テ代理ス

ヲ由テニ 理事一人 勅任トス 神祇院 別惣裁

長ヲニテ之ヲ兼スルニ使、及別使、命ヲ兼テ

船中、事、以テ兼テ理事ス

内務省

裏面あり

昭和十七年九月十一日
 大臣
 次官
 内務省
 長官
 内務省
 長官

内務省官制
 改正案
 別紙
 勅令
 案
 提出
 中
 注
 議
 案

大臣

廢

昭和十七年九月十一日
長内務大臣
（印）

大臣

次官

請議 奉

内務省官制及内務部同路時職自身以是制中改
正ノ要ニリテ紙勅令キリ提云ス
右同議ヲ請フ

年 月 日

大臣

裏面あり

内閣總理大臣宛

裏面白紙

勅令第

号

内務省官制中庄一通改正ス

第一条ニ左ノ一項ヲ加フ

内務大臣ハ朝鮮總督府ハ口書總督府又樺

太廳ニ附之事務ヲ統理ス

第三条中「十四人」ヲ「十九人」ニ改ム

第四条中「四」ヲ「五」ニ「行」ヲ「行」ニ改ム
「官」ヲ「官」ニ改ム

十ニ「十四人」
白紙中

内務省

裏面白紙

第八章ノニ 並任理向ニ於テ、朝鮮總督府、山口海防總督

府又障不慮ニ防之事ハナラズ

中ノ事ハ三人
内ノ事ハ三人

第十條中「内務省ハ官二十人」ヲ「内務省ハ官二十三」ニ

「内務理事ハ官五人」ヲ「内務理事ハ官七人」ニ改ム

第十一條第一項中「二十五人」ヲ「二十七人」ニ、同條第二項中「

百九十一人」ヲ「二百十一人」ニ改ム

如所リハ
内務理事ハ三人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

裏面白紙

勅令第

号

内務部内務時裁員令 第百九号 昭和十一年八月二十一日

第七号 朝鮮總督府、台湾總督府、及青島、旅順、

支那各地方官制事務官、及地方官制事務官、

理官、

事務官、

理官、

庶務官、

事務官

本令の施行に必要とする

附 則

4
5
6

規格 H.5

70

裏面白紙

内外地行政一之化之池、為江心、要了ルニ依ル

理
由

内
務
省

規格 11-5

71

裏面白紙

檢
秘

内務省官制中改正案

内務省官制中左ノ通改正ス

第三條中「十五人」ヲ「二十人」ニ改ム

第十條中「内務事務官二十二人」ヲ「内務事務官三十人」ニ、「内

務理事官八人」ヲ「内務理事官十人」ニ改ム

第十二條第一項中「技師二十五人」ヲ「技師二十七人」ニ、同條第

二項中「二百四十七人」ヲ「二百七十五人」ニ改ム

内務省

左
 九
 八
 一

〇
 二

内務省移管取員配置表

區別局	長書記官	事務官	技師	理番官	雇
大臣官房	1	1	1	1	2
管理局	1	1	1	1	1
總務課	1	1	1	1	5
民政課	1	1	1	1	5
財政課	1	1	1	1	5
殖産課	1	1	1	1	5
經濟課	1	1	1	1	5
計	1	5	5	5	28

内務省

備考

右表ノ外雇獨託ヲ道ジ五八入アリ
 樞太ニ於ケル開發ノ現状竝ニ財政ノ特殊事情ニ鑑ミ國費ヲ以テ
 樞太拓殖費一假稱一ヲ設ケルニト

裏面白紙

内沙者=初音、職名=潤

一、總数

尚書

一

(月主子等一)

書長

五

(月主子等五)

車功

八

(月主子等八)

理事

二

(月主子等二)

技師

二

(月主子等二)

編者

二

(月主子等二)

二、経費

書長

五

(月主子等五)

車功

八

(月主子等八)

理事

二

(月主子等二)

技師

二

(月主子等二)

編者

二

(月主子等二)

内沙者=初音、職名=潤

三、臨時職員（拓務部内臨時職員之待遇は別ニ條々ニシ）

第一号	第二号	第三号	第四号	第五号	第六号	第七号	第八号	第九号	第十号
事務長	理事長	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／

裏面白紙

昭和十七年八月二十四日

大臣

大臣

會計課

請議

内務省官制中改正ノ要アリ別紙初

令案ヲ提ス

右開議ヲ請フ

年 月 日

内務省
大臣

内閣總理大臣 亮

めくれず

計
内務省
房合第116號

昭和十七年八月二十四日

大臣

大臣

會計課

請議案

内務省官制中改正ノ要アリ別紙勅

令案ヲ提ス

右開議ヲ請フ

年 月 日

内務省

大臣

内閣總理大臣 亮

めくれず

勅令第 號

内務省官制中左ノ通改正ス

第十二條ノニヲ第十二條ノ三トシ以下順次繰下ゲ第十二條ノ次ニ
左ノ一條ヲ加フ

第十二條ノ二 書記官及監査官中 四人ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理 由

職員優遇ノ爲書記官、監査官ヲ通ジ四名ヲ勅任ニ昇格セシメント
スルニ依ル

内 務 省

昭和十七年八月二十六日

了



請議案

内務省官制及内務部内臨時職員
并設置制中改正ノ要アリ別紙勅令
案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

年 月 日

内務省

大臣

内閣總理大臣 亮

昭和十七年八月二十六日

了



請議案

内務省官制及内務部内臨時職員
并設置制中改正ノ要ヲ別紙勅令
案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

内務省

年 月 日

大臣

内閣總理大臣 亮

勅令第 號

内務省官制中左ノ通改正ス

第十條中「専任内務理事官五人」ヲ「専任内務理事官十三人」ニ改

ム

第十二條第二項中「百九十一人」ヲ「百八十三人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理由

職員優遇ノ爲關八名ヲ理事官ニ昇格セシメントスルニ依ル

内務省

勅令第 號

内務部内臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第二條第一項第一號中「土木事務官 專任五人」ヲ「土木事務官

專任七人」ニ、「屬 專任八十一人」ヲ「屬 專任七十九人」ニ、同

項第二號中「土木事務官 專任一人」ヲ「土木事務官 專任二人」

ニ、「屬 專任五十六人」ヲ「屬 專任五十五人」ニ、同項第三號

中「土木事務官 專任四人」ヲ「土木事務官 專任五人」ニ、「屬

專任八十一人」ヲ「屬 專任八十人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理由

第二條

職員優遇ノ爲屬面人ヲ土木事務官ニ昇格セシメントスルニ依ル

内務省

六

昭和十七年十一月一日
鹿野府行政官署
鹿野府行政官署
鹿野府行政官署

裏面白紙

勅令第七百零八號

昭和二十七年十一月廿二日

第一條 警視廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「警視 專任八十五人」ヲ「警視 專任七十九人」ニ、「警部 專任百九十四人」ヲ「警部 專任百五十四人」ニ、「屬 專任二百八十八人」ヲ「屬 專任二百六十人」ニ、「消防士 專任四十八人」ヲ「消防士 專任四十五人」ニ、「消防機關士 專任十七人 判任」ヲ「消防機關士 專任 十五人 判任」ニ、「技手 專任三十九人」ヲ「技手 專任二十五人」ニ改メ「消防司令 專任十一人 奏任」ノ次ニ「職業官 專任九人 奏任」ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

第一條ノ二 前條ノ定員外ニ於テ警視廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務官 專任 一人

技師 專任 二十九人以内

技屬 專任 四百三十六人以内

第三條中「特ニ厚生大臣ノ指定スル衛生事務」ヲ削リ「竝ニ石油ノ消費規正ニ關スル事務」ノ上ニ、「職業紹介法施行ニ關スル事務、國民勞務手帳法施行ニ關スル事務、國民職業能力申告令施行ニ關スル事務、國民徵用令施行ニ關スル事務（國民徵用扶助授護ニ關スル事務ヲ除ク）、勞務調整令施行ニ關スル

事務、國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事務ヲ加フ

第八條第一項中「警務部長タル部長」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ部長」ニ、同條第二項中「警務部長タル部長」ヲ「部長」ニ改ム

第十二條中「保安衛生部」ヲ「保安部」ニ改メ同條保安衛生部ノ部中第三號ヲ削リ第四號ヲ第三號トシ以下順次繰上ゲ左ノ六號ヲ加フ

二十 職業紹介法施行ニ關スル事項

二十一 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項

二十二 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項

二十三 國民徵用令施行ニ關スル事項（國民徵用扶助援護ニ關スルモノヲ除ク）

二十四 勞務調整令施行ニ關スル事項

二十五 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項

第十二條ノ二中「保安衛生部」ヲ「保安部」ニ改ム

第十七條ノ二 職業官ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ヲ掌ル

第二十二條ノ二 職業官補ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ニ從事ス

第三十五條 警視廳管内ニ國民職業指導所ヲ置ク其ノ位置、名稱、管轄區域、事務取扱範圍及職員ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

國民職業指導所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ警視總監ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一 職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項

二 職業轉換ノ指導ニ關スル事項

三 國民勞務手帳ニ關スル事項

四 國民職業能力ノ登錄ニ關スル事項

五 國民徵用ニ關スル事項

六 勞務調整ニ關スル事項

七 國民勤勞報國協力ニ關スル事項

警視總監必要アリト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ國民職業指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

國民職業指導所出張所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ警視總監ノ定ムル

所ニ依リ出張所所管ノ事務ヲ處理ス

國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ警視總監之ヲ定ム

聯絡委員ノ選任及解任ハ警視總監之ヲ行フ

聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導所ノ業務ヲ補助ス

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス

第二條 北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「部長」專任六人 奏任「官房長」專任一人 奏任「部長」專任四人 奏任「事務官」專任二十四人「技師」專任二十三人「警視」專任十九人「警視」專任十八人「技師」專任二十二人「警部」專任七十一人「技手」專任九十一人「技手」專任六十五人ニ改メ「小作官」專任一人

奏任「次ニ職業官」專任七人 奏任「小作官補」專任一人 判任「次ニ職業官補」專任三十

六人 判任「ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル」

第一條ノ二 前條ノ定員外ニ於テ北海道廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務官 專任 三十六人以内

技師 專任 九十六人以内

屬手 專任 九百四十四人以内

第八條第一項中「總務部長タル部長」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ部長」ニ、同條第二項中「總務部長タル部長」ヲ「部長」ニ改ム

第十條中「六部」ヲ「四部」ニ、「總務部」ヲ「內政部」ニ、「土木部」ヲ「拓殖部」ニ改ム

第十一條 長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二 官印廳印ノ管守ニ關スル事項

三 褒賞ニ關スル事項

四 文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項

五 統計ニ關スル事項

六 北海道會、北海道參事會及北海道地方費ニ關スル事項

七 道廳ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項

八 地方費經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項

- 九 道廳所管ノ國有財産及物品ニ關スル事項
- 十 地方費經濟ニ屬スル財産及物品ニ關スル事項
- 第十二條 第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム
- 内政部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 神社ニ關スル事項
- 二 教育學藝ニ關スル事項
- 三 宗教ニ關スル事項
- 四 議員選舉ニ關スル事項
- 五 支廳及市町村其ノ他公共團體ニ關スル事項
- 六 兵事ニ關スル事項
- 七 國民貯蓄ノ獎勵ニ關スル事項
- 八 社會事業ニ關スル事項
- 九 移植民ニ關スル事項
- 十 地代家賃統制令施行ニ關スル事項

- 十一 國民徵用扶助援護ニ關スル事項
- 十二 衛生ニ關スル事項
- 十三 國民體力法施行ニ關スル事項
- 十四 國民健康保險法施行ニ關スル事項
- 十五 史蹟名勝天然記念物ニ關スル事項
- 十六 他ノ主管ニ屬セザル事項
- 同條第四項及第五項ヲ左ノ如ク改正ス
- 振興部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 土木ニ關スル事項
- 二 水陸運輸ニ關スル事項
- 三 水面埋立ニ關スル事項
- 四 殖民地ノ選定計畫其ノ他殖民ニ關スル事項
- 五 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
- 六 地籍ニ關スル事項

- 七 官有地管理ニ關スル事項
- 八 土地收用ニ關スル事項
- 九 森林原野ニ關スル事項

同條第六項中第三號及第十九號ヲ削リ第四號乃至第十八號ヲ各一號宛、第二十號乃至第二十三號ヲ各二號宛繰上ゲ左ノ六號ヲ加フ

- 二十二 職業紹介法施行ニ關スル事項
- 二十三 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項
- 二十四 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項
- 二十五 國民徵用令施行ニ關スル事項(國民徵用扶助援護ニ關スルモノヲ除ク)
- 二十六 勞務調整令施行ニ關スル事項
- 二十七 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項
- 第十五條ノ二、第二十三條ノ二及第二十三條ノ三中「學務部ニ屬シ」ヲ削ル
- 第二十四條ノ三 職業官ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ヲ掌ル
- 第二十九條ノ六 職業官補ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ニ從事ス

第十三條 官房長ハ長官ノ命ヲ承ケ長官官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
部長ハ長官ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
第十四條中「部長」ノ上ニ「官房長又ハ」ヲ加フ

第三十八條 北海道廳管内ニ國民職業指導所ヲ置ク其ノ位置、名稱、管轄區域、事務取扱範圍及職員ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

國民職業指導所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

- 一 職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項
 - 二 職業轉換ノ指導ニ關スル事項
 - 三 國民勞務手帳ニ關スル事項
 - 四 國民職業能力ノ登録ニ關スル事項
 - 五 國民徵用ニ關スル事項
 - 六 勞務調整ニ關スル事項
 - 七 國民勤勞報國協力ニ關スル事項
- 長官必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ國民職業指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得
國民職業指導所出張所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ長官ノ定ムル所ニ依リ出張所所管ノ事務ヲ處理ス

國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ長官之ヲ定ム

聯絡委員ノ選任及解任ハ長官之ヲ行フ

聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導所ノ業務ヲ補助ス

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス

第三條 地方官官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「書記官 奏任」ヲ「官房長 奏任」ニ、「地方事務官 專任八百七十五人」ヲ「地方事務官 專任八百十五人」ニ、「地方祭務官 專任十三人」ヲ「地方祭務官 專任十人」ニ、「地方教學官 專任七人」ヲ「地方教學官 專任五人」ニ、「地方警視 專任三百五十六人」ヲ「地方警視 專任三百三十四人」ニ、「地方小作官 專任三十七人 奏任」ヲ「地方小作官 專任 三十五人 奏任」ニ、「地方職業官 專任百三十三人 奏任」ニ、「地方技師 專任四百二十六人」ヲ「地方技師 專任四百十人」ニ、「視學 專任三十六人」ヲ「視學 專任三十四人」ニ、「屬 專任四千六百二十九人」ヲ「屬 專任三千七百八十三人」ニ、「祭務官補 專任四十六人」ヲ「祭務官補 專任三十七人」ニ、「警部 專任千四百五十二人」ヲ「警部 專任千二百八十七人」ニ、「小作官補 專任三十七人 判任」ヲ「小作官補 專任 二十九人 判任」ニ、「職業官補 專任八百三十五人 判任」ニ、「技手 專任千八十六人」ヲ「技手 專任八百十二人」ニ、「通譯 專任十三人」ヲ「通譯 專任六人」ニ改メ同條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

官房長ハ各府縣專任一人、部長ハ各府縣ヲ通ジテ專任百二十七人ヲ以テ定員トス

第二條 前條ノ定員外ニ於テ府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方事務官 專任 千六十二人以内
 地方技師 專任 三千九百八十八人以内
 視學 專任 三百五十人以内
 屬手 專任 二萬九千七百三十七人以内

第三條中「書記官」ヲ「官房長、部長」ニ改ム

第十條第一項中「總務部長タル書記官」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ部長」ニ、同條第二項中「總務部長タル書記官」ヲ「部長」ニ改ム

第十二條第一項中「四部」ヲ「二部」ニ、「總務部」ヲ「內政部」ニ改メ同條第二項中「土木部」ノ上ニ「經濟部」ヲ加フ

第十三條 知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
- 二 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

- 三 褒賞ニ關スル事項
四 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項
五 統計ニ關スル事項
六 會計ニ關スル事項
七 府縣ノ行政ニ關スル事項
第十四條 内政部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 神社ニ關スル事項
二 教育學藝ニ關スル事項
三 宗教ニ關スル事項
四 議員選舉ニ關スル事項
五 市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項
六 兵事ニ關スル事項
七 國民貯蓄ノ獎勵ニ關スル事項
八 社會事業ニ關スル事項

- 九 移植民ニ關スル事項
十 地代家賃統制令施行ニ關スル事項
十一 國民徵用扶助援護ニ關スル事項
十二 衛生ニ關スル事項
十三 國民體力法施行ニ關スル事項
十四 國民健康保險法施行ニ關スル事項
十五 史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
十六 農工商森林水産ニ關スル事項
十七 小作關係其ノ他農地ノ利用關係ノ爭議ノ調停ニ關スル事項
十八 度量衡ニ關スル事項
十九 土木ニ關スル事項
二十 土地收用ニ關スル事項
二十一 水陸運輸ニ關スル事項
二十二 水面埋立ニ關スル事項

二十三 他ノ主管ニ屬セザル事項

東京府ノ内政部ニ於テハ前項ノ外防空ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條中第三號及第十九號ヲ削リ第四號乃至第十八號ヲ各一號宛、第二十號乃至第二十三號ヲ各二號宛繰上ゲ左ノ六號ヲ加フ

二十二 職業紹介法施行ニ關スル事項

二十三 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項

二十四 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項

二十五 國民徵用令施行ニ關スル事項(國民徵用扶助援護ニ關スルモノヲ除ク)

二十六 勞務調整令施行ニ關スル事項

二十七 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項

第十五條及第十五條ノ二ヲ削リ第十六條ヲ第十五條トシ第十六條ノ二ヲ第十六條トス

第十七條 經濟部ニ於テハ第十四條第十六號乃至第二十二號ノ事務ヲ掌ル但シ土木部ヲ置ク府縣ノ經濟部ニ於テハ同條第十六號乃至第十八號ノ事務ヲ掌ル

土木部ニ於テハ第十四條第十九號乃至第二十二號ノ事務ヲ掌ル

衛生部ニ於テハ第十四條第十二號ノ事務ヲ掌ル

第十八條 土木部及衛生部ノ部長ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十八條ノ二 官房長ハ知事ノ命ヲ承ケ知事官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス部長ハ知事ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十九條中「部長」ノ上ニ「官房長又ハ」ヲ加フ

第二十二條ノ二乃至第二十二條ノ四中「學務部ニ屬シ」ヲ削ル

第二十四條ノ二 地方職業官ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ヲ掌ル

第二十九條ノ二 職業官補ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ニ從事ス

第三十二條ノ二 各府縣ニ青年教育官ヲ置クコトヲ得

青年教育官ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ青年學校教育其ノ他社會教育ニ關スル視察指導其ノ他ノ事務ヲ掌ル

第四十八條ノ三 各府縣管内ニ國民職業指導所ヲ置ク其ノ位置、名稱、管轄區域、事務取扱範圍及職員ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

國民職業指導所長ハ地方職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務

ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

- 一 職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項
 - 二 職業轉換ノ指導ニ關スル事項
 - 三 國民勞務手帳ニ關スル事項
 - 四 國民職業能力ノ登録ニ關スル事項
 - 五 國民徵用ニ關スル事項
 - 六 勞務調整ニ關スル事項
 - 七 國民勤勞報國協力ニ關スル事項
- 知事必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ國民職業指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得
- 國民職業指導所出張所長ハ地方職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ出張所所管ノ事務ヲ處理ス
- 國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ知事之ヲ定ム
- 聯絡委員ノ選任及解任ハ知事之ヲ行フ
- 聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導所ノ業務ヲ補助ス

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス

第四條 廳府縣臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條 警視廳及北海道廳ニ並ニ府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

警視廳	警視	專任	四人
	技師	專任	十人
	勞務官	專任	十一人 奏任
	職業官	專任	七人
	翻譯官	專任	一人 奏任
屬	技 下	專任	七十三人
警部	警部	專任	二十一人
職業官補	職業官補	專任	四百八十五人
北海道廳			
事務官	事務官	專任	十二人

警視	專任	一人
技師	專任	百三十七人 <small>内二人兼通ヲ勅任 ト爲スコトヲ得</small>
勞務官	專任	一人 奏任
職業官	專任	三人
屬手	專任	千六百五十五人
警部	專任	五人
小作官補	專任	二人
職業官補	專任	百九十三人
森林主事	專任	二百十二人 判任
河川監守	專任	三十六人 判任
府 縣		
地方事務官	專任	百三十五人
地方警視	專任	二十五人
地方技師	專任	百九十一人

地方小作官	專任	十一人
地方勞務官	專任	四十一人 奏任
地方職業官	專任	七十九人
地方翻譯官	專任	一人 奏任
屬手	專任	二千九百二十八人
警部	專任	百二十一人
小作官補	專任	三十一人
職業官補	專任	三千二百四人
通譯	專任	一人

前項ノ職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム
 北海道廳ノ職員中技師三人並ニ屬及技手ヲ通ジ七十三人ノ俸給、諸給及廳費ハ當分ノ内北海道地方
 費ノ負擔トス

當分ノ内北海道廳小作官及地方小作官並ニ小作官補ハ臨時命ヲ承ケ小作料統制令施行ニ關スル事務
 ヲ兼掌スルコトヲ得

警視廳勞務官、北海道廳勞務官及地方勞務官ハ上官ノ命ヲ承ケ重要事業場勞務管理令施行其ノ他工場事業場（鑛業及砂鑛業ニ關スルモノヲ除ク）ニ於ケル勞務管理ニ關スル事務ヲ掌ル

警視廳翻譯官及地方翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯ヲ掌ル

第二條 北海道廳管内須要ノ地ニ營林區署ヲ置ク

營林區署ノ名稱、位置及管轄區域ハ北海道廳長官之ヲ定ム

營林區署長ハ技師、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

北海道廳長官ハ築港又ハ治水工事ノ爲必要ニ應ジ管内ニ築港事務所又ハ治水事務所ヲ置クコトヲ得築港事務所長及治水事務所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ所主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

河川監守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ河川及其ノ附屬物保護ノ事務ニ從事ス

第三條 北海道廳及各府縣ニ物價調整官及物價調整官補ヲ置クコトヲ得

物價調整官ハ北海道廳事務官又ハ地方事務官ヲ以テ、物價調整官補ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ

承ケ物價調整及貯蓄獎勵ニ關スル事務ニ從事ス

第四條 乃至第三十六條ヲ削ル

第五條 都市計畫委員會官制中左ノ通改正ス

第八條第一項第二號中「總務部長」ヲ「內政部長」ニ、「府縣書記官」ヲ「府縣部長」ニ、「保安衛生部長」ヲ「保安部長」ニ改ム

第十七條第一項中「事務官 專任三十人以内」ヲ「事務官 專任二十四人以内」ニ、「技師 專任九十九人以内」ヲ「技師 專任七十九人以内」ニ、「書記 專任百二十一人以内」ヲ「書記 專任九十八人以内」ニ、「技手 專任三百二十二人以内」ヲ「技手 專任二百六十二人以内」ニ改ム

第六條 防疫職員官制中左ノ通改正ス

第一條中「防疫官 專任八人」ヲ「防疫官 專任四人」ニ、「防疫官補 專任二人」ヲ「防疫官補 專任一人」ニ改ム

第三條第二項中「八十人」ヲ「六十五人」ニ改ム

第七條 臨時海港檢疫所官制中左ノ通改正ス

第四條第二項中「五人」ヲ「四人」ニ改ム

第五條第一項中「警察部長」ヲ「内政部長」ニ改ム

第八條 家畜防疫職員制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「五十人」ヲ「四十五人」ニ、同條第二項中「五人」ヲ「四人」ニ改ム

第九條 教員保養所令中左ノ通改正ス

第三條中「醫員」(專任二十三人以内)ヲ「醫員」(專任二十一人以内)ニ、「調劑員」(專任十二人以内)ヲ「調劑員」(專任二人以内)ニ改ム

「看護婦長」(專任十一人以内)ニ、「看護婦長」(專任十二人以内)ヲ「看護婦長」(專任十一人以内)ニ、「書記」(專任十四人以内)ヲ「書記」(專任十三人以内)ニ改ム

第十條 高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

「警視廳部長」警務部長
タルモノ

第八條中北海道廳部長、總務部長、土木ヲ削ル

各府縣書記官、地方官官制第一條第三項ニ掲ク
ル總務部長、警察部長タルモノ

第十四條中「北海道廳部長」北海道廳官房長
各府縣書記官、北海道廳部長、北海ニ改ム
各府縣官房長、各府縣官房長

第十五條中「警視廳勞務官」ノ次ニ「警視廳職業官」ヲ、「北海道廳勞務官」ノ次ニ「北海道廳職業官」ヲ、

「地方勞務官」ノ次ニ「地方職業官」ヲ加フ

別表第一表警視廳ノ部中部長、警務部長ノ項ヲ削ル

同表北海道廳ノ部中部長、總務部長、土木ノ項ヲ削ル

同表府縣ノ部中書記官、地方官官制第一條第三項ニ掲クノ項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

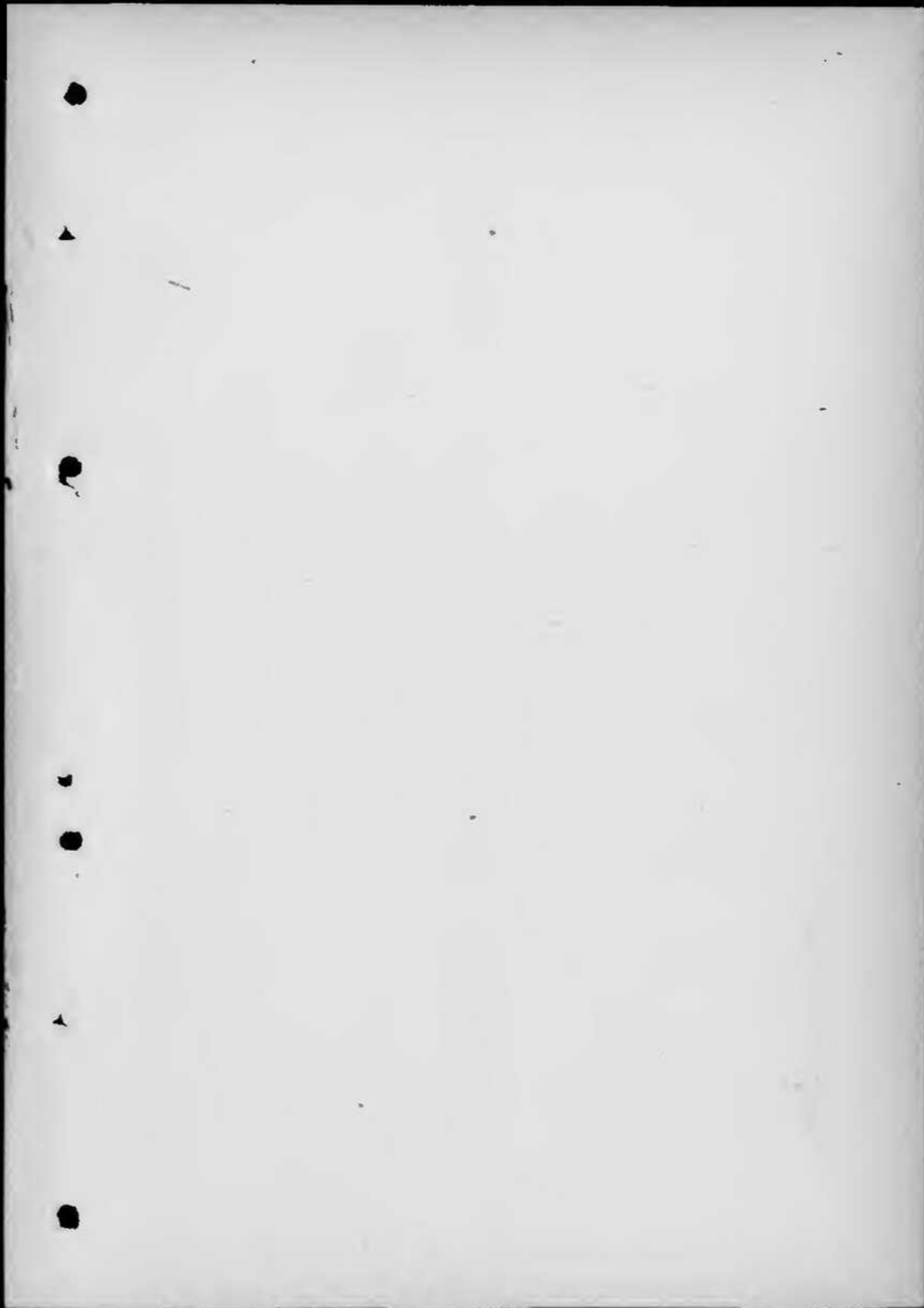
本令施行ノ際現ニ勅任ノ警視廳部長、北海道廳部長又ハ府縣書記官タル者ニ付テハ其ノ者ガ引續キ警視廳部長、北海道廳部長又ハ府縣部長ノ何レカニ在官スル間ニ限り其ノ官ハ之ヲ勅任トシ其ノ官等俸給ハ從前ノ勅任ノ警視廳部長、北海道廳部長又ハ府縣書記官ノ例ニ依ル

道路管理職員制、地方土木職員制、地方產業職員制、地方學校衛生職員制、地方社會教育職員制、地方社會事業職員制、地方建築職員制、地方警察職員制、地方體育運動職員制、地方學校營繕職員制、地方移植民職員制、地方國民貯蓄職員制、廳府縣衛生職員制、國民職業指導所官制、昭和十三年勅令第四百五十一號及廳府縣健康保險職員制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ道路管理職員制第三條及地方產業職員制第一項ノ規定ニ依リ市町村ニ置カレタル職員

三村テハ昭和十八年三月三十一日迄ノ間仍従前ノ規定ニ依ル

三四



勅令第七百七十號

昭和十七年勅令第七百七十號(行政簡素化實施ノ爲ニスル警視廳官制外九勅令中改正ノ件)施行ノ際現ニ別表ニ掲グル奏任官待遇又ハ判任官待遇ノ職員タル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ同表ニ掲グル區分ニ應ジ各北海道地方費又ハ府縣費支辨ニ係ル警視廳若ハ北海道廳ノ事務官、職業官、技師、屬、職業官補若ハ技手又ハ地方事務官、地方職業官、地方技師、府縣屬、府縣職業官補若ハ府縣技手(以下本官ト總稱ス)ニ現ニ受クル待遇相當官等ニ相當スル官等及現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸(相當スル級俸ナキトキハ從前ノ俸給額)ヲ以テ任ゼラレタルモノトス此ノ場合ニ於テ其ノ者ガ休職中ノ者ナルトキハ其ノ所屬區分ハ休職ト爲リタル際ノ所屬ニ依リ休職ノ儘各相當ノ官ニ任ゼラレタルモノトシ其ノ休職ニ關シテハ地方待遇職員令第十一條ノ規定ニ依ル休職ノ例ニ準ズ

前項ノ勅令施行ノ際現ニ奏任官待遇ノ事務職員タル者ニシテ左ノ上欄ニ該當スルモノニ對スル同項ノ規定ノ適用ニ付テハ各其ノ相當下欄ノ官等ヲ以テ待遇相當官等ニ相當スル官等ト看做シ高等官八等ノ待遇ヲ受クル技術職員ニ對スル同項ノ規定ノ適用ニ付テハ警視廳若ハ北海道廳ノ技師又ハ地方技師ニ臨時高等官八等ノ官等ヲ置カレタルモノトス

<p>高等官五等ノ待遇ヲ受クル者</p> <p>高等文官、同待遇職員ヲ通ジ在職年數六年ニ達セザルモノ</p>	<p>高等官六等</p>
<p>高等官四等ノ待遇ヲ受クル者</p> <p>高等文官、同待遇職員ヲ通ジ在職年數九年ニ達セザルモノ</p>	<p>高等官五等</p>

第一項ノ規定ニ依リ従前ノ判任官待遇職員月俸特別俸ノ額ヲ受クル者ニ對スル判任官俸給令第四條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ハ一級俸ヲ受クル者ト看做ス

第二項ノ規定ニ依リ本官ニ任ゼラレタル者ノ懲戒ニ關シテハ其ノ者ノ別表ニ掲グル待遇職員タリシ間ニ於ケル所爲ハ之ヲ本官在官中ノ所爲ト看做ス

本令ニ依リ高等官四等又ハ五等ノ警視廳若ハ北海道廳ノ事務官若ハ職業官又ハ地方事務官若ハ地方職業官ニ任ゼラレタル者ガ此等ノ官ノ何レカニ轉任又ハ再任スル場合ニ於テハ明治三十六年勅令第二百八十五號ヲ適用セズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

事務													
奏任官待遇													
職業主事	衛生主事	社會事業主事	衛生主事	國民貯蓄主事	拓務主事	體育運動主事	社會事業主事	社會教育主事	地方統計主事	地方商工主事	地方農林主事	土木主事	道路主事
府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者
警視廳職業官	地方職業官	警視廳事務官	地方事務官	警視廳事務官	地方事務官	警視廳事務官	地方事務官	警視廳事務官	地方事務官	警視廳事務官	地方事務官	警視廳事務官	地方事務官

四

職員													
判任官待遇													
職業主事補	社會事業主事補	衛生主事補	國民貯蓄主事補	拓務主事補	地方警察書記	建築書記	社會事業主事補	社會教育主事補	統計主事補	商工主事補	農林主事補	土木書記	道路書記
府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者
警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補	警視廳職業官補

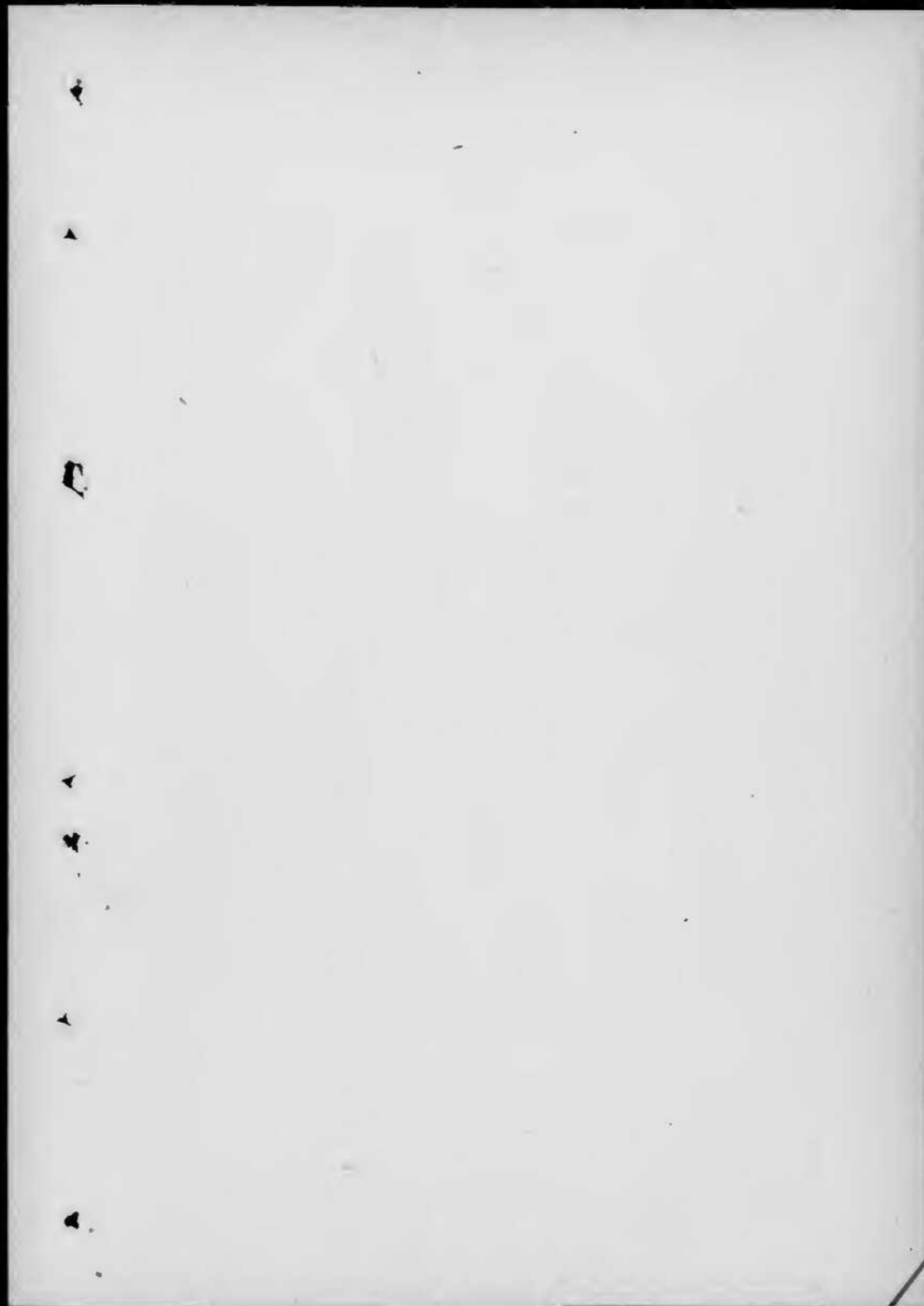
五

員							職				
遇		待		官		任		判		遇	
職		業		技		手		道		路	
警		生		校		營		警		察	
衛		生		校		營		警		察	
地		方		警		察		建		築	
商		工		技		手		農		林	
土		木		技		手		警		視	
道		路		技		手		警		視	
職		業		技		師		道		路	
警		生		校		營		警		察	
衛		生		校		營		警		察	
地		方		警		察		建		築	
商		工		技		手		農		林	
土		木		技		手		警		視	
道		路		技		手		警		視	
東京府管内ノ國民職業指導所所屬ノ者		府縣(東京府ヲ除ク)管内ノ國民職業指導所所屬ノ者		府縣所屬ノ者		北海道廳所屬ノ者		警視廳所屬ノ者		東京府管内ノ國民職業指導所所屬ノ者	
警視廳技手		府縣技手		府縣所屬ノ者		北海道廳技手		警視廳技手		地方技師	

七

術										技	
待		官		任		奏		道		路	
健		衛		學		地		建		學	
康		生		校		方		築		校	
保		生		校		警		技		衛	
險		技		營		察		師		生	
技		師		繕		技		師		技	
師		師		技		師		師		師	
道		路		技		師		警		視	
警		生		校		營		警		察	
衛		生		校		營		警		察	
地		方		警		察		建		築	
商		工		技		手		農		林	
土		木		技		手		警		視	
道		路		技		手		警		視	
北海道廳管内ノ國民職業指導所所屬ノ者		府縣所屬ノ者		北海道廳所屬ノ者		警視廳所屬ノ者		警視廳所屬ノ者		警視廳技師	
北海道廳技師		地方技師		北海道廳技師		警視廳技師		警視廳技師		警視廳技師	

六



勅令第百廿三號

第一條 奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

第七條第一項第五號中「及樺太廳支廳長」ヲ削ル

第八條 前條第一項ニ掲グル奏任文官ハ其ノ職務ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

第九條 地方待遇職員令又ハ同令ヲ準用スル規定ニ依リ任用セララル奏任官待遇ノ事務職員タリシ者ニ對スル第一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ノ當該職員トシテノ在職ハ之ヲ判任以上ノ官ノ在職ト看做ス

地方待遇職員令又ハ同令ヲ準用スル規定ニ依リ任用セララル判任官待遇ノ事務職員タリシ者ニ對スル第一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ノ當該職員トシテノ在職年數ハ其ノ二分ノ一ヲ限り之ヲ判任以上ノ官ノ在職年數ト看做シ同項ノ在職年數ニ通算スルコトヲ得

第二條 昭和十六年勅令第四十七號中左ノ通改正ス

「厚生省勞務官並ニ」ヲ「厚生省勞務官、」ニ改メ「地方勞務官」ノ下ニ「並ニ警視廳職業官、北海道廳職業官及地方職業官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

奏任文官特別任用令(昭和十六年勅令第五號)

第七條 五年以上北海道、府縣、市町村若ハ之ニ準ズルモノノ有給吏員ノ職ニ在リテ行政事務ニ從事シ月額八十五圓以上ノ給料ヲ受ケタル者又ハ五年以上名譽職ノ市町村長若ハ之ニ準ズルモノノ職ニ在リタル者ハ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ左ニ掲グル奏任文官ニ特ニ任用スルコトヲ得

- 一 都市計畫地方委員會事務官
 - 二 朝鮮總督府府尹(京城、仁川、大邱、釜山、平壤又ハ羅津ノ府尹タルモノヲ除ク)、朝鮮總督府郡守、朝鮮總督府島司、朝鮮總督府道理事官及朝鮮總督府府理事官
 - 三 臺灣總督府地方理事官(臺北市長タルモノヲ除ク)
 - 四 關東局理事官
 - 五 樺太廳事務官及樺太廳支廳長
 - 六 南洋廳事務官
 - 七 警視廳事務官、北海道廳事務官及地方事務官
- 前項ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス

第八條 前條第一項ニ掲グル奏任文官ハ其ノ職務ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

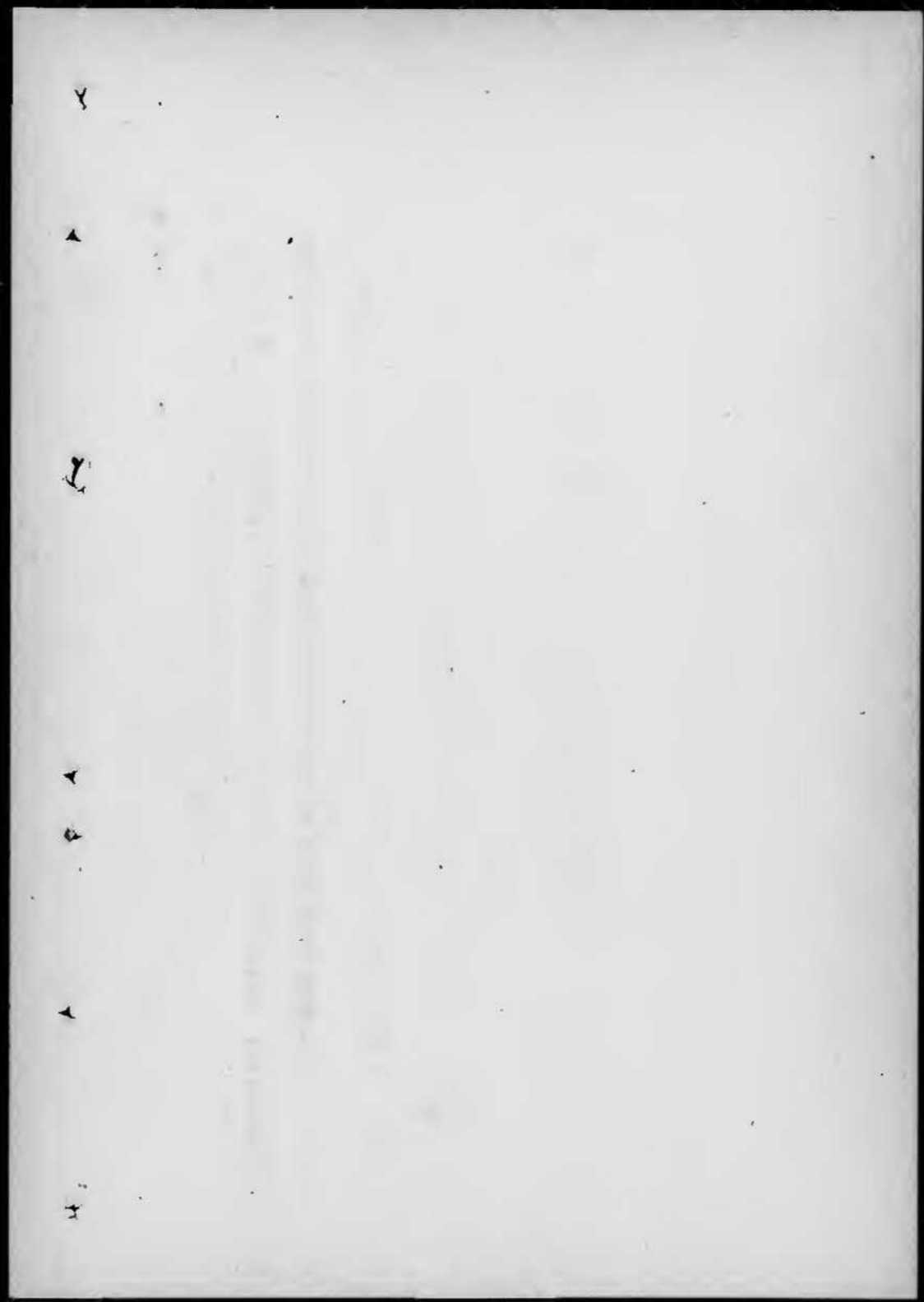
第九條 地方待遇職員令又ハ同令ヲ準用スル規定ニ依リ任用セララル奏任官待遇ノ事務職員タリシ者ニ對スル第一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ノ當該職員トシテノ在職ハ之ヲ判任以上ノ官ノ在職ト看做ス

地方待遇職員令又ハ同令ヲ準用スル規定ニ依リ任用セララル判任官待遇ノ事務職員タリシ者ニ對スル第一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ノ當該職員トシテノ在職年數ハ其ノ二分ノ一ヲ限り之ヲ判任以上ノ官ノ在職年數ト看做シ同項ノ在職年數ニ通算スルコトヲ得

參照

昭和十六年勅令第四十七號(厚生省勞務官等ノ特別任用ニ關スル件)

厚生省勞務官並ニ、警視廳勞務官、北海道廳勞務官及地方勞務官並ニ警視廳職業官、北海道廳職業官及地方職業官ハ各其ノ職務ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得



勅令第 〇七五五 號

第一條 昭和十三年勅令第五百四十八號中左ノ通改正ス

「一 竝ニ北海道廳事務官又ハ地方事務官ニシテ物價調整官ニ補セ
ラレ奉ラ物價調整及貯蓄獎勵ニ關スル事務ニ從事スルモノ」ヲ

削ル

第二條 昭和十四年勅令第七百號ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理由

奏任文官特別任用令ヲ改正シ北海道廳事務官及地方事務官ニ付テ
廣ク學識經驗アル者ノ中ヨリ任用スルノ途ヲ拓クコトト爲スニ件
ヒ規定ヲ整理スルノ要アルニ依ル

内務省

勅令第百七十八號

警視廳官制第一條ノ二、北海道廳官制第一條ノ二又ハ地方官官制第
二條ノ規定ニ依リ増置スル警視廳、北海道廳又ハ府縣ノ職員ノ俸給、
諸給及廳費ハ當分ノ内北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙



36
7
15
15

Y

△

▽

▽

◆

△

Y

109

裏面白紙

一、警視總監官制ニ依ル職員改正調
是算

(一)才一係

官名	官房主事	部長	警務官	警視	消防司令	職業官	技師	警部	局
現在官制	一	六	一三	八五	一一		一八	一九四	二八八
十七年度								〇三三	△三八
前年度ニ 伴ハ減			〇一	△六			△三	△二七	△三二
予算改正 伴ハ増									三八
健康保険 技師ニモ							四		
職業官 ニモ						九	二		
東京府職 員ニモ							一		四
衛生官 ニモ							〇		
差引増減				△六		九	四	△四〇	△三八
改正官制 是算	(一)	(六)	(一三)	七九	(一一)	九	(一一)	一五四	二六〇

消防士	消防校士	職業官紳	技師	通譯
四八	一七		二九	二
△三	△二		△四	
			△五	
		八七		
			△五	
		八七	△一四	
四五	一五	八七	二五	(三)

備考「予算改正ニ伴ハ増」ハ麻府職制ニテ系分働者年金保險法(同條)ニ設出シテアリトス(同四七五)
ノ属業系化ニ伴ハ九名減シ三十八名トス

(一)才一係(新設)

官名	事務官	技師	局員
待命職員 ノ増減	二	五八	五五〇
衛生官 ノ増減	一		九
衛生官 ノ増減	二	〇二九	△一二三
官制	一	二九	四三六
備考	東京府ヨリ移入ノモハ 衛生官ニモトス		衛生官ヨリ移入ノモハ 衛生官ニモトス

備考「衛生官ヨリ移入ノモハ」ハ待命職員ヨリ本官トナルノ調参照ニトス

〔德府縣臨時職員等設置制ニ依ル職員定員改正調〕

〔一〕警視廳ニ置クモノ

官名	定員	現任官制	十七年度	高素化	事務改訂	職業指導	警視廳	東京府	改正官制
警視	五	一〇	一	一	一	一	一	一	四
技師	一〇	一〇	一	一	一	一	一	一	二〇
勞務官	一六	一六	一	一	一	一	一	一	一一
職業官	一	一	一	一	一	一	一	一	七
翻譯官	一	一	一	一	一	一	一	一	一
屬	一九	一九	四	一八	三八	三	五	一六	七三
警部	二六	二六	一	一	一	一	一	一	二一
職業官補	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〔三〕北海道廳ニ置クモノ									
警視	一	一	一	一	一	一	一	一	一
事務官	一五	一五	一	一	一	一	一	一	一
職業官補	一	一	一	一	一	一	一	一	一
警部	二六	二六	一	一	一	一	一	一	二一
屬	一九	一九	四	一八	三八	三	五	一六	七三
職業官	一	一	一	一	一	一	一	一	一
勞務官	二	二	一	一	一	一	一	一	一
職業官	一	一	一	一	一	一	一	一	一
技師	一六〇	一六〇	四	一九	一	一	一	一	一三六

河川監督	四三	四三	四	四	四	四	四	四	四
森林主事	二三五	二三五	一	一	一	一	一	一	一
職業官補	一	一	一	一	一	一	一	一	一
小作官補	四	四	一	一	一	一	一	一	一
警部	六	六	一	一	一	一	一	一	一
屬	二二三	二二三	一	一	一	一	一	一	一
職業官	一	一	一	一	一	一	一	一	一
勞務官	二	二	一	一	一	一	一	一	一
技師	一六〇	一六〇	四	一九	一	一	一	一	一三六

〔三〕府縣ニ置クモノ

事務官	一五三	一五三	一	一	一	一	一	一	一
警視	三六	三六	一	一	一	一	一	一	一
技師	二八	二八	一	一	一	一	一	一	一
小作官	一三	一三	一	一	一	一	一	一	一

備考 予算 附 録 職 員 一 概 算 表 第 三 條 (技 師) 及 第 三 條 (属) 係 三 丁 四 官 官
 規 定 三 十 八 名 道 方 十 府 縣 官 八 十 五 名 職 員 十 一 名

通 譯	職 業 官 補	小 作 官 補	警 部	技 師	属	翻 譯 官	職 業 官	勞 務 官
一		四〇	一五一	三九九一		二	一	五五
		△三		△二七〇				
		△六	△三〇	△六〇四	△二八八	△一		△一四
	三二〇四			一〇			七九	
					五			
					△一六			
	三三〇四	〇九	△三〇	△一〇六三		△一	七九	△一四
(一)	三二〇四	三三	一一一	三九二八		一	七九	四一

裏面あり

昭和十七年九月二日

大臣書

人事課長

文書課長

會計課長

事務課長

請議 上

二四四

警視廳官制、北海道廳官制、地方官制、廳府
特設臨時職員等設置官制、特別官制、俸給令、又、大
任、又、特別任用令、中、改、止、要、ア、リ、別、紙、初、令、条、ヲ
提出ス

右開請議ヲ呈請ス

裏面あり

昭和十七年九月二日

大臣書

人事課長

文書課長

會計課長

事務課長

王明 議 案

九四
二四四

警視廳官制、北海道廳官制、地方官官制、廳府
警視廳時職官制、設置別表、官制、俸給令、又、長
任、又、官特別任用令、中、改、止、正、セ、リ、別、紙、勅、令、ホ、シ、
提出ス
右、閣、議、ヲ、五、月、ヲ

年 月 日

内閣總理大臣宛

大臣

勅令第 號

第一條 警視廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「部長 專任六人奏任」ノ下ニ「内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得」

ヲ加ヘ「事務官 專任十三人」ヲ「事務官 專任十二人」ニ、

「警視 專任八十五人」ヲ「警視 專任七十九人」ニ、「技師

專任十八人」ヲ「技師 專任十九人」ニ、「警部 專任百九

十四人」ヲ「警部 專任百五十四人」ニ、「屬 專任二百八十八

人」ヲ「屬 專任二百五十六人」ニ、「消防士 專任四十八人」

ヲ「消防士 專任四十五人」ニ、「消防機關士 專任十七人」

ヲ「消防機關士 專任十五人」ニ、「技手 專任三十九人」ヲ「

内務省

技手 專任三十人」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第一條ノ二 前條ノ定員外ニ於テ府費ヲ以テ左ノ職員ヲ置クコ

トヲ得

事務官 專任 二人以内

技師 專任 五十八人以内

屬 技手 專任 五百五十人以内

第八條第一項中「警務部長タル部長」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ部

長」ニ、同條第二項中「警務部長タル部長」ヲ「部長」ニ改ム

第二條 北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「部長 專任六人奏任」ヲ「官房長 專任一人
部長 專任四人

奏任 内二人ヲ勅任ニ、「事務官 専任二十四人」ヲ「事務官
奏任ト爲スコトヲ得」

専任二十三人」ニ、「警視 専任十九人」ヲ「警視 専任十

八人」ニ、「技師 専任二十二人」ヲ「技師 専任二十人」ニ、

「屬 専任二百六十四人」ヲ「屬 専任二百三人」ニ、「

醫部 専任八十三人」ヲ「醫部 専任七十一人」ニ、「技手

専任九十一人」ヲ「技手 専任六十五人」ニ改メ同條第二項ヲ

削ル

第一條ノ二 前條ノ定員外ニ於テ北海道地方費ヲ以テ左ノ職員
ヲ置クコトヲ得

事務官 専任 三十六人以内

内務省

技師 専任 九十六人以内

屬 技手 専任 九百四十四人以内

第八條第一項中「總務部長タル部長」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ部
長」ニ、同條第二項中「總務部長タル部長」ヲ「部長」ニ改ム

第十條中「六部」ヲ「四部」ニ、「總務部」ヲ「内政部」ニ、

「土木部」ヲ「振興部」ニ改ム

第十一條 長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二 官印廳印ノ管守ニ關スル事項

三 褒賞ニ關スル事項

- 四 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項
- 五 統計ニ關スル事項
- 六 北海道會、北海道參事會及北海道地方費ニ關スル事項
- 七 道廳ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項
- 八 地方費經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項
- 九 道廳所管ノ國有財産及物品ニ關スル事項
- 十 地方費經濟ニ屬スル財産及物品ニ關スル事項
- 十一 他ノ主管ニ關セザル事項

第十二條中第一項乃至第五項ヲ左ノ如ク改ム
 内政部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

内務省

- 一 神社ニ關スル事項
- 二 教育學藝ニ關スル事項
- 三 宗教ニ關スル事項
- 四 議員選舉ニ關スル事項
- 五 支廳及市町村其ノ他公共團體ニ關スル事項
- 六 兵事ニ關スル事項
- 七 社會事業ニ關スル事項
- 八 移植民ニ關スル事項
- 九 地代家賃統制令施行ニ關スル事項
- 十 職業紹介法施行ニ關スル事項

- 十一 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項
 - 十二 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項
 - 十三 國民徵用令施行ニ關スル事項
 - 十四 勞務調整令施行ニ關スル事項
 - 十五 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項
 - 十六 國民健康保險法施行ニ關スル事項
 - 十七 史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
- 經濟部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農工商ニ關スル事項
 - 二 小作關係其ノ他農地ノ利用關係ノ爭議ノ調停ニ關スル事項
- 項
- 内務省

- 三 水産漁獲ニ關スル事項
 - 四 度量衡ニ關スル事項
- 振興部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 土木ニ關スル事項
 - 二 水陸運輸ニ關スル事項
 - 三 水面埋立ニ關スル事項
 - 四 殖民地ノ選定計畫其ノ他殖民ニ關スル事項
 - 五 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
 - 六 地籍ニ關スル事項

七 官有地管理ニ關スル事項

八 土地收用ニ關スル事項

九 森林原野ニ關スル事項

第十五條ノ二、第二十三條ノ二及第二十三條ノ三中「學務部ニ屬シ」ヲ削ル

第三條 地方官官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「書記官 奏任」ヲ「官房長 專任四十六人 部長 專任百二十七人

奏任ト爲ス七人トヲ勒任」ニ、「地方事務官 專任八百七十五人」

ヲ「地方事務官 專任八百十六人」ニ、「地方祭務官 專任

十三人」ヲ「地方祭務官 專任十人」ニ、「地方教學官 專

内務省

任七人」ヲ「地方教學官 專任五人」ニ、「地方警視 專任三

百五十六人」ヲ「地方警視 專任三百三十四人」ニ、「地方小

作官 專任三十七人」ヲ「地方小作官 專任三十五人」ニ、「

地方技師 專任四百二十六人」ヲ「地方技師 專任三百八十七

人」ニ、「視學 專任三十六人」ヲ「視學 專任三十四人」ニ、

「屬 專任四千六百二十九人」ヲ「屬 專任三千七百八十七人」

ニ、「祭務官補 專任四十六人」ヲ「祭務官補 專任三十七人」

ニ、「警部 專任千四百五十二人」ヲ「警部 專任千二百八十

七人」ニ、「小作官補 專任三十七人」ヲ「小作官補 專任二

十九人」ニ、「技手 專任千八十六人」ヲ「技手 專任八百

七人」ニ、「通譯 專任十三人」ヲ「通譯 專任六人」ニ改
メ同條第二項及第三項ヲ削ル

第二條中「判任」ヲ削リ「屬 技手 專任二千九百三人以内」ヲ「
屬 技手 專任二千五百七十八人以内」ニ改ム

第二條ノ二 前二條ノ定員外ニ於テ府縣費ヲ以テ府縣ニ通ジテ
左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方事務官 專任 千六十一人以内
地方技師 專任 三千九百五十九人以内

屬 技手 專任 二萬七千四十五人以内

第三條中「書記官」ヲ「官房長、部長」ニ改メ「第一條ノ
職員並ニ前條」ヲ「第一條乃至第二條ノ二ノ」ニ改ム

内務省

第十條第一項中「總務部長タル書記官」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ
部長」ニ、同條第二項中「總務部長タル書記官」ヲ「部長」ニ
改ム

第十二條第一項中「四部」ヲ「二部」ニ、
總務部 學務部
經濟部 内政
部」ニ改メ同條第二項中「土木部」ノ上ニ「經濟部」ヲ加フ

第十三條 知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
三 褒賞ニ關スル事項

- 一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
- 二 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
- 三 褒賞ニ關スル事項

- | | |
|------|------------------------|
| 四 | 文書ノ往復及記録編集ニ關スル事項 |
| 五 | 統計ニ關スル事項 |
| 六 | 會計ニ關スル事項 |
| 七 | 府縣ノ行政ニ關スル事項 |
| 八 | 他ノ主管ニ屬セザル事項 |
| 第十四條 | 内政部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル |
| 一 | 神社ニ關スル事項 |
| 二 | 教育學藝ニ關スル事項 |
| 三 | 宗教ニ關スル事項 |
| 四 | 議員選舉ニ關スル事項 |
| 五 | 市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項 |
| 六 | 兵事ニ關スル事項 |
| 七 | 社會事業ニ關スル事項 |
| 八 | 移植民ニ關スル事項 |
| 九 | 地代家賃統制令施行ニ關スル事項 |
| 十 | 職業紹介法施行ニ關スル事項 |
| 十一 | 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項 |
| 十二 | 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項 |
| 十三 | 國民徵用令施行ニ關スル事項 |
| 十四 | 勞務調整令施行ニ關スル事項 |

内務省

- 十五 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項
- 十六 國民健康保險法施行ニ關スル事項
- 十七 史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
- 十八 農工商森林水産ニ關スル事項
- 十九 小作關係其ノ他農地ノ利用關係ノ爭議ノ調停ニ關スル
事項

- 二十 度量衡ニ關スル事項
- 二十一 土木ニ關スル事項
- 二十二 土地收用ニ關スル事項
- 二十三 水陸運輸ニ關スル事項
- 二十四 水面埋立ニ關スル事項

内務省

- 東京府ノ内政部ニ於テハ前項ノ外防空、衛生及國民體力法施行ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十六條ヲ第十五條トシ第十六條ノ二ヲ第十六條トシ第十五條ノ二ヲ削ル
- 第十七條 經濟部ニ於テハ第十四條第十八號乃至第二十四號ノ事務ヲ掌ル但シ土木部ヲ置ク府縣ニ於テハ同條第十八號乃至第二十號ノ事務ヲ掌ル
- 土木部ニ於テハ第十四條第二十一號乃至第二十四號ノ事務ヲ掌ル

衛生部ニ於テハ第十五條第三號ノ事務ヲ掌ル

第十八條 土木部及衛生部ノ部長ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツル
コトヲ得

第十八條ノ二 官房長ハ知事ノ命ヲ承ケ知事官房ノ事務ヲ掌理
シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

部長ハ知事ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮
監督ス

第十九條中「部長」ノ上ニ「官房長又ハ」ヲ加フ

第二十二條ノ二、第二十二條ノ三及第二十二條ノ四中「學務部
ニ屬シ」ヲ削ル

内務省

第三十二條ノ二 各府縣ニ青年教育官ヲ置クコトヲ得

青年教育官ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ青年
學校教育其ノ他社會教育ニ關スル視察指導其ノ他ノ事務ヲ掌

ル

第四條 廳府縣臨時職員等設置制左ノ通改正ス

第一條 警視廳及北海道廳ニ並ニ府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

警視廳

警視

專任

四人

技師

專任

八人

勞務官

專任

十一人 奏任

翻譯官	專任	一人	奏任
屬 技手	專任	五十九人	
警部	專任	二十一人	
北海道廳			
事務官	專任	十二人	
警視	專任	一人	
技師	專任	百三十八人	内二人ハ之ヲ勅任 ト爲スコトヲ得
勞務官	專任	一人	奏任
廳 技手	專任	千六百五十六人	
警部	專任	五人	
小作官補	專任	二人	
森林主事	專任	二百十二人	判任
河川監守	專任	三十六人	判任
府縣			
地方事務官	專任	百三十五人	
地方警視	專任	二十五人	
地方技師	專任	百八十一人	
地方小作官	專任	十一人	
地方勞務官	專任	四十一人	奏任
地方翻譯官	專任	一人	奏任

内務省

屬
技手 専任二千九百六十九人

警部 専任百二十一人

小作官補 専任 三十一人

通譯 専任 一人

前項ノ職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

北海道廳ノ職員中技師三人、屬ト技手通譯等七人ノ俸給
諸給及廳費ハ當分ノ内北海道地方費ノ負擔トス

當分ノ内北海道廳小作官及地方小作官並小作官補ハ臨時命ヲ
承ケ小作料統制令施行ニ關スル事務ヲ兼掌スルコトヲ得

警視廳勞務官、北海道廳勞務官及地方勞務官ハ上官ノ命ヲ承
ケ重要事業場勞務管理令施行其ノ他工場事業場（鑛業及砂鑛

内務省

業ニ關スルモノヲ除ク）ニ於ケル勞務管理ニ關スル事務ヲ掌
ル

警視廳翻譯官及地方翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯ヲ掌ル

第二條 北海道廳管内須要ノ地ニ營林區署ヲ置ク

營林區署ノ名稱、位置及管轄區域ハ北海道廳長官之ヲ定ム

營林區署長ハ技師、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ
承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス
北海道廳長官ハ築港又ハ治水工事ノ爲必要ニ應ジ管内ニ築港

事務所又ハ治水事務所ヲ置クコトヲ得

築港事務所長及治水事務所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ所主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
河川監守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ河川及其ノ附屬物保護ノ事務ニ
従事ス

第三條 北海道廳及各府縣ニ物價調整官及物價調整官補ヲ置ク
コトヲ得

物價調整官ハ北海道廳事務官又ハ地方事務官ヲ以テ、物價調
整官補ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ物價調整及貯蓄奨
勵ニ關スル事務ニ従事ス

内務省

第四條 傳染病豫防及臨時海港檢疫ニ關スル事務ニ従事セシム
ル爲第一條ノ職員ノ定員外ニ於テ警視廳、北海道廳及府縣ニ
通ジテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

警視廳技師

北海道廳技師

專任六十九人以内

地方技師

屬

技師

前項ノ職員ノ各廳府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ別表上欄ニ掲グル職ニ在リ警視廳、北海道廳又ハ府縣ニ勤務スル者ハ本令施行ノ際ニ限り文官ノ任用資格ニ關スル規定ニ拘ラズ各其ノ相當下欄ニ掲グル官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ各従前ノ待遇官等又ハ俸給ニ相當スル官等又ハ級俸ヲ以テ之ニ任ゼラレタルモノトス但シ奏任官待遇ノ事務職員ノ職ニ在ル者ノ中左記上欄ノ待遇ヲ受クル者ハ各其ノ相當下欄ノ官等ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

高等官五等待遇		高等官六等	
奏任官同待遇ヲ通ジ在職年數六年未滿ノ者	奏任官同待遇ヲ通ジ在職年數六年以上ノ者	高等官五等	高等官六等
高等官四等待遇		高等官五等	
奏任官同待遇ヲ通ジ在職年數六年以上九年未滿ノ者	奏任官同待遇ヲ通ジ在職年數九年以上ノ者	高等官四等	高等官五等

内務省

前項ノ規定ニ依リ奏任文官又ハ判任文官ニ任ゼラレタル者初メテ陞轉又ハ昇給ノ場合ニ於テハ高等官官等俸給令第五條又ハ判任官俸給令第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ最後ニ受ケタル待遇官等又ハ俸給ノ在職年數三分ノ二ヲ以テ之ヲ現官等又ハ俸給ノ在職年數ニ通算ス

第二項ノ規定ニ依リ當該奏任文官又ハ判任文官ニ任ゼラレタルモノ退官ノ後再ビ當該奏任文官又ハ判任文官ニ任ゼラルル場合文官ノ任用資格ニ關シテハ尙退官當時ニ於ケル當該奏任文官又ハ判任

文官ノ資格ヲ保有スルモノトス

(別表)

道路主事	警視廳ニ勤務スル者
土木主事	警視廳事務官
國民貯蓄主事	北海道廳ニ勤務スル者
社會教育主事	北海道廳事務官
體育運動主事	府縣ニ勤務スル者
地方農林主事	地方事務官
地方統計主事	
地方商工主事	
拓務主事	
社會專業主事	
衛生主事	
道路技師	警視廳ニ勤務スル者
土木技師	警視廳技師
建築技師	北海道廳ニ勤務スル者
地方警察技師	北海道廳技師
學校衛生技師	府縣ニ勤務スル者
學校營繕技師	地方技師
地方農林技師	

内務省

地方商工技師	衛生技師	健康保険技師	道路書記	土木書記	建築書記	地方警察書記	國民貯蓄主事補	社會教育主事補	農林主事補	統計主事補	商工主事補	拓務主事補	社會事業主事補	衛生主事補	道路技師	土木技師	建築技師	地方警察技師	學校營繕技師
			警視廳ニ勤務スル者	警視廳屬	北海道廳ニ勤務スル者	北海道廳屬	府縣ニ勤務スル者	府縣屬							警視廳ニ勤務スル者	警視廳技師	北海道廳ニ勤務スル者	北海道廳技師	府縣ニ勤務スル者

内務省

北海道(初任俸)
 竹野區(初任俸)
 鹿島區(初任俸)

農林技手	府縣技手
商工技手	
衛生技手	

本令施行前休職ヲ命ゼラレタル者ニ付テハ其ノ休職期間中ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ待遇官吏ニシテ復職ヲ命ズベキ場合ニ於テハ第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

本令施行ノ際道路管理職員制第三條ノ規定ニ依リ市町村ニ勤務スル職員ニ付テハ昭和十八年三月三十一日迄ノ間仍從前ノ規定ニ依ル

内務省

從前ノ規定ニ依ル北海道ノ營林區署築港事務所及治水事務所ハ之ヲ各本令ニ依ル北海道ノ營林區署築港事務所及治水事務所ト爲リタルモノトス

大正九年勅令第二百四十五號、同二百四十六號、同二百四十八號、大正十年勅令第四百三十五號、大正十三年勅令第四百十八號、大正十四年勅令第四十三號、同第三百二十三號、同第三百二十四號、大正十五年勅令第三百三十二號、昭和三年勅令第七十一號、昭和四年勅令第七十八號、昭和五年勅令第四百十六號、昭和九年勅令第三百九十八號、昭和十四年勅令第六十七號、同第六百二十號及昭和十七年勅令第三百六十一號ハ之ヲ廢止ス但シ税關官制第十七條ノ規定ニ依ル職員、船員職業紹介所官制ニ依ル職員及海務局官制

第十六條ノ規定ニ依ル職員ニ付テハ當分ノ内從前ノ規定ヲ適用ス

内務省

理由

廳府縣關係行政簡素化實施要綱（昭和十七年八月二十一日閣議決定）ヲ實施セントスルハ昭和十七年度經費節減ニ伴フ減員等ヲ整理セントスルニ依ル

内務省

勅令第 號

都市計畫地方委員會官制中左ノ通改正ス

第十七條第一項中「事務官 專任三十人以内」ヲ「事務官 專任二十四人以内」ニ、
 「技師 專任九十九人以内」ヲ「技師 專任七十九人以内」ニ、
 「書記 專任百二十一人以内」ヲ「書記 專任九十八人以内」ニ、
 「技手 專任三百二十二人以内」ヲ「技手 專任二百六十二人以内」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理 由

廳府縣關係行政簡素化實施要綱（昭和十七年八月二十一日閣議決定）ヲ實施セントスルニ依ル

内 務 省

勅令第 號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「警視廳部長警務部長タルモノ」ヲ「警視廳部長」ニ、「北海道廳部長總務部長、土木部長タルモノ」ニ、「各府縣書記官地方官官制第一條第三項ニ掲クル總務部長、警察部長タルモノ」ニ改ム

第十四條中「警視廳部長」ノ次ニ「北海道廳官房長」ヲ加ヘ「各府縣書記官」ヲ「各府縣官房長」ニ改ム

別表第一表警視廳ノ部中「部長警務部長タルモノ」ヲ「部長」ニ、「同表北海道廳ノ部中「部長總務部長、土木部長タルモノ」ヲ「部長」ニ、「同表府縣ノ部中「書記官地方官官制第一條第三項ニ掲クル總務部長、警察部長タルモノ」ヲ「部長」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理由

廳府縣關係行政簡素化實施要綱（昭和十七年八月二十一日閣議決定）ノ實施ニ伴フ新官ノ設置等ニ依リ改正ノ要アルニ依ル

内務省

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

第八條 大學令ニ依ル大學ノ學部又ハ專門學校ヲ卒業シ三年以上
地方行政事務又ハ之ト同種ノ實務ニ從事シタル者ハ高等試験委
員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ第一條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クル奏任文
官ニ特ニ任用スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方待遇職員令第一條及第十二條ニ規定スル職員ノ職ニ在リタル
者ヲ奏任文官ニ任用スル場合奏任文官特別任用令第一條ノ規定ノ
適用ニ付テハ其ノ在職年數ノ三分ノ二ヲ以テ之ヲ文官ノ在職年數
ト看做ス

内 務 省

理 由

廳府縣關係行政簡素化實施要綱（昭和十七年八月二十一日閣議決定）ヲ實施セントスルニ依ル

内務省

(應府縣臨時職員等設置制)

第四條 傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事セシムル爲第一條ノ職員ノ定員外ニ於テ北海道廳ニ及府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

北海道廳

技師

專任三人以内

屬
技手

專任八人以内

府縣

地方技師

專任六十二人以内

屬
技手

專任四百五十六人以内

内務省

前項ノ職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム
(附則第八項)

但シ防疫職員官制ニ依ル職員、税關官制第十七條ノ規定ニ依ル職員、臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員、船員職業紹介所官制ニ依ル職員、ニ付テハ當分ノ内從前ノ規定ヲ適用ス

防疫職員官制中改正案

防疫職員官制中左ノ通改正ス

第一條中「防疫官 專任八人」ヲ「防疫官 專任六人」ニ、「防疫官補 專任二人」ヲ「防疫官補 專任一人」ニ改ム

第三條第一項中「防疫醫 奏任官待遇又ハ判任官待遇」ヲ「防疫醫 判任官待遇」ニ改メ第二項ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

臨時海港檢疫所官制中改正案

臨時海港檢疫所官制中左ノ通改正ス

第四條第二項中「五人以内」ヲ「四人以内」ニ改ム

第五條第一項中「警察部長」ヲ「内政部長」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

北海道廳官制第一條ニ依ル職員定員改正調

官名	現行官制定員	十七年度簡素化に伴フ減	予算改訂健康保險手帳組替増減	層引増減	改正官制定員
官房長			(二)		一
部長	六		△二	△二	四
事務官	二四		△一	△一	二三
視学官	一				二
教学官	一				二
警視	一九		△一	△一	一八
小作官	一				二
技師	二二		△一	△二	二〇
視學	一一				(一一)
属	二六四	△三七	△三四	△六一	二〇三
事務官補	一		〇		三
警部	八三	△三	△九	△一二	七一

小作官補	技師	通譯
一	九一	二
	△一五	△一
	△一一	
	△二六	△一
(二)	六五	一

備考
 豫算改訂に伴フ組替増減ハ廳府縣臨職制第三五條ニ設置シアルモノトス
 (属十一名、所簡素化ニ伴ヒ一名減ジ十名トス)

地方官官制第二條ニ依ル職員定員改正調

職名	現在官制	簡素化ニ 伴フ減	改正官制
技師	二九〇三	△三二五	二五七八

都市計画地方委員会官制第十七條ニ依ル職員定員改正調

官名	現在官制	簡素化ニ 伴フ減	改正官制
事務官	三〇	△六	二四
技師	九九	△二〇	七九
書記	一一一	△二三	九八
技師	三二二	△六〇	二六二

待遇職員ヨリ本官トナルモノ、調

一技師トシテ警視廳官制、北海道廳官制及地方官官制
各第一條ニ入ルモノ

警視廳技師 トナルモノ	四	健康保險技師
北海道廳技師 トナルモノ	一	
地方技師 トナルモノ	二八	
計	三三	

一事務官トシテ警視廳官制第一條、二北海道廳官制第一條
、二及地方官官制第二條、二ニ入ルモノ

警視廳事務官 トナルモノ	二	道路 主事	二
北海道廳事務 官トナルモノ	二	土木 主事	二
地方事務官 トナルモノ	二七	國庫 主事	一
	一一二	社會 主事	三
	四六	林業 主事	一
	三七九	地方 主事	一六
	四六	地方 主事	一
	一六九	地方 主事	五
	一七	招 主事	
	一四二	社會 主事	四
	三三	衛生 主事	一
計	一〇六一		二
計	三六〇九九		

一 教師トシテ警視廳官制第一條ノ二、北海道廳官制第一條ノ二
 及地方官官制第一條ノ二ニ入ルモノ

計	二六八	二六三	五	道 師 士
	二二七	二一三	四	及 師 天
	四九	三四	一	及 師 天
	五二	四三	一	及 師 天
	四〇	三九	一	及 師 天
	三六	三五	一	及 師 天
	二五四	二三六	一八	及 師 天
	四二一	四一九	二	及 師 天
	六七六	六三二	一三	及 師 天
	四二一	三九五	九	計

一 尚トシテ警視廳官制第一條ノ二、北海道廳官制第一條ノ二及
 地方官官制第一條ノ二ニ入ルモノ

計	二六八	二六三	五	道 師 士
	二二七	二一三	四	及 師 天
	四九	三四	一	及 師 天
	五二	四三	一	及 師 天
	四〇	三九	一	及 師 天
	三六	三五	一	及 師 天
	二五四	二三六	一八	及 師 天
	四二一	四一九	二	及 師 天
	六七六	六三二	一三	及 師 天
	四二一	三九五	九	計

一 技師トシテ政官視廳官制第一條ノ二、北海道廳官制第一條ノ二
及地方官官制第二條ノ二ニ入ルモノ

計	三、五、一、三、六、三、八、〇	三、四、八、〇、二、二、三、三、二	二、九	五、八	一、二、一	一、六、三	九	二	五、五、五	一、二	九、四	三、七、八
道												
上												
本												
技												
師												
計												

一 技師及技師トシテ廳官視廳臨時職員等設置制第一條ニ入ルモノ

計	一、四	〇、四	一	四	三	一
道						
上						
本						
技						
師						
計						

一 技師 属又 技手 トシテ 廳府縣臨時職員等設置制第
 四條ニ入ルモノ

警視廳技師 北海道廳技師 地方技師 (一七六)	防疫醫 臨時海港檢疫醫 (一九)
警視廳 北海道廳 府縣 (一七七)	防疫監 臨時海港檢疫員
警視廳技手 北海道廳技手 府縣技手 (一七八)	防疫醫 臨時海港檢疫員 (一七九)



大日本帝國政府

神祇院一七人秘第一七二號

昭和十七年八月十五日

神祇院副總裁 飯沼 一



內務大臣官房人事課長 入江 誠一郎 殿

北海道廳官制及地方官官制改正ノ件

標記ノ件別紙勅令案ノ進改正方御取計相成度

裏面白紙

勅令第 〇 號

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第十二條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ同項第一號ヲ第二號ニ改メ以下
順次下^條ケ同條第二項第二號中「社寺及」ヲ削ル

一 神社ニ關スル事項

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神 祇 院

勅令第 號

地方官官制中左ノ通改正ス

第十四條ニ左ノ一號ヲ加ヘ第一號ヲ第二號ニ改メ以下順次繰下グ

一 神社ニ關スル事項

第十五條第一項第二號中「社寺及」ヲ削ル

第二十二條ノ中「學務部」ヲ「總務部」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神 祇 院

理由

神社ニ關スル事務ハ宗教ニ關スル事務ト其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ兩者ノ混淆ヲ避クル爲之ヲ分離スルノ要アルト共ニ神社ノ振興ハ地方公共團體ノ運営ト至大ノ關係アルヲ以テ之ヲ總務部ノ所管事項トナスノ要アルニ因ル

神祇院

大日本帝國政府

17. 9. 7

北監第八七二號

昭和十七年九月四日

内務大臣 山田 敬 啟



人 事 官

内務大臣



地方廳ニ於ケル移植民事務主管官ノ所屬市ニ對スル件

今般地方廳機構ノ改テニ依ル學務部廢止ニ伴フ地方移植民事務ノ所屬部ニ關シテハ移植民事務ノ本質ニ鑑ミ之ヲ内政部所屬ト致度ニ付之方地方官制ノ改正ニ當リハ右御配意相成度寫致環田添附位段御依ス

裏面白紙

別表

地方廳ニ於ケル移植民事務ヲ内政部所屬トナスヲ要スル理由

地方廳ニ於ケル移植民事務ハ現在大部分一拓務課設置五府縣、職業課三八縣、社會課二縣、學務課一縣、社會教育課一縣（別表参照）ハ學務部職業課ニ於テ之ヲ主宰シ居ル所今般地方廳機構ノ改正ニ依ル學務部廢止ニ伴フ本事務ノ所屬ニ付テハ左記理由ニ依リ之ヲ内政部所屬ト爲スヲ要ス

記

地方廳ニ於ケル移植民事務ハ現在滿洲開拓事業關係事務其ノ大部分ヲ占メ居ル處右開拓關係事業ハ曩ニ閣議決定ヲ見タル滿洲開拓第二期五ヶ年計畫要綱ノ實行ヲ目標トシ開拓民關係ハ内地農村ノ再編成

拓務省

ヲ目途トスル分科、分應計畫及都市ノ再編成ヲ指標トスル大陸歸農（轉業）等ヲ中心ニ推進セラレ居リ青年義勇軍關係ハ興亞教育ニ重點ヲ置ク雜土部隊編成計畫ヲ中心ニ實行セラレ居リテ其ノ事務内容ハ頗ル廣汎多岐（別表参照）ニ亘リ地方内政部面ニ重大ナル關係ヲ有スルニ依ル

（備考）

地方移植民事務ノ主管部ニ付テハ從來移植民事務ノ所屬明確ナラザリシヲ以テ昭和十五年勅令第七七三號ニ依リ地方官官制ヲ改正シ學務部主管ト爲シ之ヲ明確ニセリ（別紙三参照）

別紙二

申、滿洲開拓事業主管課掌務內容

一、庶務係

- (一) 庶務一般
- (二) 課内、外事務
- (三) 文書、收受發送
- (四) 道府繳費簿算、編成及經理
- (五) 回費令送簿算、經理
- (六) 豫算外各種金品、出納經理
- (七) 法規令規、整理保存
- (八) 道府報會答辭資料作成
- (九) 關係各廳及団体、聯絡

- (十) 道府縣内移住民間係団体、助成及指導監督
- (十一) 開拓民及義勇軍、社行會、舉行
- (十二) 開拓民及義勇軍、死亡者家族ニ對スル弔慰
- (十三) 拓務行政全般、統制企畫ニ關スル事項
- (十四) 開拓民及義勇軍送出ニ關スル調査並ニ計画、樹立

二、業務 係

(一) 一般開拓民ニ関スル事項

(1) 一般民ヲ対象トシタル講習会、地区委員会

(2) 指導者階級ヲ対象トシタル講習会、講習会

(3) 市町村事務主任者、新市町村農会、農事実行組合等関係者ノ協

議会

(4) 歸還一家族招致其他 指導者ノ中心トシタル座談会

(縣及縣下町村ノ中心トシタル座談会)

(5) 現地視察者ヲ中心トシタル座談会

(縣及縣下町村ノ中心トシタル座談会)

(6) 道府縣職員ヲ中心トシタル座談会

(縣下町村又ハ市町ニ于テ開催)

(7) 開拓団編成計画ノ実行助成

1、特別指導部ノ設置並ニ指導助成

2、分村分郡計画ノ指導並成

3、開拓団編成本部ノ設置並ニ指導助成

4、開拓団編成主任職員ノ設置並ニ指導

5、開拓団編成主任職員ノ設置並ニ指導

(8) 開拓民ノ銓衡

(9) 開拓民ノ名簿、年上講習等ノ作成整理

(10) 開拓民ノ訓練入道所口時ノ決定

(11) 開拓民ノ訓練

- (12) 開拓民ノ出発港又ハ現地迄ノ輸送
- (13) 渡航費及割引券等ノ交付
- (14) 現地開拓民ニ対スル連絡其他ノ處置
- (15) 開拓民家族招致ノ輸送斡旋
- (16) 開拓民支度品及開拓地必需品ノ調運、輸送ノ斡旋
- (17) 開拓民ノ土地家財及負債ノ整理、資金ノ融通斡旋
- (18) 雇傭関係ノ調整斡旋
- (19) 戸籍 兵籍等ニ関スル斡旋
- (20) 遺留家族ノ援護

二 青少年長勇軍ニ関スル事項

- (1) 父兄母姉等ヲ対象トシタル講演会、映画会
- (2) 国民学校及青年学校ノ校長、教員ニ対スル講習会
- (3) 郡内常任青年団幹部ニ対スル講習会
- (4) 青少年長勇軍希望者ノ拓殖講習会
- (5) 市町村事務主任者、国民学校教員、青年学校教員等関係者ノ講習会

議会

- (6) 帰還指導員長勇隊訓練生ヲ中心トシタル座談会
(縣及縣下町村又ハ部落ニテ開催)
- (7) 現地視察者ヲ中心トシタル座談会
(縣及縣下町村又ハ部落ニテ開催)
- (8) 道府縣職員ヲ中心トシタル座談会
(縣及縣下町村又ハ部落ニテ開催)

- (19) 青少年義勇軍ノ維持
- (10) 青少年義勇軍部、由、迄、ハ隊編成、指導
- (11) 國民學校、青年學校、農學校ノ生徒児童ニ対スル指導
- (12) 興臣青少年文隊ノ編成講習
- (13) 義勇隊訓練生ノ募集、年上義勇隊ノ作成整理
- (14) 義勇隊内地訓練、送、輸送
- (15) 義勇隊訓練生ノ入退所共ノ他ノ連絡並ニ處置
- (16) 雇傭関係ノ調整
- (17) 戸籍、兵籍等ニ関、レ、ル取
- (18) 指導員ニ関、レ、ル取
- (19) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ

- (1) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (2) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (3) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (4) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (5) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (6) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (7) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (8) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (9) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (10) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (11) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (12) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (13) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (14) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (15) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (16) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (17) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (18) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ
- (19) 開拓民及農林ノ指導員ノ募集並ニ

(17) 現地視察者ヲ中心トシタル座談会

(一 縣及縣下町村又ハ郡務ニテ開催)

(18) 道府県役員ヲ中心トシテ座談会

(一 縣下町村又ハ郡務ニテ開催)

(19) 開拓民ノ配偶者ヲラントスル者ニ対スル拓殖訓練

(20) 開拓女塾生ノ募集送附

(21) 開拓女塾生ノ輸送送附

(22) 開拓民ニ対スル配偶者ノ訓練

(23) 一般開拓地事情紹介雑誌ニ関スル事項

(24) 各座談会ノ作成配付

(25) 雑誌及新聞、ラジオ等ノ利用

(26) 講演会、博覧会、展覽会ノ開催

(27) 通信及面接ニヨル移住相談

(28) 現地視察ノ派遣送附

(29) 現地開拓民及隊員隊訓練生ニ対スル慰問品、激励文ノ募集

(30) 現地開拓民及隊員隊訓練生ニ対スル開拓文庫ノ募集送付

裏面あり

五、昭和二十二年計費概算
昭和二十二年計費概算

昭和二十二年計費概算ハ東亞共榮圏内ニシテケル大和民族ノ
配分可成ノ為ニ政策ニ照シテ二十二年計費トシテ政策基ニ
依リ更ニ第一五箇年計費ノ支費ニシテ先下ノ戦時態勢ニ即
シテ計費上ニ一五箇年計費ノ重要政策タル使命ヲ更ニ昇揚シ
得ニ日本内地人
計費上ニ中核トナル民族間ノ相互達成・東亞防衛ニ於ケル北方據
拠ノ強化・南洋進出ノ改良促進及増産促進ニ基テテ指向シテ之ガ策
定ヲ爲スモトス

要 綱

一 第二第三箇年計費ハ二十二年計費ニ基テ計費ヲ標準トシ第一期計費ヲ
過シ算計三十萬戸ニ達セシムルヲ目標トシ昭和二十七年歴以降五箇
年間に一般計費此ノ戦時態勢完結ヲ含メ二十二年計費目標ト
ス・戦時態勢ニ付テハ二十二年計費目標トス

三、第二期五年計畫、是レニ當リテハ一貫セル旅費、下ニ各關係機關ニシテ共ニ綜合的施設ノ發達ニ遺憾ナカラシムルト共ニ此方宿學乃、軍化ヲ期スルモノトス

三、地方民ニ付テハ日滿兩國ニ通ズル適正ナル農村人口ノ維持培養ヲ目途トシ、農村ノ再發展ヲ主眼トスル分村計畫ニ依ルヲ原則トシ、母村ト子村トヲ聯絡シ、官廳トノ密接的、社會的、經濟的連絡ノ緊密化ヲ圖ルヲ共ニ之ヲ進正ノ計畫的且確實ナル完遂ヲ期スルモノトス
時局ノ進展ニ對シテ、婦女ニ付テハ之ガ保護發展ニ付キ特別ノ考慮ヲ拂フモノトス

四、青年義務隊ニ付テハ、獨立部隊編成ヲ一層計畫的ナラシメ、之ガ訓練內容及施設ノ改善充實ヲ圖ルモノトス

五、女子ニ付テハ、其ノ積極的進出ヲ促進スル爲女子一般ニ對スル啓蒙宣傳、教育、及ニ徹底セシメ女子訓練施設ヲ整備充實シ、速急ニ諸市民に備者ノ備及ニ圖ルモノトス

六 陸軍民治準備、陸軍備隊ニ付テハ速急ニ之ガ養成設備ヲ整備スルト共
 ニ特ニ行年壯勇隊員中ヨリ之ガ適格者ヲ簡拔シ養成スルノ万途ヲ講
 ズルモノトス
 依健營陸軍部員ニ付テハ其ノ補充ニ關シ一層有效ナル万途ヲ考究ス
 ルモノトス
 七 陸軍民治準備ニ付テハ既述方針ニ則リ之ガ普及徹底ノ積極化ニ付
 キ待接ノ措置ヲ講ズルモノトス
 八 陸軍民治準備ニ付テハ綜合土地計畫並ニ國防上ノ要請ヲ勘案トスル
 ト共ニ入植ノ實施ハ可及的集約的且效率的ナラシムルモノトス。之
 ガ爲地調査ノ能率化ト土地改良事業ノ積極化トヲ圖ルト共ニ之ニ
 關スル資金、資材、技術等ノ供給ニ付キ日不備ニ於テ更ニ積極的ニ
 圖ルモノトス
 九 陸軍民治準備、軌道、道路、運河及通信ノ施設ヲ計画的ニ實施スルト
 共ニ武備及整備施設ノ充實シ以テ國防増進、一層の推進ニ努ムルモ

裏面あり

ノトス

大抵拓民ニ對スル日滿兩政府ノ補助ニ付テハ現下ノ經濟的諸條件ニ
即チヒシムルト共ニ拓民ノ立地條件ト建設經營ノ難易等ヲ勘察シ
補助ノ進止ヲ期スルモノトス

六 滿洲拓務公府ノ資本金ニ付テハ既述ノ進捗ニ伴ヒ所要ノ増額ヲ行フ
コトヲ考慮スルト共ニ資金調達ヲ圓滑ナラシムル爲日滿兩政府ニ
公テ適當ナル万途ヲ講ズルモノトス

十一 拓民生活資料ニ付テハ之ガ確保及輸送ノ優先ヲ期スル爲特段ノ措置
ヲ講ズルモノトス

十二 拓民地ニ於ケル保健、衛生、教育、文化等ノ諸施設ヲ改善充實シ、
以テ健康拓民ノ生育ノ安定向上ヲ期スルモノトス

十三 日本ノ移住計畫ニシテ積化ニシテ日本局ノ現地生産ニ
付テモ一被ノ考慮ヲ加フモノトス

備考 本計畫ノ實施ニ當リテハ各年度ニ於ケル勞務、資金、資材等ノ
實際ノ動向ヲ實行計畫ニ規定スルモノトス

別紙三

地方官官制中改正ノ件

勅令第~~七~~号

地方官官制中左ノ通改正ス

第十五條第一項第五号ヲ第六号トシ以下順次繰下ゲ第四号ノ

次ニ左ノ一号ヲ加フ

五 移植民ニ関スル事項

附 則

本令ハ昭和十五年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

理由

滿洲開拓事業ノ進展ニ伴フ地方機構ノ拡充ニ照應シ地方廳ニ
於ケル移植民事務ノ所管ヲ明ニスルノ要アルニ由ル

説 明

地方廳ニ於ケル移植民事務ハ滿洲肉拓事業ノ進展ニ伴ヒ其ノ
事務量著シク増大ヲ致セル爲昭和十三年以來地方移植民事務
職員ヲ設置シ之ニ対応シ来リタルモ其ノ所管ニ付テハ地方官
官制ニ時ニ明不モズシテ從來内務部課職員ノ俟カノ下ニ事務
部之ヲ管掌シ来リタリ然ルニ滿洲肉拓民事務移植民事務ハ客
十二月ヲ滿洲肉拓政策基本要綱レノ決定等ヲ契機トシ愈々其
ノ使命ノ重ミヲ加フルト共ニ一級ノ範圍ト進展ヲ所期セ
ルニ依リ之ガ事務遂行ニ遺憾ナキヲ期スル爲今般移植民事務
ヲ所管スル中央機構ノ充實ニ伴ヒ地方機構ヲモ拡充スルニ至
リタルヲ以テ之ニ照應シ地方官官制ニ其ノ所管ヲ明示シ以テ
地方移植民事務ノ実施運営ニ遺憾ナキヲ期スルノ要アリ

大日本帝國政府

昭和十七年九月七日

厚生大臣官房秘書課長



內務大臣官房人事課長 殿

九月五日御來照ノ廳附縣行政簡素化實施ニ伴フ官制改正案中別記事項追加方可然御取計相成度此段及回答候

裏面白紙

大日本帝國政府

記

(1) 廳府縣臨時職員等設置制改正案(案第四條)附則別表中「衛生技師」ノ次ニ

「防疫醫

臨時海港檢疫醫

ヲ、
「衛生主事補」ノ次ニ

「臨時海港檢疫員

ヲ、
「衛

生技手」ノ次ニ

「防疫醫

臨時海港檢疫醫

ヲ加フルコト

防疫獸醫

」

(2) 兼任文官特別任用令(改正案第八條)ニ左ノ一項ヲ加フルコト

左ニ掲グル者ヲ各特定ノ當該事務ニ從事セシムル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ

拘ラズ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

「大學令ニ依ル大學ノ學部ニシテ各其ノ從事スル學務ニ關スル學科ヲ主タル

學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者

裏面白紙

大日本帝國政府

- ニ、專門學校ニシテ各其ノ從事スル學務ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノ
ニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シ且二年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リテ各其
ノ從事スル學務ト同種ノ學務ニ從事シタル者
三、各其ノ從事スル學務ニ關スル學識經驗アル者ニシテ高等試験委員ノ銜ヲ
經タルモノ

裏面白紙

大日本帝國政府

奏任文官特別任用令中改正案修正理由

(一) 「大學令ニ依ル大學ノ學部ニ於テ其ノ從事スル學務ニ關スル學科ヲ主タル學科トシテ之ヲ履修シ學士ト稱スルコトヲ得ル者」ニ付テハ直ニ任用セラレタルニ拘ラズ今次ノ改正案ニ依レバ「三年以上地方行政學務又ハ之ト同種ノ實務ニ從事」スルコトヲ要シ「高等試驗委員ノ銓衡」ヲ經ルコトナリ其ノ任用資格甚シク制限セラレタルコト

(二) 「專門學校ニ於テ其ノ從事スル學務ニ關スル學科ヲ主タル學科トシテ履修シ卒業シタル者」ニ付テハ二年以上判任官待遇以上ノ職ニ在レバ直ニ任用セラレタルニ拘ラズ今次ノ改正案ニ依レバ「三年以上地方行政學務又ハ之ト同種ノ實務ニ從事」シ且「高等試驗委員ノ銓衡」ヲ要スルコトナリ其

裏面白紙

大日本帝國政府

ノ任用資格著シク制限セラレタキコト

(三)

従前其ノ従事スル事務ニ關スル學識經驗アル者ニ付テハ特別任用ノ途拓カ
レ在リタルニ拘ラズ今次ノ改正案ニ依レバ其ノ途鎖サレ人材ヲ民間ヨリ簡
拔スルコト能ハザルコトナリタルコト

(四)

今次改正案ニ依レバ「地方行政事務又ハ之ト同種ノ實務」ニ従事シタル者
ニノミ任用資格與ヘラレ居リ「中央ニ於テ行政事務ニ従事シタル者」ニ對
スル任用ノ途鎖サレタルコト

裏面白紙

裏面白紙

昭和十七年九月五日

内務大臣官房人事課長

大臣官房秘書課長殿

農ニ關聯決定相成候行政簡素化ニ關シ別紙ノ通勅令改正案ヲ提出
セラレ候ニ付御審査ノ上御意見有之候ハバ至急御申出相成度
道テ右ニ關シ來ル八日午前九時ヨリ法制局ニ於テ會議相成候趣
ニ付申添候

内務省

事務課

昭和十七年九月七日

人事部長

大臣者

次官

警務課長

請議案

警視廳官制北海道廳官制地方官之官制高野官之官
并俸給令及昭和十六年勅令第四十七号中改正ノ要アリ
別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

公府外務省
内務省
警務課

裏面あり

17.9. 123

17. 147

昭和十七年九月七日

大臣等

次官

人事部長

内務部長

陸軍部長

海軍部長

司法部長

文部部長

警務課長

請議案

警視廳官制北海道廳官制地方官制高野官制
并俸給令及昭和十六年勅令第四十七号中改正ノ要アリ
別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

内務省

裏面あり

年 月 日

内閣總理大臣宛

大臣

内 務 省

勅令第

號

第一條 審視廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「事務官 專任十二人」ヲ「事務官 專任十三人」ニ、
 「技師 專任十九人」ヲ「技師 專任十八人」ニ、
 「屬 專任二百五十六人」ヲ「屬 專任二百六十人」ニ、
 「技手 專任三十人」ヲ「技手 專任二十二人」ニ改メ「消防司令 專任十一人奏任」ノ次ニ「職業官 專任九人奏任」ヲ、
 「消防機關士 專任十五人判任」ノ次ニ「職業官補 專任八十七人判任」ヲ加フ

内務省

第一條ノ二中「事務官 專任二人以内」ヲ「事務官 專任一人」ニ、
 「技師 專任五十八人以内」ヲ「技師 專任二十二人以内」ニ、
 「屬 技手」 專任五百五十人以内」ヲ「屬 技手」 專任四百二十人以内」ニ改ム

第三條中「特ニ厚生大臣ノ指定スル衛生事務、」ヲ削リ「竝ニ石油ノ消費規正ニ關スル事務」ヲ、「石油ノ消費規正ニ關スル事務、職業紹介法施行ニ關スル事務、國民勞務手帳法施行ニ關スル事務、國民職業能力申告令施行ニ關スル事務、國民徵用令施行ニ關スル事務（國民徵用扶助授護ニ關スル事務ヲ除ク）、勞務調整令施行ニ關スル事務及國民勸勞報國協力令施行ニ關スル事務」ニ改ム

第十二條中「保安衛生部」ヲ「保安部」ニ改メ同部ノ部第三號中「及衛生」ヲ削リ左ノ六號ヲ加フ

二十一 職業紹介法施行ニ關スル事項

二十二 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項

二十三 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項

二十四 國民徵用令施行ニ關スル事項（國民徵用扶助援護ニ

關スル事務ヲ除ク）

二十五 勞務調整令施行ニ關スル事項

二十六 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項

第十二條ノ二中「保安衛生部」ヲ「保安部」ニ改ム

内務省

第十七條ノ二 職業官ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ヲ掌ル

第二十條、第二十六條及第二十八條中「、衛生」ヲ削ル

第二十二條ノ二 職業官補ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ指揮

ヲ承ケ事務ニ従事ス

第三十五條 警視廳管内ニ國民職業指導所ヲ置ク其ノ位置、名稱、管轄區域、事務取扱範圍及定員ハ内務大臣之ヲ定ム

國民職業指導所長ハ警視總監ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一 職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項

二 職業轉職ノ指導ニ關スル事項

三 國民勞務手帳ニ關スル事項

四 國民職業能力ノ登録ニ關スル事項

五 國民徵用ニ關スル事項

六 勞務調整令ニ關スル事項

七 國民勤勞報國協力ニ關スル事項

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス

所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ

審視總監必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ國民

職業指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

内務省

國民職業指導所出張所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充

ツ上官ノ指揮ヲ承ケ審視總監ノ定ムル所ニ依リ出張所所管ノ

事務ヲ處理ス

國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ審視總監之ヲ定

ム

聯絡委員ノ選任及解任ハ審視總監之ヲ行フ

聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導

所ノ業務ヲ補助ス

第二條 北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「小作官 專任一人奏任」ノ次ニ「職業官 專

任七人奏任」ヲ、「小作官補 専任一人判任」ノ次ニ「職業官
補 専任三十六人判任」ヲ加ヘ「技師 専任二十人」ヲ「技師
専任二十一人」ニ改ム

第十二條第一項中第十號乃至第十二號ヲ左ノ如ク改メ第十三號
乃至第十五號ヲ削リ第十六號ヲ第十三號トシ第十七號ヲ第十四
號トス

十 國民徵用扶助施設ニ關スル事項

十一 衛生ニ關スル事項

十二 國民體力法施行ニ關スル事項

同條第四項中第三號及第十九號ヲ削リ第四號ヲ第三號トシ以下

内務省

順次繰上ゲ左ノ六號ヲ加フ

二十二 職業紹介法施行ニ關スル事項

二十三 國民勞務手帳法施行ニ關スル事項

二十四 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項

二十五 國民徵用令施行ニ關スル事項（國民徵用扶助施設ニ

關スル事務ヲ除ク）

二十六 勞務調整令施行ニ關スル事項

二十七 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項

第二十四條ノ三 職業官ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ命ヲ承
ケ國民職業指導所ノ事務ヲ掌ル

ツ上官ノ指揮ヲ承ケ長官ノ定ムル所ニ依リ出張所所管ノ事務ヲ處理ス

國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ長官之ヲ定ム聯絡委員ノ選任及解任ハ長官之ヲ行フ

聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導所ノ業務ヲ補助ス

第三條 地方官官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「地方事務官 專任八百十六人」ヲ「地方事務官 專任八百十五人」ニ、「地方技師 專任三百八十七人」ヲ「地方技師 專任四百十人」ニ、「屬 專任三千七百八十七人」

内務省

ヲ「屬 專任三千七百八十三人」ニ、「技手 專任八百七人」ヲ「技手 專任八百十五人」ニ改メ「地方小作官 專任三十五人奏任」ノ次ニ「地方職業官 專任百三十三人奏任」ヲ、「小作官補 專任二十九人判任」ノ次ニ「地方職業官補 專任八百三十五人判任」ヲ加フ

第二條ノ二中「地方事務官 專任千六十一人以内」ヲ「地方事務官 專任千六十二人以内」ニ、「地方技師 專任三千九百五十九人以内」ヲ「地方技師 專任三千九百九十五人以内」ニ、「屬 技手」 專任二萬七千四十五人以内」ヲ「屬 技手」 專任二萬七千九百九十三人以内」ニ改ム

第二十九條、第三十二條及第三十五條第二項中「及衛生」ヲ削
ル

第二十九條ノ六 職業官補ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ指揮
ヲ承ケ事務ニ従事ス

第三十八條 北海道廳管内ニ國民職業指導所ヲ置ク其ノ位置、
名稱、管轄區域、事務取扱範圍及定員ハ内務大臣之ヲ定ム
國民職業指導所長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務ヲ
掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一 職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項

二 職業轉職ノ指導ニ關スル事項

内務省

三 國民勞務手帳ニ關スル事項

四 國民職業能力ノ登録ニ關スル事項

五 國民徵用ニ關スル事項

六 勞務調整令ニ關スル事項

七 國民勤勞報國協力ニ關スル事項

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス

所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ

長官必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ國民職業
指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

國民職業指導所出張所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充

第十四條第一項中第十號乃至第十二號ヲ左ノ如ク改メ第十三號乃至第十五號ヲ削リ第十六號ヲ第十三號トシ以下順次繰上グ

十 國民徵用扶助援護ニ關スル事項

十一 衛生ニ關スル事項

十二 國民體力法施行ニ關スル事項

同條第二項中「衛生及國民體力法施行」ヲ削ル

第十五條中第三號及第十九號ヲ削リ第四號ヲ第三號トシ以下順次繰上ゲ左ノ六號ヲ加フ

二十二 職業紹介法施行ニ關スル事項

二十三 國民勞務手續法施行ニ關スル事項

二十四 國民職業能力申告令施行ニ關スル事項

二十五 國民徵用令施行ニ關スル事項（國民徵用扶助援護ニ

關スル事務ヲ除ク）

二十六 勞務調整令施行ニ關スル事項

二十七 國民勤勞報國協力令施行ニ關スル事項

第十七條第三項中「第十五條第三號」ヲ「第十四條第十一號」

ニ改ム

第二十四條ノ二 地方職業官ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ命

ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ヲ掌ル

第二十八條、第三十二條及第四十條第二項中「衛生」ヲ削ル

内務省

第三十條ノ二 地方職業官補ハ國民職業指導所ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第四十八條ノ三 各府縣管内（東京府ヲ除ク）ニ國民職業指導所ヲ置ク其ノ位置、名稱、管轄區域、事務取扱範圍及定員ハ内務大臣之ヲ定ム

國民職業指導所長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一 職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項

二 職業轉職ノ指導ニ關スル事項

三 國民勞務手帳ニ關スル事項

内務省

四 國民職業能力ノ登録ニ關スル事項

五 國民徵用ニ關スル事項

六 勞務調整令ニ關スル事項

七 國民勤勞報國協力ニ關スル事項

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス

所長ハ地方職業官又ハ地方職業官補ヲ以テ之ニ充ツ

知事必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ國民職業指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

國民職業指導所出張所長ハ地方職業官又ハ地方職業官補ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ出張所所

管ノ事務ヲ處理ス

國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ知事之ヲ定ム

聯絡委員ノ選任及解任ハ知事之ヲ行フ

聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導

所ノ業務ヲ補助ス

第四條 廳府縣臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條第一項警視廳ノ部中「警視 專任四人」ノ次ニ「職業官

專任七人」ヲ、「警部 專任二十一人」ノ次ニ「職業官補

專任四百八十五人」ヲ加ヘ「技師 專任八人」ヲ「技師 專任

十人」ニ、「「屬
技手」 專任五十九人」ヲ「「屬
技手」 專任七十三

内務省

人」ニ改ム

同條同項北海道廳ノ部中「警視 專任一人」ノ次ニ「職業官

專任三人」ヲ、「小作官補 專任二人」ノ次ニ「職業官補 專

任百九十三人」ヲ加フ

同條同項府縣ノ部中「地方警視 專任二十五人」ノ次ニ「地方

職業官 專任七十九人」ヲ、「小作官補 專任三十一人」ノ次

ニ「地方職業官補 專任三千二百四人」ヲ加ヘ「地方技師 專

任百八十一人」ヲ「地方技師 專任百九十四人」ニ、「「屬
技手」

專任二千九百六十九人」ヲ「「屬
技手」 專任二千九百六十八人」

ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年勅令第

號附則第二項乃至第五項ノ規定ハ本令

ニ之ヲ準用ス但シ同令附則第二項ノ別表ハ左表トス

職 業 主 事	東京府管内ニ勤務スル者 警視廳職業官 北海道廳管内ニ勤務スル者 北海道廳職業官 東京府ヲ除ク各府縣管内ニ勤務スル者 地方職業官
職 業 技 師	東京府管内ニ勤務スル者 警視廳技師 北海道廳管内ニ勤務スル者 北海道廳技師 東京府ヲ除ク各府縣管内ニ勤務スル者 地方技師
職 業 主 事 補	東京府管内ニ勤務スル者 警視廳職業官補 北海道廳管内ニ勤務スル者 北海道廳職業官補 東京府ヲ除ク各府縣管内ニ勤務スル者 地方職業官補
職 業 技 手	東京府管内ニ勤務スル者 警視廳技手 北海道廳管内ニ勤務スル者 北海道廳技手 東京府ヲ除ク各府縣管内ニ勤務スル者 府縣技手

内 務 省

昭和十三年勅令第四百五十號及同年勅令第四百五十一號ハ之ヲ廢止ス

理由

職業主事、職業技師、職業主事補及職業技手ヲ廢シテ新ニ警視廳
北海道廳及各府縣（東京府ヲ除ク）ニ職業官、技師、職業官補及
技手ヲ設置シ且地方職業行政ヲ東京府ニ於テハ警視廳ニ道府縣ニ
於テハ各警察部ニ移管スルノ要アルト地方衛生行政（衛生警察關
係ヲ除ク）ヲ道府縣内政部ニ移管スルノ要アルトニ依ル

内務省

勅令第

號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十五條中「警視廳勞務官」ノ次ニ「警視廳職業官」ヲ、「北海道廳勞務官」ノ次ニ「北海道廳職業官」ヲ、「地方勞務官」ノ次ニ「地方職業官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内務省

理由

警視廳職業官、北海道廳職業官及地方職業官ノ設置ニ伴ヒ之ガ官
等及俸給ヲ定ムルノ要アルニ依ル

内務省

勅令第

號

昭和十六年勅令第四十七號中左ノ通改正ス

「警視廳勞務官」ノ次ニ「、警視廳職業官」ヲ、「北海道廳勞務官」ノ次ニ「、北海道廳職業官」ヲ加ヘ「及地方勞務官」ヲ、「地方勞務官及地方職業官」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内務省

理由

警視廳職掌官、北海道廳職掌官及地方職掌官ハ厚生省勞務官、警
視廳勞務官、北海道廳勞務官及地方勞務官ト同様其ノ職務ニ必要
ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銜ヲ經テ特ニ
之ヲ任用シ得ルコトト爲スノ要アルニ依ル

内務省

以下
三行

裏面白紙

史書

191

警視廳官制
職員定員改正調(職業、衛生兩行政移管三件7分)

第一條

事務官	現在官制 定員	指導所 移管1分	東京府職業 衛生課 移管1分	衛生課 移出1分	差引 増減	改正官制 定員
職業官	一二	九	一		一	一三
技師	一九	二	一	△四	△一	一八
属	二五六		四		四	二六〇
職業官補		八七			△八	八七
技手	三〇			△八	△八	二二

第一條 二

事務官	現在官制 定員	東京府職業 衛生課 移出1分	差引 増減	改正官制 定員
技師	二	一	△二	一
属技手	五五〇	九	△一五六	四〇二
技師	五八		△三六	二二

北海道廳官制
第一條

職業官	現在官制 定員	指導所 移管1分	改正官制 定員
技師	二〇	七	七
職業官補		三六	三六
技手	六五		(六五)

東京府職業關係職員定員調

事務官	技師	技手	屬	社會事業主事	社會事業主事補
一	(經一) 三	(臨) 四	(經五) 二 (經六) 三	一	一〇
			△ 二		
	(自四五)	(自二六)△	(自二四)△ (自二六)△ 三		(自二五)△ 一
(經一) 一	(經一) 三	(臨) 三	(經四) 一 (臨三) 七	一	九

厚生省調査
現在定員

十七年度減

簡素化ニ
依ル減

差引移管
數

備考 簡素化ニ依ル減ノ欄(一)内ハ減員率ヲ示ス

内務省

警視廳勤務衛生關係職員定員調

技師	屬	技手	衛生主事	衛生技師	衛生主事補	衛生技手	防疫醫(兼任)	防疫獸醫	防疫監吏
現在員數 (經五) (臨三)	(經) 五	(經九) (臨二) 一〇	二	四三	七八	一〇九	一二	三	一七五
簡素化ニ依ル減 (一四五) (一四五) 一	(一六) 一	(一四) (一六) 一	一	△七	△一五	△一五	△四	△二	△九〇
差引移管 人 (經四) (臨三) 六	(臨) 四	(經八) (臨一) 九	二	三六	六三	九四	八	一	八五

内務省

備考 簡素化ニ依ル減ノ欄(一)内ハ減員率ヲ示ス

大日本帝國政府

甲、地方官官制ノ改正

地方職權行政機構改正案

昭和十七年九月

一、第一條ニ左ノ官ヲ追加スルコト

地方職權官 一、一、奏任

地方職權官補 一、一、判任

三、第十五條（學務部）中職權行政ニ關スル事項（七號乃至十二號）（但シ國民徵用扶助援護ニ關スル事務ヲ除ク、本事務ハ内政部ノ所管トス）一ヲ第十六條（警察部）ニ移スコト

三、第二十四條以下適當ノ箇所ニ左ノ條文ヲ追加スルコト

(イ) 地方職權官ハ國民職權指導所ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ國民職權指導所ノ事務ヲ掌ル

(ロ) 地方職權官補ハ國民職權指導所ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

四、第三十五條第二項中地方勞務官ノ次ニ「地方職權官」ヲ、屬ノ次ニ「地方職權官補」ヲ加フルコト

裏面白紙

大日本帝國政府

1917

第四十二條以下適當ノ箇所ニ左ノ條文ヲ追加スルコト
各府縣管内（東京府ヲ除ク）ニ職業指導所ヲ置ク 其ノ位置、
名稱、管轄區域、事務取扱範圍 及定員ハ内務大臣之ヲ定

國民職業指導所長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ニ掲グル事務ヲ
掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一、職業紹介事業其ノ他職業紹介ニ關スル事項

二、職業轉職ノ指導ニ關スル事項

三、國民勞務手帳ニ關スル事項

四、國民職業能力ノ登録ニ關スル事項

五、國民徵用ニ關スル事項

六、勞務調整令ニ關スル事項

七、國民勸勞報國協力ニ關スル事項

國民職業指導所ハ職業紹介法第四條ノ職業紹介所トス
所長ハ職業官又ハ職業官補ヲ以テ之ニ充ツ

裏面白紙

大日本帝國政府

知事必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ國民職業指導所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

國民職業指導所出張所長ハ地方職業官又ハ地方職業官補ヲ以テ之ニ充ツ 上官ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ出張所所管ノ事務ヲ處理ス

國民職業指導所ニ置クベキ聯絡委員ノ定數ハ知事之ヲ定ム

聯絡委員ノ選任及解任ハ知事之ヲ行フ

聯絡委員ハ國民職業指導所長ノ指揮監督ヲ承ケ國民職業指導所ノ事務ヲ補助ス

乙、北海道廳官制及警視廳官制ノ改正

地方官官制ニ準ジ必要ノ改正ヲ行フコト

丙、地方職業官ノ任用資格

地方職業官ノ任用ハ地方勞務官ト同様學識經驗ニ依ル銓衡任用トスルコト

裏面白紙

大日本帝國政府

地方職權官ノ特別任用ニ關スル件

昭和十六年勅令第四十七號（厚生省勞務官等ノ特別任用ニ關スル件）中ニ「警視廳職權官、北海道廳職權官、地方職權官」ヲ加ヘ各其ノ職務ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得ル様改正スルコト

高等官官等俸給令中改正

第十五條中警視廳勞務官ノ次ニ警視廳職權官ヲ、北海道廳勞務官ノ次ニ北海道職權官ヲ、地方勞務官ノ次ニ地方職權官ヲ加フルコト

裏面白紙

道府縣衛生課ニ於テ所管スル事務ノ概目表

- 一 診療所及薬局ノ監督ニ關スル事項
- 一 痘苗、血清其ノ他細菌學の治療豫防劑ニ關スル事項
- 一 毒物、劇物、賣薬部外品及化粧品ノ取締ニ關スル事項
- 一 保健所及保健婦ニ關スル事項
- 一 衛生法ノ施行ニ關スル事項
- 一 醫師、齒科醫師、藥劑師ニ關スル事項
- 一 産科、看護婦及其ノ他ノ添屬ニ關スル事項
- 一 本邦行爲ノ取締ニ關スル事項
- 一 飲食物品ノ検査及飲用ニ關スル事項
- 一 醫藥品、衛生材料及醫療器材ニ關スル事項
- 一 産方法施行ニ關スル事項
- 一 水道及飲料水ニ關スル事項
- 一 下水道及汚穢物ニ關スル事項
- 一 畜畜及屠物ニ關スル事項
- 一 糞糞ニ關スル事項

- 一 衣服及住宅ノ衛生ニ關スル事項
- 一 飲食物品ノ他ノ物品ノ衛生取締ニ關スル事項
- 一 墓地及火葬場ニ關スル事項
- 一 浴場、温泉及多衆集合スル場所ノ衛生取締ニ關スル事項
- 一 預防、花柳病豫防、精神病及急性傳染病豫防ニ關スル事項
- 一 結核、トラホーム其ノ他慢性傳染病ニ關スル事項
- 一 寄生蟲病、原蟲病及地方病ニ關スル事項

(備 考)

一、○印ノ事務ニシテ現在警察署ノ所管ニ屬スルモノハ之ヲ警察署ニ
直スルコト

一、道府縣衛生課ノ所管事務中保健所又ハ地方事務所ヲシテ取扱ハシム
ルヲ適當トスルモノニ付テハ別途考充スルコト

裏面白紙

衛生課ノ内政部移管ニ關シ考備スベキ事項

衛生課職員及警察署ノ衛生關係職員タル警察官吏ハ左記ニ依リ借直スルコト

記

- (1) 警部ハ屬ニ振り替フルコト
- (2) 警部補ハ縣警又辨ノ屬ニ振り替フルコト
- (3) 巡査部長及巡査ノ定員數ニ相當スル道府縣警記ヲ内政部ニ借直クコト

大日本帝國政府

一 廳府縣臨時職員等設置制中ニ左ノ一條ヲ設クルコト

第〇〇條 傳染病豫防及臨時海港檢疫ニ關スル事務ニ從事セシ

ムル爲前〇〇ノ定員外ニ於テ臨時警視廳及北海道廳ニ技師、

屬及技手ヲ、府縣ニ地方技師、屬及技手ヲ置クコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル技師及地方技師ノ數ハ通シテ六十九人以內

トス

第一項ノ職員ノ各廳府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

裏面白紙

大日本帝國政府

臨時海港檢疫所官制中改正案

第四條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項ヲ削ル

臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

臨時海港檢疫醫

臨時海港檢疫官補

臨時海港檢疫所書記

臨時海港檢疫員

第六條 臨時海港檢疫醫ハ道廳府縣ノ技師若ハ地方技師又ハ技手、

臨時海港檢疫官補ハ道廳府縣ノ屬、警部又ハ警部補、臨時海港檢

疫所書記及臨時海港檢疫員ハ道廳府縣ノ屬ノ中ヨリ地方長官之ヲ

命ス

裏面白紙

大日本帝國政府

第十條ヲ第七條トシ第七條以下順次繰下ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(備考) 衛生課ガ内政部ニ移管サルル場合ハ第五條第一項
中警察部長ヲ内政部長ニ改メ右改正案中警部又ハ警部補ヲ削
除シ「臨時海港檢疫官補、臨時海港檢疫所書記及臨時海港檢
疫員ハ道廳府縣ノ屬」ト改ムルコトヲ要ス

裏面白紙

昭和十六年七月二十八日

七廿九

大西

一〇五三號

田谷 幸

年月日

課

先取御照會有之旨者附係高
等之官物任奉任別調紙之通
又御照會也

大西三毛

内務省

	合	
	ノ	
	計	計
	八	日
	立	日
	立	日

裏面白紙

大日本帝國政府

	主	手	外	手	手	手	手	手	手	手	手	手
小計	新 譯 官	技 師 官	技 師 官	小 計	土 木 技 師 官	技 師 官	技 師 官	技 師 官	技 師 官	技 師 官	技 師 官	技 師 官
		(註)	(註)									
				九							四	三
	(註)	(註)		(註)	(註)	(註)	(註)	(註)				
二 目 二		二 二 二 八 四		一 〇 〇	一 〇	二 五 七	二 七 四	二 〇 四	一			

本

官

勅

任

任

任

裏面白紙

大日本帝國政府

事務	總務	文書	法律	司法	外交	內務	農林	海軍	陸軍	教育	勸業	交通	衛生	警察	消防	其他
事務	總務	文書	法律	司法	外交	內務	農林	海軍	陸軍	教育	勸業	交通	衛生	警察	消防	其他
一				一		三										
一	一															
一	三	二	二	一	八	二	一	二	二	一						

神戶院

裏面白紙

昭和十一年八月二十七日

大日本帝國政府

總務廳	神戶市役所	地方官事務	逓信省	警視廳	大藏省	文部省	陸軍省	海軍省	逓信省	神戶市役所	手紙	長官事務
		(神戶市役所)										
(神戶市役所)												
1	1	1	2	1	1	1					1	

1885年

裏面白紙

大日本帝國政府

部	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課	課
總務部	秘書課	文書課	庶務課	法制課	會計課	統計課	審判課	勸業課	商工課	交通課	海陸課	農林課	衛生課	教育課	警務課	消防課	警備課	警備課	警備課	警備課
九三〇	九〇〇	三一三	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七	四一七

總務部

裏面白紙

昭和十六年七月十四日

法制局



内務省人事課長殿

照會



當局事務關係上必要有之候ニ付甚ダ御手數乍ラ貴省關係高等官ノ勅任奏任別人員ニ付御調査ノ上別紙様式ニ依リ御回報相煩シ度此段及依頼候也
追而差懸リタル必要有之候條至急御回報願上候

尙廳府縣關係ノ分ヲモ便宜貴省ニ於テ取纏メ御送付相成度

裏面白紙

高等文官勅任奏任別調

昭和十六年七月一日調

官名	勅任奏任別										合計	
	事務官	文官	技師	校長	教官	農林省小作官	鐵道省陸運監理官	軍醫保護院醫官	要スル	文官		
合計												

備考

- 一 昭和十六年七月一日現在官制定員（官制定員ナキトキハ豫算人員トス）ニ依リ調査ノコト
- 二 官制上奏任（判任）何人内何人ヲ勅任（奏任）ト爲スコトヲ得ト云フガ如キ規定アルモノニ付テハ勅任（奏任）ト爲シ得ル人数ヲ勅任（奏任）ノ定員トシテ計上シ右數ヲ差引キタル數ヲ奏任（判任）トスルコト
- 三 官制上勅奏又ハ奏判ト爲リ居リテ右ノ如キ區分ナキモノニ付テハ豫算定員ニ依リ之ヲ分別スルコト
- 四 勅任ニハ親任ヲ含マザルコト
- 五 待遇官吏ヲ含マザルコト
- 六 技師ノ項ニハ各應技師ノ外地方技師、氣象技師、鐵道技師其ノ他官名中ニ技師ノ文字ヲ用ウル者及技監ニ關スル事項ヲ記入ノコト

裏面白紙

六 技術官及教官（學校長ヲ含ム）竝ニ特別ノ學術技藝ヲ要スル文
官ノ部ニ付テハ技師、學校長、教官ノ外ハ具體的ノ官名別毎ニ
記入ノコト

七 官制上兼官ノモノハ内書トスルコト

昭和十六年七月二十八日

人事課

回答書

課

大策一・五九號

六月廿九日

法制向充

先般御照會旨之旨者各課長
在職期同調別紙之通又送付旨也

小紙添付

内務省

九

昭和十六年七月二十八日

人事課

回答書

課

昭和十六年七月二十八日

法制局宛

先般仰照令旨之意者有各課長
在職期間調別紙之通又送付書也

不依序付

内務省

課名及時期

中少者

省官	官及課長	大臣官房	地方官	警保局	土木局	計畫局	神社局	神祇院	郵務局	衛生局	社會局	警備局	社會局	防衛局
省官	官及課長	大臣官房	地方官	警保局	土木局	計畫局	神社局	神祇院	郵務局	衛生局	社會局	警備局	社會局	防衛局
省官	官及課長	大臣官房	地方官	警保局	土木局	計畫局	神社局	神祇院	郵務局	衛生局	社會局	警備局	社會局	防衛局
省官	官及課長	大臣官房	地方官	警保局	土木局	計畫局	神社局	神祇院	郵務局	衛生局	社會局	警備局	社會局	防衛局
省官	官及課長	大臣官房	地方官	警保局	土木局	計畫局	神社局	神祇院	郵務局	衛生局	社會局	警備局	社會局	防衛局
省官	官及課長	大臣官房	地方官	警保局	土木局	計畫局	神社局	神祇院	郵務局	衛生局	社會局	警備局	社會局	防衛局

備考	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止	三十一廢止
----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

裏面白紙

1 : 25

昭和十六年五月十三日



法 制 局



内務省人事課長殿

照 會

當局事務上必要有之ニ付甚ダ御手敷乍ラ貴省（外局ヲ含ム）各課長ノ在職期間ニ關シ御調査ノ上別紙様式ニ依リ御回報相煩度此段及依頼候也

〔備考〕

一、各省及其ノ外局ノ官房及部局ノ課毎ニ昭和十年五月一日現在ニ於ケル課長在職者ヨリ昭和十六年四月三十日現在ニ於ケル課長ノ直前ノ課長在職者迄ニ付在職期間別ニ員數ヲ記入スルコト

二、官房及部局名竝ニ課名ノ欄ニハ昭和十年五月一日ヨリ昭和十六年四月三十日迄ノモノノ名稱ヲ記入スルコト

右期間中ニ設置廢止セラレタル官房及部局竝ニ課ニ付テハ備考欄ニ其ノ設置廢止ノ年月日ヲ記入スルコト

三、異動事由中課ノ設置廢止ニ因ルモノトハ課ガ廢止セラレ又ハ課ガ設置セラレ之レニ伴ヒ異動ヲ生ズル場合ヲ謂フ

課ノ名稱ノミ變更セラレ權限ノ異動ナキ場合ハ課ノ設置廢止ニ含ま
ザルモノトス

四 勅任官ト爲リタル場合トハ奏任官タル課長ガ現在ノ地位ヲ離レ勅任
官タル課長、局長其ノ他ノ地位ニ轉ジタル場合及勅任官タル課長ガ
他ノ勅任官タル地位ニ轉ジタル場合ヲ謂フ

裏面白紙

大日本帝國政府

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(規定規格B5一八二×一二七紙)

335

裏面白紙

大正十五年以降歴代課長調

地方局

年次	行政課長	財政課長	地方債課長
大正十五年	安井英二 (一四一〇、一)	大連茂雄 (一五、一〇、二一)	田中廣太郎 (三三、二二、二〇)
昭和二年	大連茂雄 (二、四三、〇)	安井英二 (三、六、二九)	坂千秋 (四、二二、二)
三	安井英二 (四七、一〇)	大連茂雄 (六、二、九)	坂千秋 (六、一、九)
四	大連茂雄 (六、二、九)	坂千秋 (七、三、一〇)	坂千秋 (七、三、一〇)
五	大連茂雄 (七、六、三〇)	坂千秋 (七、六、三〇)	坂千秋 (七、六、三〇)
六	大連茂雄 (七、六、三〇)	坂千秋 (七、六、三〇)	坂千秋 (七、六、三〇)
七	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)
八	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)
九	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)
一〇	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)
一一	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)	坂千秋 (一〇、五、三一)

大日本帝國政府

年次	庶務課長	行政課長	財政課長	監督課長	監査課長	振興課長
一三	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
一二	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
一一	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
一〇	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
九	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
八	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
七	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
六	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
五	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
四	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
三	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
二	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)
一	永安百治 (二、四、三)	加藤於菟丸 (一、三、一八)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)	木村清司 (一、三、二二)

(折上り監定規程第一八三三條七號)

大日本帝國政府

							高田	古井	成田	新居	山崎	
			六	七	八	九	四	村	田	善	崎	
			一	二	三	四	五	喜	一	善	善	
			七	八	九	十	金	飲	一	善	善	
			十	十一	十二	十三	五	寶	郎	善	善	
			十四	十五	十六	十七		臣	郎	善	善	
			十八	十九	二十	二十一						
			二十二	二十三	二十四	二十五						
			二十六	二十七	二十八	二十九						
			三十	三十一	三十二	三十三						

大臣官房

課長

局長

局長

（昭和十一年一月一日）

裏面白紙

大日本帝國政府

三 六 五	土 四 五	九 七 十一	土 三 十四	昭 和 十 二 年 十 月 一 日 迄 止 計 画 切 上 し	計 画 局 都 市 計 画 課 長 未	岩 手 " " " "	栃 木 縣 知 事 未	大 分 縣 知 事 未	白 松 篤 樹
六 十 一	土 三 十六 五	土 三 十三	土 四 廿 三		計 画 局 都 市 計 画 課 長 未	雪 澤 千 代 治	松 村 光 磨	白 松 篤 樹	

大臣官房

都市計畫課長

裏面白紙

昭
和
十
二
年
十
月
一
日
迄
止
計
画
切
上
し

大日本帝國政府

九	九	九	九	九	六	六	五	三	三
九	七	七	六	六	六	六	六	五	四
十	五	五	五	四	四	三	二	二	一
文書課長	內閣調査局調査部長	厚生省衛生局指導課長	大藏省総務部長	神社局総務課長	人事課長	人事課長	人事課長	人事課長	人事課長
末	末	末	末	末	末	末	末	末	末
田中重三	内藤寛一	長谷川透	石井政一	水野亮	古井亮	古井亮	古井亮	古井亮	古井亮

裏面白紙

大日本帝國政府

十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五	十一 十五
十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五	十五 十五
免又(兼任)	山梨縣知事	佐賀	厚生省職業課長	大分					
未	未	未	未	未					
山崎	藤原孝夫	加藤於菟丸	熊谷憲一	三好重夫	灘尾弘吉				

大臣官房
會計課長

(規定規條第百一八二(三)七號)

裏面白紙

大日本帝國政府

									七、六、三〇	地方局長
									十五、四、一	地方局長
									財務	行政課長
									〃	課長
									〃	長
									未	加藤於菟丸
									井田	寬完二

地方局

地方債課長

（規定用紙 85 八二五二五七種）

裏面白紙

大日本帝國政府

									十一 十九	
									十一 四一	財務課長
									十三 四廿一	地方局庶務課長
									振興課長	三重縣警部
									1	1
									木村清司	永安野 寛治

裏面白紙

大日本帝國政府

十三
四
廿

監
督
深
長

小
林
千
秋

（定規 85 一八二×二三七種）

533

裏
面
白
紙

大日本帝國政府

									共 一 八	共 四 十	共 四 廿 一	共 四 廿 二	
										共 五 廿 三	共 五 廿 四	共 五 廿 五	
										內務事務官 二等	北海道土木部 長	福井縣 知事	
										未	未	未	
									岡 本 茂	村 田 五 郎	今 松 治 郎	木 村 清 司	

振興課長

（明治廿五年三月廿一日）

裏面白紙

大日本帝國政府

三
四
廿一

財
政
課
長

三
好
重
夫

國家規格 B5 (182 × 257 種)

裏面白紙

大日本帝國政府

十五
十六
十七

稅務課長

三好重夫

昭和三十九年五月二十七日

236

裏面白紙

大日本帝國政府

							七、六、三十	
							十、五、三十一	行政課長
							十三、四、十八	岐阜縣知事
						肉	大臣官房會計課長	
						岡	文書課長	
							又	坂
							又	平
							又	秋
						齋	加藤於菟丸	
						藤	古井喜實	
						昇		

（定及符 五二八二六二七種）

裏面白紙

大日本帝國政府

								土 四 一	土 四 五	土 四 五	庶務 課 長
							土 四 八	土 四 八	土 四 五	宮 城 縣 總 務 部 長	
							財 政	警 務 課 長	警 務 課 長	警 務 課 長	
							未	未	未	未	
							三 好 重 夫	田 中 重 之	田 中 重 之	永 安 百 治	

西定規好 25-182X237 (1)

裏面白紙

大日本帝國政府

十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
廿七	廿四	廿一	十八	十五	十二	九	六	三	廿	十七	十四	十一
廿七	廿四	廿一	十八	十五	十二	九	六	三	廿	十七	十四	十一
免不	警務課長	行政課長	東京府總務部長	厚生省會計課長	監查官	二子	未	未	未	未	未	未
木村清司	數藤鐵臣	古井喜實	宮村才一郎	生悦佐求馬	富田昌福	未	未	未	未	未	未	未

監查課長

裏面白紙

明治廿七年八月二日

大日本帝國政府

九 七 十	十 四 廿 二	十 三 二 十 二	十 三 六 五	十 二 六 六	十 一 一 二	十 九 八	十 五 廿 四	十 五 廿 三				
十 一 四 廿 二	十 三 二 十	十 三 六 五	十 二 六 四	十 四 一 一	十 四 九 五	十 五 廿 四	十 五 廿 三					
朝鮮總督府事務官	岐阜縣知事	警保局長	同	和歌山縣知事	福島縣知事	愛媛縣知事	島根縣知事					
/	未	未	未	/	未	未	未					
相川勝六	宮野省三	安倍源基	富田健治	清水重夫	橋本清吉	中村敬之進	大坪保雄	村田五郎				

勅任事務官

保安課長

裏面白紙

大日本帝國政府

十一	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
十九	廿五	廿一	十八	廿一	廿五	廿八	廿五	廿一	十八	廿一	廿五	廿八	廿五	廿一
神奈川總務局長	免又(兼)勅	文部省社會教育局長(兼)	京都府總務部長	文書 深 長	人事	大阪府警察部長	警視庁特別高等警察部長							
未	未	未	未	未	未	未	未							
中野 亨 印	橋本 清 吉	田中 重 三	橋本 清 吉	豊 藤 殿 臣	町 村 金 五	富田 昌 福	水 池 亮	今 井 久						

警 務 課 長

裏面白紙

國家保存 昭和三十八年三月廿九日

241

大日本帝國政府

						五十三	十四九八	高一十	十三十一	共廿廿八	外事課長
						五十一	高九八	十四一十	十三一六	十三一十	
							總力戰研究所員	福岡縣總務部長	愛媛縣警察部長	保安課長	
							1	末	1	末	
						入江 誠一郎	大島 弘夫	村田 五郎	豊島 章太郎	清水 重夫	

裏面白紙

明治三十四年八月二十七日

292

大日本帝國政府

																					九 七 十	
																					土 四 廿 三	高 等 課 長
																					朝鮮總督府事務官	1
																					兼 任 助 相	川 勝 六

（現存現存 第一八二五 第七種）

裏面白紙

大日本帝國政府

十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四
內閣調查局調查長	文書課長	學視察刑部部長	富山知警察部長	監査課長	情報局情報官 兼内務事務官 三子										
未	2	未	1	未	1										
中村 敏之進	內 藤 寛一	大 坪 保雄	大 島 弘夫	生 悦 住 求馬	福 本 柳一	赤 羽 穰									

圖書課長

裏面白紙

大日本帝國政府

											十三、七、廿九
											十四、一、十一
											十四、四、廿一
											十五、四、十
											和歌山縣知事
											免又(兼任)勅
											福岡縣警務部長
											未
											未
											赤羽
											野村儀平
											橋本清吉
											清水重夫

經濟保安課長

昭和三十二年七月二十一日

裏面白紙

府政國帝本日大

							共 一 八	共 一 八
							共 一 八	共 一 八
							部 市 計 畫 課 長	檢 閱 課 長
							未	
							高 橋 三 郎	高 橋 成 格

46

1875

裏面白紙

大日本帝國政府

十五	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
防	犯	深	長	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外	外
清	水	重	夫	沖	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
橋	水	池	亮	野	村	儀	平	野	村	儀	平	野	村	儀	平
橋	本	政	實	橋	本	政	實	橋	本	政	實	橋	本	政	實

防犯深長

裏面白紙

大日本帝國政府

十六、四、十八	十四、七、十二	十四、八、一	十三、七、二三	十二、七、九	五、四、十	五、四、廿	六、七、七	十三、七、二	九、七、二	六、七、廿	イ
	六、七、三	十四、七、一		十、四、十七	十六、四、十八	五、四、十	三、七、二	十三、七、九	土、七、七	九、七、二	道路局長
						圖書課長	秋田縣總務部長	文書	同	河川課長	課長
							未	未	2	2	
川上和吉	清水良策	武井祥嗣	岡田文秀	丹羽七郎	瀧尾弘吉	田中省吾	福本柳一	阿部邦一	石井政一	新居善太郎	武井群嗣

土木局

裏面白紙

内閣府第一八六二五七種

大日本帝國政府

						共 一 八	共 一 八	共 一 八	共 一 八
							共 一 八	共 一 八	共 一 八
							振 興 深 長	奈 良 縣 知 事	企 畫 院 部 長 (兼)
							未	山 内 逸 茂 造	中 島 清 二
							重 成 格	岡 本	

都
市
計
畫
課
長

裏面白紙

大日本帝國政府

						一四六三	才一	一四六三	
							才二		
							技術課長		
							中澤誠一郎		春藤真三

計畫馬

才一 技術課長

才二 技術課長

(規定規格B5(八二・二三七種))

256

裏面白紙

大日本帝國政府

							五十	其
							四十	一
								十五
								四十
								愛知
								警備
								部長
								又
								西
								龜山
								孝
								廣
								忠
								雄
								一

防空課長

西龜山孝一
廣忠雄

昭和十五年八月三十日

裏面白紙

57

大日本帝國政府

十六、五	十五、十	十五、十四	十六、廿四
五、四、十	五、十、九	六、六、五	十、五、十四
東京府總務部長	神祇院總務局長 <small>(兼)</small>	同 <small>御市計畫課長</small>	大臣官房會計課長
2	未	2	3
中村 四郎	石井 政一	中島 清二	兒玉 九一

神社局

總務課長

(規定規格 B5 一八二×二六〇 用紙)

59

裏面白紙

大日本帝國政府

																					五 三
																					十五 土 九
																					神 祇 院 書 記 長
																					1
																					伊 藤 謹 二

指導長

昭和十一年八月二十五日

裏面白紙

大日本帝國政府

一四七三	神	造
五五九	社	司
神造司官課長		
神造司官課長 神造司官課長 神造司官課長 神造司官課長		
角	南	隆

神造司

造司官課長

神造司官課長
神造司官課長
神造司官課長
神造司官課長

角南

隆

規定規格 B5 (182 x 257 ㎜)

261

裏面白紙

大日本帝國政府

												七 三 三	七 七 八	七 三 四	
												七 三 四	七 一 七	七 七 八	
												尚 務 名 書 之 本	府 中 書 記 及	會 計 課 長	
												三	末	一	
												成 田 一 印	持 永 義 夫	能 谷 憲 一	

社會局

庶務課長

(西之規格B5(210×297))

267

裏面白紙

大日本帝國政府

										土 四 廿 五
										廿 一 未
										原 生 書 記 長
										/
										曾 我 梶 松

候
監
部

組
合
深
長

(西正規格B5一八三三紙七枚)

-68

裏
面
白
紙

大日本帝國政府

									四 八 一	土 四 廿	規 畫 部
									土 四 廿	土 四 廿	規 畫 部
									保 險 院 司 務 長	保 險 院 司 務 長	保 險 部 長
									一 〇	一 〇	規 畫 部
									川 村 秀 夫	清 水 秀 夫	規 畫 部 長

社會局保險部

(規定規格四一八×二五七種)

269

裏面白紙

大日本帝國政府

大 一 十 八	士 田 甚
士 其 四 甚	士 監 其
能 余 局 書 記 長	厚 中 名 書 記 長
川 村 秀 文	松 原 久 人

係險部

監查課長

友

裏面白紙

大日本帝國政府

									七 三 三	土 三 十 四
									十 三 十 四	土 四 廿 五
									熊 谷 深 長	組 合 深 長
									了 熊 谷 憲 一	未 曾 我 提 松

保
險
部

（規定規格の一八二×二五七種）

裏面白紙

271

大日本帝國政府

										四 一 廿 七	土 三 三 九
										土 三 三 九	土 三 三 九
										存 生 了 物 友	不 除 另 働 機 同 帝 小 子 所 長
										ノ	北 光
										北 光	同
										正	壽
										己	魚

監 督 部
智 深 長

定規第百一八二五五七號

292

裏面白紙

大日本帝國政府

十一	十一	十一
十	十	十
九	九	九
八	八	八
七	七	七
六	六	六
五	五	五
四	四	四
三	三	三
二	二	二
一	一	一
未	未	未
安	安	安
積	積	積
得	得	得
也	也	也

労働部

課長

神奈川總務部長

秋本角書記長

原中書記長

又

未

未

中

安

安

野

積

積

善

得

得

教

也

也

裏面白紙

大日本帝國政府労働部

大日本帝國政府

										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五
										長 一 九 五 十 一	三 十 一 三 一 五

勞働部

部長

原
生
子
勲
長

永
野
松
長

昭和十六年七月

274

裏面白紙

大日本帝國政府

									七、六、五、 十、六、廿九	七、六、五、 十、六、廿九
									查一土	職 業 課 長
									及 及 及	內務部 及
									2	3
									近 長	谷 川 透
									藤 壤 太郎	

社會部

昭和二十一年八月二十二日

275

裏面白紙

大日本帝國政府

									十一、十八	十七、十八
									十七、十八	十七、十八
									應孫深長	厚生書記長
									又、未	持灘尾弘吉
									永義夫	

社會部
保護課長

（規定規格B5一八二×二七二）

裏面白紙

大日本帝國政府

										去
										土
										一
										去
										土
										厚
										生
										書
										況
										及
										未
										近
										藤
										壤
										太
										印

臨時軍機部

労働調整

(規定規格B5一八二×二七二)

裏面白紙

大日本帝國政府

									七、六、三十	衛生局
									七、九、五	保健課長
									七、八	
									七、九、二	大臣官房會計課長
									七、八	
									衛生局企畫課長	厚生局書記長
									厚生局書記長	
									未	藤原孝夫
									未	
									吉垣壽一郎	櫻井安右衛門
									吉垣壽一郎	

衛生局

保健課長

(印定履修 55-1822-2377)

裏面白紙

大日本帝國政府

										七 十三 廿七	土 八 六	土 八 六
										土 八 六	防 疫 課 長	土 八 六
										退 友		免 心
										9	高 橋 候	1
										内 野 仙		稔

計
原
書
本
内
修
長
師

防
疫
局

（規定規格 55-23x25 七種）

裏面白紙

大日本帝國政府

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(國定規格B5 一八一×二五七)

286

裏面白紙

課長在職期間調

内務省

官房 及局名	課名	課長在職期間調			備考
		課長在職期間	課長在職期間	課長在職期間	
大臣官房	人事課長	1	1	1	1910.1
文書課	文書課長	1	1	1	1910.1
會計課	會計課長	1	1	1	1910.1
都市計畫課	都市計畫課長	1	1	1	1910.1
農社局	總務課長	1	1	1	1910.1
指導課	指導課長	1	1	1	1910.1
考論課	考論課長	1	1	1	1910.1
造幣課	造幣課長	1	1	1	1910.1
地方局	地方債課長	1	1	1	1910.1
財務課	財務課長	1	1	1	1910.1
監督課	監督課長	1	1	1	1910.1
振興課	振興課長	1	1	1	1910.1
庶務課	庶務課長	1	1	1	1910.1
財政課	財政課長	1	1	1	1910.1
稅務課	稅務課長	1	1	1	1910.1
監査課	監査課長	1	1	1	1910.1
行政課	行政課長	1	1	1	1910.1
警保局	保安課長	1	1	1	1910.1
外事課	外事課長	1	1	1	1910.1
經濟保安課	經濟保安課長	1	1	1	1910.1
警務課	警務課長	1	1	1	1910.1
檢閲課	檢閲課長	1	1	1	1910.1
防犯課	防犯課長	1	1	1	1910.1
圖書課	圖書課長	1	1	1	1910.1
高等課	高等課長	1	1	1	1910.1
土木局	河川課長	1	1	1	1910.1
道路課	道路課長	1	1	1	1910.1
港灣課	港灣課長	1	1	1	1910.1
第一技術課	第一技術課長	1	1	1	1910.1
第二技術課	第二技術課長	1	1	1	1910.1
第三技術課	第三技術課長	1	1	1	1910.1
計畫局	庶務課長	1	1	1	1910.1
都計課	都計課長	1	1	1	1910.1
防空課	防空課長	1	1	1	1910.1

第一技術	神祇院總裁秘書	總務局	造營	考證	指導	調查	祭務	衛生局	防疫	醫務	保健	豫防	企畫	庶務	經理	組合	監査	監理	規畫	勞務	勞政	監督	福利	保護	職業	軍事扶助	傷兵保護	勞務調整	防衛研究所庶務
一四七三	一五二九	"	"	"	"	"	"	一三二一	一三二一	"	"	"	"	"	一一四二五	一一三二一	一一四二五	一一三二一	一一三二一	"	"	"	"	"	"	一一三二一	一一三二一	一一三二一	一一四七三
設置	"	"	"	"	"	"	"	廢止	廢止	"	"	"	"	"	廢止	廢止	廢止	廢止	廢止	"	"	"	"	"	"	設置	廢止	"	"

めくれず

昭和十六年八月二十五日



田 谷 稔

課

年 月 日 法制局

先般即照會相或言待過二日更ニ
關之調別紙之通又送付云也

内務省

めくれず

昭和十六年八月二十五日

内務大臣
官房長官
事務官

第 一 三 三 号

田 谷 稔

課

先般即照會相或令待過官更ニ
關ス調別紙之通又送付云也

内務省

外
次
控

待遇等官待遇ノ者

イ、高等官待遇ノ者

昭和十六年五月一日現在

官職名	官等配當	俸給給料 手当等額	俸給給料 手当等額	任用資格	恩給 有無	免官免職 例	特別ノ利便ナシ	本官 否
道路主事	四等乃至 八等	特別俸 四(五)以上 一級俸 四(五)	道府縣	文官任用令 第五條第一 項ノ規定ニ 依リ高等文 官ト爲ル者 格ヲ有スル者 其ノ他	有	一年	特別ノ利便ナシ	可
道路管理 職員制	地方待遇 十二級俸 職令八 (二)(三)	地方待遇 職令九	道府縣	地方待遇 職令二			特別ノ利便ナシ	可
道路技術師	三等乃至 八等		道府縣	大學令ニ依 ル大學ノ學 部ニシテ各			特別ノ利便ナシ	可
土木主事	四等乃至 八等		道府縣	其ノ從學スル 技術ニ關スル 學科ヲ主タル 學科トスルモ ノニ於テ其ノ 學科ヲ修メ 學士ト稱スル コトヲ得ル者 其ノ他			特別ノ利便ナシ	可
(地方土木 職員制)	()	()	道府縣	地方待遇 職令三			特別ノ利便ナシ	可
			道府縣	道路主事 備ニ同シ			特別ノ利便ナシ	可

内務省

一、特別ノ利便ナシ

(一) 不都合

(二) 前欄ニ同シ

(三) 土木ニ關スル行政處分ニシテ國ノ事務ニ屬スルモノ多シ然ルニ本官ノ定員數メテ僅少ナル爲現地ノ調査或ハ監督不充分ニシテ處理スルノ不都合ヲ來タス

(四) 府縣ニ於テ水害ヲ蒙リタル場合ノ旅費又ハ國ノ調査事務ヲ行フ場合ノ調査費等ハ國費ヨリ配當セラルモ待遇官吏ニハ之ガ支給ヲ爲スコトヲ得ズ待遇官吏ハ同一ノ事務ニ從事スルモ道府縣費ヨリ支給セラル、結果本官ニ比シ低額給與ト

二、特別ノ利便ナシ

(一) 不都合

(二) 前欄(一)(四)ニ同シ

(三) 土木部課ノ事務繁敷ヲ極ムル結果各種ノ事務ニ從事スル實情ニ在ルモ國有財産ニ關スル事務等道路關係以外ノ國政事務ヲ行フニ不都合アリ

(四) 道路行政ニ於テハ地方民衆ノ接觸多シ然ルニ本官ヨリ一段低立ニ在リト見ラレ職務執行上感信保持ニ不都合アリ

(五) 任用資格ハ本官ト異ルコトナク又本官同僚國ノ事務ニ從事スルモ待遇本官ニ比シ劣ル爲其ノ心算的影響ハ事務ノ能率ヲ阻害シ質的低下ヲ來ス虞リ

(六) 道路行政ニ於テハ地方民衆ノ接觸多シ然ルニ本官ヨリ一段低立ニ在リト見ラレ職務執行上感信保持ニ不都合アリ

明治神宮
外務管理
職員制三

加主
六〇以内
一級俸
三二五〇
十級俸
八〇〇
加夜
六〇以内
一級俸
三三〇〇
十級俸
一三〇〇
明治神宮外
務管理
職員制三
規則三

内
務
省

判任官待遇ノ者 昭和十六年五月一日現在

官職名	等級配當	俸給料 手當等ノ額	俸給料 手當等ノ額	任用資格	恩給 有無	免官 待遇	本官 ノ可 否
道路書記	一、二、三、四等	特別俸 (二八)以下 一初(二四五) 七級(四〇)	道府縣	文官任用令 第六條ノ規 定ニ依リ判 任又官下爲 ルノ資格ヲ 有スル者其 ノ他 地方待遇職 員令 四	有	免官 待遇 ニ依 ル 特 例	可
道路管理 職員制一	地方待遇 職員令八	地方待遇 職員令九					
道路技手	()	()		大學令ニ依ル 大學ノ學部 ニシテ各其 ノ從事スル 術ニ關スル 科ヲ主タル 科トスルモノ 於テ其ノ學 ヲ修メ學士 トシテ其ノ 得ル者其ノ 他 地方待遇職 員令 五			
土木書記	()	()		道府縣 ノ欄ニ同シ			
地方土木 職員制一	()	()					

内務省

望スル結果本官ノ配當多
キ他部課ニ轉出ヲ希望シ優
秀ナル者方漸次土木部課ヲ
去ルノ傾向アリ

一、特別ノ利便ナシ
前欄(一)(四)ニ同シ

二、不都合

一、特別ノ利便ナシ
二、不都合

(一)前欄(一)ニ同シ
(四)土木ニ關スル行政處分ニシテ
國ノ事務ニ關スルモノ多シ然
ルニ本官ノ定員僅少ナル爲現
場ノ調査或ハ監督不充分ニシテ
處理スルノ不都合ヲ來タス

(官幣大社) 熱田神宮 衛士長 衛士 (官幣社) 職制一七	明治神宮外 苑管理署主 事補 技手	(明治神宮外 苑管理署職 員制二)	社 (府社縣社 以下神社ノ 神職三關ス 九件一七)
衛士長 加給(三五以内) 一級(二二五) 十級俸(四二) 衛士 (三)圖乃至七 加給(二)以内 (官幣社職員 俸給規則一 三三ノ二)	加給(三五以内) 一級俸(四五) 九級俸(五)	(明治神宮外 苑管理署職 員俸給規則 一三)	各府縣ニ於テ 府縣令等ニテ 之ヲ定メ一定 七ス
(官幣大 社熱田 神宮)	明治神 宮外苑 管理署		府社縣 社以下
無	"	"	社司社學 社台格具ノ 他職社以 (府社縣社以 下神社神職 任用規則一 十一)
"	"	"	"
"	"	"	"
"	"	"	"
"	"	"	"
"	"	"	"

内務省

昭和十七年七月十八日

人事課長殿

上水白長



本年七月十九日付函承^レ之^レ事、以^レ所申^レ送^レ係^レ二係^レル^レ待^レ過^レ官^レ吏^レ之^レ關^レ云^レル^レ相^レ當^レ白^レ關^レ係^レ分^レ別^レ紙^レ及^レ送^レ付^レ候^レ也。



事務官

裏面白紙

299

裏面白紙

待選官吏ニ關スル制
不高等官待遇ノ者

昭和十六年五月一日制

官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
俸給	俸給	俸給
任用資格	任用資格	任用資格
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者
官職名	待選官吏	不高等官待遇ノ者

一 特別ノ制度ナシ
二 卸令
三 任用資格ハ官下異ナルトテ又官同科
別事務任事ニシテ官位以テ俸給決定
シテ差別待遇及差シク爲シテ心理的弊害
ハ甚ク年功進心向テ階級實質低トシテ
道徳的改良及地方民衆下接觸多シ
不官ニ位低位ニ在リ由テ職務執行ニ感候
保持ニ不都合ナリ
四 未嘗テ事務繁劇ヲ應ルニ結果若シテ
事務ニ任事スル字種ニ在テ之固有弊及
三 固ニ事務繁劇並務因任以外ノ固有事務
ヲ行フニ不便ナリ
五 特別ノ制度ナシ
六 卸令

官下
ト
備考

可

可

裏面白紙

()	未定印	()	未定印
()	八等	()	八等
()	,	()	,
()	,	()	,
()	<p>本令に依りて 各府県に於て 官立の小学校 に在りて 修業年限 が異なる者 あり 其の他</p>	<p>修業年限 ()</p>	<p>官立の小学校 に在りて 修業年限 が異なる者 あり 其の他</p>
()	,	()	,
()	,	()	,
()	,	()	,
()	,	()	,
()	<p>一特別ノ利便ナシ 一不都合 (由)四三同シ</p>	<p>修業年限 ()</p>	<p>修業年限 ()</p>
()	,	()	,
()	,	()	,
()	,	()	,
()	,	()	,
()	,	()	,
()	,	()	,

裏面白紙

待選官吏之関スル制
口判任官待遇

官職名 等従 配雷	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	()
待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	()
待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	()
免官休職 退職其他制限 又ハ他職ニ昇 ノ取之官等 ト異人特別	免官休職 退職其他制限 又ハ他職ニ昇 ノ取之官等 ト異人特別	免官休職 退職其他制限 又ハ他職ニ昇 ノ取之官等 ト異人特別	免官休職 退職其他制限 又ハ他職ニ昇 ノ取之官等 ト異人特別	免官休職 退職其他制限 又ハ他職ニ昇 ノ取之官等 ト異人特別	免官休職 退職其他制限 又ハ他職ニ昇 ノ取之官等 ト異人特別
待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	()
待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	待選 手雷等 欽	()

昭和十六年十一月一日前

特別ノ利便又ハ
不利ノ
六 特別ノ利便ナシ
由ニ取テ預備官等ニ于テ異人又
本官内轉明ニ其務ニ任事スルニ
得ル者ニ限リテ其利便ニ依リ
任事スルニ付シテ其利便ノ
本務執行ニ阻害ノ虞アリ
ノ旨下テ之ヲ撤回ス
四 姓名ノ三官上ニ其地位
職務上妨礙生ズル者ト見
凡場右ニ於テ下ノ旨下ス
三 本行洋事務室新設ニ付テ其
事務ニ従事スル者ノ内
四官ノ内ニ其事務ニ任事スル
以外ノ内閣事務ヲ行フニ
四 官等ニ付テハ其事務ニ任
務ノ執行ニ阻害ノ虞アリ
之旨下テ之ヲ撤回ス
去テ之ヲ撤回ス
(選任手)
一 前二角
一 四角

()	未 枚 子	(増 本 巻)	土 本 書 記
()	,	(増 持 巻)	一 冊 の 至
()	,	(増 持 巻)	特 別 作 品 (一八〇四下) (一八〇五下)
()	,	(増 持 巻)	進 行 幕
(増 持 巻)	本 巻 の 後 に 添 付 し て 置 か れ た 紙 の 一 部 は 本 巻 の 中 に 入 り て 居 る 事 が 見 出 し ら れ た	(増 持 巻)	本 巻 の 中 に 入 り て 居 る 事 が 見 出 し ら れ た
()	了	(増 持 巻)	了
(増 持 巻)	未 枚 子 の 用 途 は 不 明 な が ら も 本 巻 の 中 に 入 り て 居 る 事 が 見 出 し ら れ た	<p>一 特別の利便？ 二 不詳な 三 任前幕八十年下巻之文 本巻と同様に書物に記号を 三つと半三つと異なり 四 左列特進三及之局官位 持件作兼上之條。本及 此年と書物に記号の別 五 本巻の行政府三三 六 本巻の行政府三三 七 本巻の行政府三三 八 本巻の行政府三三 九 本巻の行政府三三 十 本巻の行政府三三</p>	
()	可	(増 持 巻)	可

裏面白紙

大日本帝國政府



計第二四六七號

昭和十六年五月二十日

內務大臣官房人事課長 殿

內務省計畫局長

待遇官吏調査ノ件

本月十九日附丙第七六〇號ヲ以テ御照會相成候標記ニ關スル件該當
無之候

裏面白紙

大日本帝國政府



人事課長殿

計第二四六七號
昭和十六年五月廿二日

計畫局長



待遇官吏調査ノ件

本月十九日附丙第七六〇號ヲ以テ御照會相成候標記ニ關スル件左記ノ
通及回答候

記

地方建築職員制ニ依ル職員（建築技師、建築書記、建築技手）

- 一、待遇官ト爲スコトニ依ル特別ノ利便又ハ不都合
建築監督事務ハ其ノ性質上當然國費負擔ノ本官タルベキモノナルモ
國庫財政ノ都合上地方費支辨待遇職員制ノ設置セラレタルモノナレ
バ建築職員トナス事ニ依リ特別ノ利便ナク却テ本官ト待遇ニ於テ劣
ルコトハ不適當ト存ス
- 三、本官トナス事ノ可否
可

裏面白紙



大日本帝國政府



警保局警發乙第四三七號

昭和十六年五月二十六日

內務省 警保局

內務大臣官房 人事課 長 殿

特選官吏ニ關スル調査ノ件

五月十九日付丙第七六〇號御照會ノ表記ノ件當局關係別紙ノ通及

回報候



裏面白紙

大日本帝國政府

地方警察 警目制一	地方警察 技師	官職名	配等級	俸給 料手給 等ノ袖	俸給 料手給 等ノ袖	俸給 料手給 等ノ袖	俸給 料手給 等ノ袖	俸給 料手給 等ノ袖	俸給 料手給 等ノ袖
令選 目八	八等 乃至 三等								
地方待 命九	二級俸 一四三〇〇	特別俸 (四六五)以下							
地方待 命三	道府縣 ル者 他	大學令 二依ル 大學ヲ 修學シ ル者 他							
	了 〃								
地方待 命一	一年 休職期間								
	可								

イ高等官待遇ノ者

普通官更ニ關スル事

昭和十六年五月一日現在

裏面白紙

大日本帝國政府

(同二) (同八)	地方警 察技手 至四等	地方警 察技手 至四等	地方警 察技手 至四等	官職名 配當	等級
(同九)	同右	同右	同右	俸給 料手當 等ノ額	俸給 料手當 等ノ額
	道府縣	道府縣	道府縣	俸給 料手當 等ノ額	俸給 料手當 等ノ額
	職目令 第一號 其 他	職目令 第一號 其 他	職目令 第一號 其 他	任用 資格	任用 資格
	了 り	了 り	了 り	無 有	無 有
(同 一一)	同 右	同 右	同 右	昇官、休職、退 職、他分限 又ハ懲戒ニ付 テノ一般文官 (本官)ト異ナ ル特別	昇官、休職、退 職、他分限 又ハ懲戒ニ付 テノ一般文官 (本官)ト異ナ ル特別
				待遇官ト 爲スコトニ 依ル特別ノ 利便又ハ 不都合	待遇官ト 爲スコトニ 依ル特別ノ 利便又ハ 不都合
	可	可	可	否 トノ可	否 トノ可
				備考	備考

口判任官待遇ノ者

裏面白紙

大日本帝國政府

消防手 制三二 警視廳官 署規程八 (同右)	北海官 制三六 警視廳官 制三二 地方官 制四二 三等以 下
功勞一〇 加棒二〇 其ノ他 消防手給 與規程一 四四ノ二 四ノ三六 七八九〇	功勞二〇 加棒一〇 其ノ他 巡査令二 四ノ二 四ノ三六 七八九
道府縣	道府縣
二十才以上ノ男子 其ノ他 消防手 採用規 則一二三 三四	品行方正以上ノ者 其ノ他 巡査採用規 則一二三
了り	了り
同右 (同右) 三十一	不具身體ニ因 又ハ身體ニ 因リハ職務ニ 任ズルヲ得 二ノ場合ニ於 テハハザルト 一ノ休職期間 一平 巡査分限令 二五
同右	社會(消防) 事務 事務 現任ニ於 テハハザルト アハハハハ ニテハハハハ 了り
可	可
同右 消防手 採用規 則一二三 三四	同右 巡査採用規 則一二三

裏面白紙

大日本帝國政府



客月三十一日附丙第七六〇號ヲ以テ御照會相成候待遇官吏ニ關スル件別紙ノ通及回答候

内務大臣官房人事課長 殿

神祇院一六内秘第一四一號
昭和十六年八月十二日

神祇院副總裁



裏面白紙

一 高等官待遇ノ者

官職名	官配	等給料	手給料	任用資格	恩給	官給	初給	免職	特許	備考
神宮神部署 神部 署官制三	シ加 四五〇以內俸	一級俸 (二二五〇)	一級俸 (九七〇)	神部及官幣 署令	有	無	例與本般付ハ他退免 ナ官文テ懲分職官休 ル官ノ戒限其職	合又別ニ爲符 ハノ依スコト 不利ルコト	都便特ス本官 可否コトノ爲	考 備
官 司 司 官國幣社 官制一七	シ加 二〇〇以內俸	一級俸 (三、四〇〇)	一級俸 (九〇〇)	神部及官幣 署令	有	無	例與本般付ハ他退免 ナ官文テ懲分職官休 ル官ノ戒限其職	合又別ニ爲符 ハノ依スコト 不利ルコト	都便特ス本官 可否コトノ爲	右同
明治神宮外 苑管理署長	シ加 二〇〇以內俸	一級俸 (二、七七〇)	一級俸 (九七〇)	神部及官幣 署令	有	無	例與本般付ハ他退免 ナ官文テ懲分職官休 ル官ノ戒限其職	合又別ニ爲符 ハノ依スコト 不利ルコト	都便特ス本官 可否コトノ爲	否 右同
明治神宮外 苑管理署主事	シ加 二〇〇以內俸	一級俸 (二、七七〇)	一級俸 (九七〇)	神部及官幣 署令	有	無	例與本般付ハ他退免 ナ官文テ懲分職官休 ル官ノ戒限其職	合又別ニ爲符 ハノ依スコト 不利ルコト	都便特ス本官 可否コトノ爲	否 右同
明治神宮外 苑管理署技師	シ加 二〇〇以內俸	一級俸 (二、七七〇)	一級俸 (九七〇)	神部及官幣 署令	有	無	例與本般付ハ他退免 ナ官文テ懲分職官休 ル官ノ戒限其職	合又別ニ爲符 ハノ依スコト 不利ルコト	都便特ス本官 可否コトノ爲	否 右同
明治神宮外 苑管理員	シ加 二〇〇以內俸	一級俸 (二、七七〇)	一級俸 (九七〇)	神部及官幣 署令	有	無	例與本般付ハ他退免 ナ官文テ懲分職官休 ル官ノ戒限其職	合又別ニ爲符 ハノ依スコト 不利ルコト	都便特ス本官 可否コトノ爲	否 右同

一 三	停 給 規 則	理 署 職 員	官 外 苑 管 神	(明 治 神)	十 級 俸 一 三 〇	一 級 俸 三 四 〇〇	加 授 師 以 內	二 六 〇〇	十 八 〇〇	級 俸
--------	------------------	------------------	-----------------------	---------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------	--------------	--------------	--------

外苑管理職 (明治神宮 職員制二)	明治神宮外 苑管理署技 手 明治神宮外 苑管理署主 事補	官幣大社 熱田神宮 衛士長ナ 衛士 (官幣社 職員制一七)	官 幣 (官幣社 職員制一七)
一俸理官(明治神宮外苑管理職)給規則 (三五)	シ加(三五以内)給明治神宮外苑管理署 一級俸(一四五) 九級俸(一五〇)	シ衛士長(三五以内)給熱田神宮大ナ 一級俸(一二五) 十級俸(四〇) 衛士(三十圓乃至七十圓)加(二〇以内)給	一級俸(一四五) 九級俸(一五〇) 主典(三五以内)給 一給俸(一二五) 十給俸(四〇) 宮掌(三五以内)給 一級俸(八五) 九級俸(三〇) 社職員(官幣社職員制一三)給規則
シナ	シナ	シナ	一職社(官幣社及任用令)九
シナ	シナ	シナ	
否 右同	否 右同	否 右同	
否 右同	否 右同	否 右同	

ル神以 件職下 一ニ神 七脚社 スノ社	社社 社社	府社 社縣 社以 下
		シ 各府縣ニ 於テ府縣ニ 令等ニ 之ヲ定メ 一之定メ
		以府社 下社 神縣 社社
用社社 規神以 則職下 十二任神縣	社社 社社	其試社 ノ驗司 他合格 社社
		シ
		ト
		ト
		否
		右同

昭和十六年五月十七日

照會 案

五

五月

月 日

中武院副總長 課長

警備土木計画各局長
別紙通法割句より照會有之旨案
首向所係所調査上云事課長所回報
相成度之旨也

内務省



昭和十六年五月十四日

内務省人事課長 殿

照 會

當局事務上必要有之ニ付甚ダ御手数乍ラ貴部内（~~外~~地方廳ヲ含ム）
待遇官吏ニ付別紙様式ニ依リ御調査御回報相煩度此段及依頼候也

法 制 局



裏面白紙

イ 高等官待遇ノ者

昭和十六年五月一日現在

()	()	官職名
()	()	官等 配當
()	()	俸給給 料手當 等ノ額
		俸給給 料手當 等負擔 經濟
()	()	任用 資格
		恩給 有 無
()	()	官等ノ初級 陞級ニ付テ ノ一般文官 (本官)ト 異ナル特例
()	()	免官、休職、 退職其ノ他 分限又ハ懲 戒ニ付テノ 一般文官(本 官)ト異ナル 特例
		待遇官ト 爲スコト ニ依ル 特別ノ利 便又ハ不 都合
		本官ト 爲スコ トノ可 否
		本官 ト爲 スコ トノ 可 否
		備考

ロ 判任官待遇ノ者

()	()	官職名
()	()	等級 配當
()	()	俸給給 料手當 等ノ額
		俸給給 料手當 等負擔 經濟
()	()	任用 資格
		恩給 有 無
()	()	免官、休職、 退職其ノ他 分限又ハ懲 戒ニ付テノ 一般文官(本 官)ト異ナル 特例
		待遇官ト 爲スコト ニ依ル 特別ノ利 便又ハ不 都合
		本官ト 爲スコ トノ可 否
		備考

裏面白紙

(記載例)

イ 高等官待遇ノ者

待遇官吏ニ關スル調

昭和十六年五月一日現在

官職名	道路主事	(警務管理) 職員制一
官等	四等乃 至八等	(地方待遇) 職員令八
俸給給 料手當 等ノ額	特別俸 (四六五〇以下) 一級俸 (四〇五〇) 一二級俸 (三二五〇) 道府縣	(地方待遇) 職員令九
俸給給 料手當 等負擔 經濟	道府縣	
任 用 格	文官任用令 第五條第一 項ノ規定ニ 依リ高等文 官ト爲ルノ 資格ヲ有ス ル者其ノ他	(地方待遇) 職員令二
恩給	アリ	
官等ノ初 級ノ一ニ 付テハ 一般ノ官 吏ト異ナ ル		
免官、休 職、退職 ノ他、分 限、又ハ 戒、一ニ 付テハ 官ノ本官 ト異ナル 特例	休職期 間一年	(地方待遇) 職員令二
待遇官ト 爲スコト ニ依ル特 別ノ利便 又ハ不都 合		
本官ト 爲スコ トノ可 否	可	
備考		

備考

一 待遇官吏（實質上官吏タル者）ノミニ付調査シ官吏待遇者（情報局參與ノ如キ實質上官吏タラザル者）又ハ優遇待遇者（特定郵便局長ノ如キ本來官吏又ハ待遇官吏トシテ一定ノ官等又ハ待遇ヲ有スル者ニシテ優遇等ノ爲更ニ別段ノ待遇ヲ與ヘラレ居ルモノニ付テハ調査セザルコト

二 （ ）内ニハ根據法條ヲ掲グルコト

三 官等配當又ハ等級配當ノ欄ニハ官等等級ノ配當ナキ者ニ付テハナシト記入スルコト

四 俸給給料手當等ノ額及任用資格ノ欄ニハ廷丁、執達吏ノ如キ者ニ付テハ規定ナシト記入スルコト

五 俸給給料手當等負擔經濟ノ欄ニハ執達吏ノ如キ者ニ付テハナシト記入スルコト



内閣閣甲第三九二號

昭和十七年九月十一日

内閣書記官長

星野直樹

人事課長



直樹



大臣

内務大臣

湯澤

次官

本日左記事項別紙ノ通閣議決定相成候條命ニ依リ通牒ニ及ビ候

記

一、内外地行政ノ一元化ニ關スル件

一、内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル内務省官制中改正ノ件勅令案要

綱

一、内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル朝鮮總督府官制中改正ノ件勅令

案要綱

一、内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル臺灣總督府官制中改正ノ件勅令

案要綱

一、内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル樺太廳官制中改正ノ件勅令案要

綱

一、朝鮮總督及臺灣總督ノ監督ニ關スル件勅令案要綱

一、大東亞省官制案要綱

一、各省官制通則中改正ノ件勅令案要綱

一、外務省官制中改正ノ件勅令案要綱

一、大東亞地域在外公館職員ノ身分及職務ニ關スル件勅令案要綱

内外地行政ノ一元化ニ關スル件

一 中央機構

- (一) 朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ノ統理ハ内務大臣ノ所掌タラシムルコト
- (二) 石ノ統理事務ノ爲内務省ニ管理局(假稱)ヲ新設スルコト
- (三) 管理局ノ職員ハ概ネ拓務省ノ管理局及殖産局ノ職員ヲ以テ之ニ充ツルコト
- (四) 内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ關スル關係各廳間ノ連絡ヲ圖ル爲内務省ニ連絡委員會ヲ置クコト

裏面白紙

裏面白紙

二 朝鮮

- (一) 朝鮮總督へ内務大臣ノ統理ヲ受ケテ諸政ノ政務ヲ施行スルコト
但シ特殊ノ事務ニ付テハ該事務ノ性質ニ應ジ内閣總理大臣又ハ
各省大臣ノ監督ヲ承クルコトト爲スコト
- (二) 前項ニ關シ必要アルトキハ該大臣へ朝鮮總督ニ對シ指示ヲ爲
シ得ルノ途ヲ設クルコト
- (三) 朝鮮總督ガ上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受クル場合ニハ内務大臣ニ由リ
内閣總理大臣ヲ經ルコトトスルコト

三 臺灣

(一) 臺灣總督ニ對スル拓務大臣ノ監督ヲ内務大臣ノ監督ニ改ムルコト

臺灣總督ハ特殊ノ事務ニ付テハ當該事務ノ性質ニ應ジ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ監督ヲ承ゲシムルコトトシ以テ現行ノ各省大臣ノ監督範圍ヲ擴張スルコトト爲スコト

(二) 前項ノ監督上必要アルトキハ該大臣ハ臺灣總督ニ對シ指示ヲ爲シ得ルノ途ヲ設クルコト

(三) 其ノ他現行官制上拓務大臣トアルヲ内務大臣ニ改ムルコト

四 樺太

(一) 樺太ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ内地ニ編入スルコト

(二) 暫行措置トシテ現行官制中拓務大臣トアルヲ内務大臣ニ改ムル
ノ外現行制度ヲ概ネ沿革スルコト但シ各省大臣ノ監督ハ之ヲ指揮
監督ニ改ムルコト

五 前諸項ノ外氣象業務ノ如キ特殊ノ行政ニ付テハ内地、朝鮮、臺灣

及樺太ヲ通ジ(事情ニ應ジ大東亞地域ヲモ言メテ)一頁シタル行政
機構ニ付別途考究スルコト

裏面白紙

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル内務省官制中改正ノ件

内務省官制中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

内務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ統理ス

第四條中「四局」ヲ「五局」ニ、「防空局」ヲ「防空局」ニ改ム

第八條ノ二 管理局ニ於テハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ掌ル

(但ニ職員増置關係アリ)

裏面白紙

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル朝鮮總督府官制中改正ノ件

朝鮮總督府官制中左ノ通改正ス

第三條中「内閣總理大臣」ヲ「内務大臣ニ由リ内閣總理大臣」ニ改メ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

總督ハ別ニ定ムル所ニ依リ内閣總理大臣及各省大臣ノ監督ヲ承ク

第六條及第七條中「内閣總理大臣」ヲ「内務大臣ニ由リ内閣總理大臣」

ニ改ム

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル臺灣總督府官制中改正ノ件

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第三條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

總督ハ別ニ定ムル所ニ依リ内閣總理大臣及各省大臣ノ監督ヲ承ク

第十一條乃至第十三條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ改ム

裏面白紙

裏面白紙

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル樺太廳官制中改正ノ件

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第三條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ、同條但書中「監督」ヲ「指
揮監督」ニ改ム

第六條、第七條、第九條及第十二條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ
改ム

裏面白紙

朝鮮總督及臺灣總督ノ監督ニ關スル件

第一條 內務大臣ハ朝鮮總督及臺灣總督ニ對シ朝鮮總督府及臺灣

總督府ニ關スル事務ノ統理上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條 內閣總理大臣及各省大臣ハ左ニ掲グル區分ニ從ヒ各當該

事務ニ關シ朝鮮總督及臺灣總督ヲ監督ス

一 統計ニ關スル事務ニ付テハ內閣總理大臣

二 貨幣、銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣

三 大學、高等學校、專門學校及實業^{專門}學校並ニ此等ノ學校ニ準
ズベキ各種學校ニ於ケル教育並ニ氣象ニ關スル事務ニ付テハ

文部大臣

裏面白紙

四 米麥其ノ他ノ主要食糧農産物及海洋漁業ニ關スル事務ニ付テ
ハ農林大臣

五 重要鑛工業、貿易、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工
大臣

六 郵便、電氣通信、海運（沿岸航路ヲ除ク）及航空ニ關スル事
務ニ付テハ逓信大臣

七 鐵道ニ關スル事務ニ付テハ鐵道大臣

八 外國爲替管理ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣及商工大臣

内閣總理大臣及各省大臣ハ朝鮮總督及臺灣總督ニ對シ前項ノ事務
ニ付監督上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

大東亞省官制（案）

第一條 大東亞大臣ハ大東亞地域（内地、朝鮮、臺灣及樺太ヲ除ク
以下同ジ）ニ關スル諸般ノ政務ノ施行（純外交ヲ除ク）、同地域
内諸外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及同地域内諸外國在留帝國臣民
ニ關スル事務竝ニ同地域ニ係ル移植民、海外拓殖專業及對外文化
事業ニ關スル事務ヲ管理ス

大東亞大臣ハ關東局及南洋廳ニ關スル事務ヲ統理ス

大東亞大臣ハ第一項ニ規定スル事務ニ付大東亞地域ニ駐在スル外
交官及領事官ヲ指揮監督ス

第二條 大東亞省ニ左ノ四局ヲ置ク

總務局

滿洲事務局

支那事務局

南方事務局

第三條 總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 大東亞地域ニ關スル重要政策ノ企畫及省務ノ綜合調整ニ關スル事項
- 二 大東亞地域ニ關スル調査及資料整備並ニ情報ニ關スル事項
- 三 大東亞地域ニ於ケル邦人要員ノ鍊成ニ關スル事項
- 四 所管行政ノ考査一般ニ關スル事項
- 五 他局ノ所管ニ屬セザル事項

裏面白紙

第四條 滿洲局^{本局}ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 關東局ニ關スル事項
 - 二 滿洲國ニ關スル外政事項
 - 三 滿洲國ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ業務ノ監督ニ關スル事項
 - 四 滿洲移植民及滿洲拓殖事業ニ關スル事項
 - 五 對滿文化事業ニ關スル事項
 - 六 其ノ他關東州及滿洲國ニ關スル事項
- 第五條 支那局^{支那}ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 支那ニ關スル外政事項
 - 二 支那ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法令ニ依リ設立セ

ラレタル法人ノ業務ノ監督ニ關スル事項

三 對支文化事業ニ關スル事項

四 其ノ他支那ニ關スル事項

第六條 南方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 南洋廳ニ關スル事項

二 タイ國及印度支那~~其~~南洋諸地域ニ關スル外政事項

三 南方諸地域ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法令ニ依リ

設立セラレタル法人ノ業務ノ監督ニ關スル事項

四 南方諸地域ニ係ル文化事業ニ關スル事項

五 其ノ他南方諸地域ニ關スル事項

第七條 大東亞省ニ參事官專任六人ヲ置ク勅任トス大東亞大臣ノ命

ヲ承ケ調査及審議立案ヲ掌ル

第 條 大東亞省ニ調査官專任 人ヲ置ケ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ
調査ヲ掌ル

第 條 乃至第 條 (職員ニ關スル規定)

第 條 大東亞省ニ於テハ陸海軍ニ策應協力スル爲大東亞地域内占
領地行政ニ關聯スル事務ヲ行フモノトス

附 則

本令ハ、、、日ヨリ之ヲ施行ス

對滿事務局官制、興亞院官制、興亞院連絡部官制及拓務省官制ハ之
ヲ廢止ス

各省官制通則中左ノ通改正ス

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「拓務及厚生」ヲ「厚生及大東亞」ニ改ム

第十六條中「各局部」ヲ「各局部（省外局部ヲ含ム）」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙

裏面白紙

外務省官制中改正ノ件

外務省官制中左ノ通改正ス

第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務並ニ移植民及海外拓殖事業ニ關スル事務ヲ管理ス但シ大東亞大臣ノ管理ニ屬スルモノヲ除ク

外務大臣ハ前項ニ規定スル事務ニ付外交官及領事官ヲ指揮監督ス

裏面白紙

大東亞地域在外公館職員ノ身分及職務ニ關スル件

第一條 大東亞地域ニ在勤スル外交官、領事官其ノ他在外公館職員ノ進退身分ニ關スル事項ハ大東亞大臣ノ所管トス其ノ待命ト爲リタル後亦同ジ

第二條 大東亞地域ニ在勤スル外交官、領事官其ノ他在外公館職員ハ他ノ法令並ニ國際法ノ慣例及駐在地特別ノ慣例ニ依ルモノノ外大東亞大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理ニ屬スル事務ノ一部ヲ掌ル

附 則

本令ハ、、、、、日ヨリ之ヲ施行ス

次官状

内閣府甲第三八三號

昭和十七年九月一日

内閣書記官長

星野直樹

内務大臣 湯澤正男殿



大東亞省設置ニ關スル件別紙ノ通閣議決定相成候條命ニ依リ通牒ニ
及ビ候

裏面白紙

大東亞省設置ニ關スル件

第一 方針

大東亞戰爭ノ完遂並ニ大東亞建設ノ必成ヲ期スル爲大東亞地域内ノ諸外國及諸地域ニ關スル政務ノ施行ヲ擔當スベキ一省ヲ設置シ且之ニ即應スル現地機構ヲ整備充實セントス

第二 要領

甲 中央機構

一、大東亞省ヲ設ケ大東亞地域（内地、朝鮮、臺灣及樺太ヲ除ク）ニ關スル政治、經濟、文化等諸般ノ政務ノ施行ニ關スル一元的機關ヲラシムル

スルコト

二、大東亞省ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト

- (一) 大東亞地域ニ關スル政治、經濟、文化等諸般ノ政務ノ施行（純外交ヲ除ク）ニ關スル事項
- (二) 大東亞地域内諸外國ニ於ケル帝國臣民ニ關スル事項及帝國商事ノ保護ニ關スル事項
- (三) 大東亞地域ニ係ル移植民及拓殖事業ニ關スル事項
- (四) 大東亞地域ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法律等ニ依リ設立セラレタル會社ノ業務ノ監督ニ關スル事項
- (五) 大東亞地域ニ係ル對外交化事業ニ關スル事項

(六) 大東亞地域ニ於ケル邦人要員ノ鍊成ニ關スル事項

(七) 關東局ニ關スル事項

(八) 南洋廳ニ關スル事項

尙大東亞省ニ於テハ統帥部ニ策應協力スル爲大東亞地域内占領地行政ニ關聯スル事務ヲ行フモノトスルコト

三、大東亞省ノ機構ハ概ネ別紙ノ如クスルコト

四、對滿事務局、興亞院、外務省東亞局及南洋局並ニ拓務省拓北局拓南局及南洋廳ニ關スル事務ハ概ネ之ヲ大東亞省ニ統合スルコト

五、大東亞省職員ニハ陸海軍武官及ビ一般民間ヨリモ之ヲ任用シ得ル如クスルコト

六、日本内外地及大東亞内諸地域ヲ通ズル大東亞建設ニ關スル重要國策ハ閣議ニ於テ之ヲ決スルモノトシ、大東亞省ト他ノ各省

トニ亘ル施政ノ統一ニ付テハ内閣總理大臣ノ行政各部統一保持ニ關スル權能發揮ニ俟ツコト

七、大東亞省ト關係各省トノ連絡ヲ圖ル爲大東亞省ニ連絡委員會ヲ設ケルコト

備考 對滿事務局、興亞院、外務省東亞局及南洋局、拓務省ハ大東亞省ノ設置ニ伴ヒ之ヲ廢止ス

乙 現地機構

- 一、 滿洲、支那、泰、佛印ニ於ケル大公使其ノ他ノ現地機關ハ總テ大東亞省所轄ノ現地官廳トスルコト
- 前項現地機關職員ノ身分ニ關スル事項ハ大東亞大臣ノ所管トシ、其ノ職務ニ關シ大東亞大臣ノ指揮監督ヲ承クルモノトス但シ純外交ニ付テハ外務大臣ノ指揮監督ヲ承クルモノトスルコト
- 二、 現在ノ興亞院各連絡部ハ之ヲ廢止シ支那ニ於ケル大東亞省現地機關ト統合一元化スルコト
- 三、 今後獨立國興サレ大公使以下ノ現地機關ヲ新設スルコトアル場合モ前項ト同一ノ方針ヲ採ルコト
- 四、 將來占領地行政廢止セラレタル場合ハ當該地域内所要ノ地ニ

大東亞省現地機關ヲ設置スルコト

- 五、 現地機關職員ニハ各省文官及陸海軍武官及ビ一般民間ヨリモ廣ク之ヲ任用シ得ルモノトスルコト

(備考)

- (1) 純外交ノ範圍ハ閣議ニ於テ之ヲ決定スルコト
- (2) 朝鮮及臺灣ニ關スル行政ハ必要ナル範圍ニ於テ之ヲ内地ト同様ニ取扱フヲ目途トシ朝鮮總督府及臺灣總督府ニ關スル事務ノ統理ハ内務大臣之ヲ行ヒ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣之ヲ監督スルコトトシ之ガ實施ノ方式ニ關シテハ別途考究スルコト但シ朝鮮、臺灣ニ於ケル現地ノ綜合行政ハ概ネ現状ニ依ルモノトスルコト

- (3) 樺太ハ之ヲ内地行政ニ編入スルコト
- (4) 南米ニ關スル移植民及拓殖事業ニ關スル事務ハ之ヲ外務省ニ於テ所掌スルコト

裏面白紙

別紙
大東亞省機構（局名假稱）

大臣 | 次官 |



裏面白紙

8部

昭和十七年九月十六日

法制局長官 森山 銳

内務省文書課長 殿

先般閣議決定相成候各省官制通則中改正勅令案其ノ他御参考迄送附
申上候

次官

文書課長

事務

裏面白紙

346

裏面白紙

朕福密顧問ノ諮詢ヲ經テ各省官制通則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣
各省大臣

勅令第 號

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「拓務及厚生」ヲ「厚生及大東亞」ニ改ム

第十六條中「各局部」ヲ「各局部（省外局部ヲ含ム）」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

大東亞省ノ設備及拓務省ノ廢止ニ伴ヒ改正ノ要アルト各省次官ノ省外
局部ニ對スル監督權ヲ明確ナラシムル爲改正ノ要アルニ依ル

裏面白紙

朕朝鮮總督及臺灣總督ノ監督等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

シム

御名 御翼

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

大藏大臣

文部大臣

農林大臣

商工大臣

裏面白紙

裏面白紙

逓信大臣
鐵道大臣
拓務大臣

勅令第 號

第一條 內務大臣ハ朝鮮總督ニ對シ朝鮮總督府ニ關スル事務ノ統理

上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

內務大臣ハ臺灣總督ニ對シ臺灣總督府ニ關スル事務ノ統理ノ爲メ

督上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條 內閣總理大臣及各省大臣ハ左ニ掲グル區分ニ從ヒ各當該事

務ニ關シ朝鮮總督及臺灣總督ヲ監督ス

一 統計ニ關スル事務ニ付テハ內閣總理大臣

- 二 貨幣、銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣
- 三 大學、高等學校、專門學校及實業專門學校竝ニ此等ノ學校ニ
準ズベキ各種學校ニ於ケル教育竝ニ氣象ニ關スル事務ニ付テハ
文部大臣
- 四 米麥其ノ他ノ主要食糧農産物及海洋漁業ニ關スル事務ニ付テ
ハ農林大臣
- 五 重要鐵工業、貿易、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工
大臣
- 六 郵便、電氣通信、海運（沿岸航路ヲ除ク）及航空ニ關スル事
務ニ付テハ遞信大臣
- 七 鐵道ニ關スル事務ニ付テハ鐵道大臣

裏面白紙

外國爲替管理ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣及商工大臣

内閣總理大臣及各省大臣ハ朝鮮總督及臺灣總督ニ對シ前項ノ事務ニ

付監督上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙

理由

内外地行政ノ一元化實施ノ爲内務大臣ガ朝鮮總督府及臺灣總督府ノ
事務ヲ統理スル爲必要アル場合朝鮮總督及臺灣總督ニ對シ指示ヲ爲
シ得ル途ヲ設クルト共ニ内閣總理大臣及各省大臣ガ各特殊ノ事務ニ
關シ朝鮮總督又ハ臺灣總督ヲ監督シ之ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ得
ルコトトスルノ要アルニ依ル

裏面白紙

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ行政簡素化臨時職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

勅令第

號

行政簡素化臨時職員令

第一條 今回ノ行政簡素化ノ勅令ニ因ル廢官ニ係ル官ニ當該勅令施
行ノ際現ニ在官スル者ニ付テハ臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトシ
其ノ官等及俸給ハ従前ノ例ニ依ル但シ其ノ者ガ引續キ其ノ官ニ在
官スル間ニ限ル

前項ノ者ハ休職者其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル者ヲ除クノ外待命トス

第一項ノ者ニ對シ本屬長官ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テハ其ノ職務ハ内閣總理大臣ノ指定スル者之ヲ行フ

第二條 今回ノ行政簡素化ノ勅令ニ因リ過員ヲ生ジタル官ニ付テハ其ノ過員ニ係ル員數ヲ限り當該官ノ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ官ニ在職スル者ニ付テハ本屬長官ハ必要ニ依リ過員ニ係ル員數ノ範圍内ニ於テ之ニ待命ヲ命ズルヲ得

第三條 前二條ノ規定ニ依ル待命者ハ其ノ本官ヲ奉ジテ職務ニ從事セズ其ノ他總テ在職官吏ト異ルコトナシ但シ第四條ノ規定ニ依リ臨時ニ職務ニ從事セシメラレタル場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル

規定ヲ適用ス

第四條 本屬長官又ハ第一條第三項ノ規定ニ依リ本屬長官ノ職務ヲ行フ者必要アリト認ムルトキハ同條第一項ノ者ヲシテ其ノ命ズル所ニ從ヒ職務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ職務ガ他廳ニ屬スルモノナルトキハ豫メ他廳長官トノ協議ニ依ルモノトス

第一條第一項ノ者前項ノ規定ニ依リ他廳ノ職務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ職務ノ執行ニ關シ他廳長官ノ指揮監督ヲ承ク

第五條 本令ハ判事、檢事其ノ他内閣總理大臣ノ指定スル官ニハ之ヲ適用セズ

第六條 本令ハ待選官吏ニ之ヲ準用ス

第七條 本令ノ適用ニ付テハ大東亞省官制及大東亞省設置又ハ内外地

裏面白紙

行政一元化ニ伴フ勅令ハ之ヲ今回ノ行政簡素化ノ勅令ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ昭和十八年三月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

裏面白紙

理由

今回ノ行政簡素化ノ勅令竝ニ大東亞省官制及大東亞省設置又ハ内外地
行政一元化ニ付テ勅令ノ施行ニ伴ヒ廢官ト爲リ又ハ過員ヲ減ジテ
官ニ在ル職員ノ身分、服務等ニ關シ臨時特別ノ取扱ヲ爲スノ要アルニ
依ル

大日本帝國政府

庶政第九八八號

昭和十七年九月廿一日

人 事 課 長 殿

文 書 課 長

内外進行政ノ一元化實施ノ爲ニスル官制中改正ノ件

法制局長官ヨリ稟託ノ件ニ關シ別紙ノ通送附有之候條參考ノ爲及

移送候

裏面白紙



裏面白紙

(昭和十七年九月十一日閣議決定)

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル内務省官制中改正ノ件

内務省官制中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

内務大臣ハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ整理ス

第四條中「四局」ヲ「五局」ニ、「防空局」ヲ「防空局」ニ改ム

八條ノ二 管理局ニ於テハ朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ニ關スル事務ヲ掌ル

(但ニ職員増補關係アリ)

裏面白紙

(昭和十七年九月十一日閣議決定)

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル臺灣總督府官制中改正ノ件

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

二條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

監督ハ別ニ定ムル所ニ依リ内閣總理大臣及各省大臣ノ監督ヲ承ク

十一條乃至第十三條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ改ム

裏面白紙

(昭和十七年九月十一日閣議決定)

内外行政ノ一元化實現ノ爲ニスル朝鮮總督府官制中改正ノ件

朝鮮總督府官制中左ノ新改正ス

第三條中「内務總務大臣」ヲ「内務大臣ニ由リ内務総務大臣」ニ改メ
同條ニ左ノ一項ヲ加フ

總督ハ別ニ定ムル所ニ依リ内務總務大臣及各省大臣ノ監督ヲ兼ク

第六條及第七條中「内務總務大臣」ヲ「内務大臣ニ由リ内務總務大臣」ニ改メ
ニ改ム

裏面白紙

(昭和十七年九月十一日閣議決定)

内外地行政ノ一元化實施ノ爲ニスル爲テ縣官制中改正ノ件

爲太應官制中左ノ通改正ス

第三條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ、同條但書中「監督」ヲ「指
導監督」ニ改ム

第六條、第七條、第九條及第十二條中「拓務大臣」ヲ「内務大臣」ニ
改ム



昭和十七年九月十六日

法制局長官 森山 銳一 印

内務省 文書課 長 殿

先般閣議決定和成候各省官制通則中改正勅令案其ノ他御参考迄送附
申上候

裏面白紙

364

裏面白紙

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ各省官制通則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣
各省大臣

勅令第 號

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「拓務及厚生」ヲ「厚生及大東亞」ニ改ム

第十六條中「各局部」ヲ「各局部（省外周部ヲ含ム）」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

大東亞省ノ設置及拓務省ノ廢止ニ伴ヒ改正ノ要アルト各省次官ノ省外
局部ニ對スル監督權ヲ明確ナラシムル爲改正ノ要アルニ依ル

裏面白紙

朕朝鮮總督及臺灣總督ノ監督等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

御名 御璽

昭和 年 月 日

商	農	文	大	内	内閣總理大臣
工	林	部	藏	務	
大	大	大	大	大	
臣	臣	臣	臣	臣	

裏面白紙

裏面白紙

遞信大臣
鐵道大臣
拓務大臣

勅令第 號

第一條 內務大臣ハ朝鮮總督ニ對シ朝鮮總督府ニ關スル事務ノ統理
上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

內務大臣ハ臺灣總督ニ對シ臺灣總督府ニ關スル事務ノ統理ノ爲監
督上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二條 內閣總理大臣及各省大臣ハ左ニ掲グル區分ニ從ヒ各當該事
務ニ關シ朝鮮總督及臺灣總督ヲ監督ス

一 統計ニ關スル事務ニ付テハ內閣總理大臣

裏面白紙

369

- 二 貨幣、銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣
- 三 大學、高等學校、專門學校及實業專門學校並ニ此等ノ學校ニ準ズベキ各種學校ニ於ケル教育並ニ氣象ニ關スル事務ニ付テハ文部大臣
- 四 米麥其ノ他ノ主要食糧農產物及海洋漁業ニ關スル事務ニ付テハ農林大臣
- 五 重要鑛工業、貿易、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工大臣
- 六 郵便、電氣通信、海運（沿岸航路ヲ除ク）及航空ニ關スル事務ニ付テハ逓信大臣
- 七 鐵道ニ關スル事務ニ付テハ鐵道大臣

外國爲替管理ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣及商工大臣
内閣總理大臣及各省大臣ハ朝鮮總督及臺灣總督ニ對シ前項ノ事務ニ
付監督上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

附 則

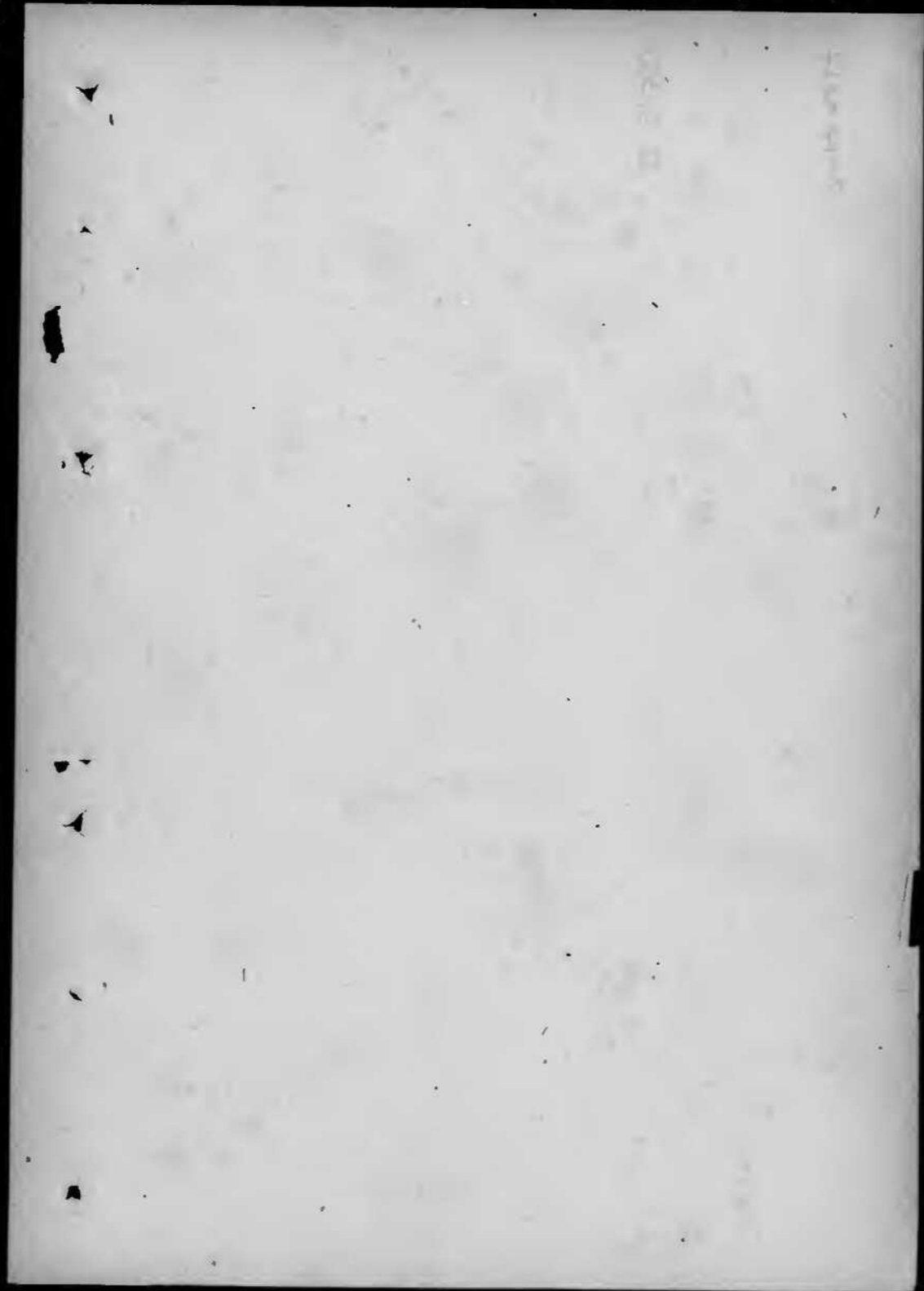
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙

理由

内外地行政ノ一元化實施ノ爲内務大臣ガ朝鮮總督府及臺灣總督府ノ
事務ヲ統理スル爲必要ナル場合朝鮮總督及臺灣總督ニ對シ指示ヲ爲
シ得ル途ヲ設クルト共ニ内閣總理大臣及各省大臣ガ各特殊ノ事務ニ
對シ朝鮮總督又ハ臺灣總督ヲ監督シ之ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ得
ルコトトスルノ要ナルニ依ル

裏面あり



昭和十七年十月十二日

文書課長
課長

内務省
文書課
十月八日

課長

法制局書記官充

十月一日付ヲ以テ右有文書課長充御照
令有之ニ應ラ官吏等ノ身分取扱ニ
關スル勅令奉ニ關スル件 左記ノ通立見
有之矣此致又四答之旨也

内務省

記

一 文官ニシテ陸海軍ニ徵集セラレタル場合
休職ヲ命ズルニ付得ル現定ヲ設ケルト
共ニ此の場合、休職期間ヲ現役服役中
トスル

待遇官吏ニ付ニテ前掲ニ準ズル

一 巡査令限令(昭和八年勅令第十三号)第五
条中「通改メ(今四改止ヤラハ)キ明治三
十七年勅令第十三号并同類ノ」巡査
令與今ノ現行ノ法律トス

巡査令浪令第廿五号第一項第廿五号ヲ左
通改ム

五 陸海軍ニ徴集セラル又ハ戦時若クハ

変ニ際シ召集セラルトキ

令第廿五号第一項第廿五号ノ場合ニ在リテハ

一次ニ徴集又ハ之ヲ加フ

内務省

月送受及				局議台				日月付受及號局管上			
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

丙

施行 月 日

昭和十七年十月九日

主任

局長 /

文書課長

人字課長

敬告係向長

番

年月日

文書課長

法制局第二部佐藤參事官宛

庶務官吏等ノ身分取扱ニ関スル勅令案ニ関スル件

昭和十七年十月一日付法中裁有之候標記件別紙ノ色

裏面あり

日	第
第	第
送受	送受
月	月
日	日

及
回
答
修

[Faint vertical text in a grid, likely bleed-through from the reverse side of the page]

大日本帝國政府

一 文官ニシテ陸海軍ニ徵集セラレシムル場合休職ヲ命ズルコトヲ得ルノ

規定ヲ設ケルト共ニ此ノ場合ノ休職期間ヲ現役服役中トスルニ

特異官吏ニ付テモ前記ニ準ズルニ

二 巡査令(昭和八年勅令第十三号)カ依停中左ノ通改メ(今回改正

ヲラズバ)明治三十七年勅令第十三号ヲ準同語旨)巡査令與々ハ現行

ノマ、ト
スルコト

(規定規程第五十二條)

裏面白紙

大日本帝國政府

巡查分限令

才五條第一項ヲ五号ヲ左ニ改メ

五.陸海軍ニ徴集セルシ又ハ戦時若ハ非常ニ際シテ召集セラルル

トキ

令條第二項中「五号」ノ場合ニ在リテハ「次ニ」徴集又ハ「加フ」

(國定規格5(2)X(2)種)

裏面白紙

大日本帝國政府

巡查令

昭和八年二月二十日
初令第一三三號

第五條

巡查左各別ノ一ニ該當スルトハ休職ヲ命ズルコトヲ得
陸軍又ハ海軍ニ際シ陸海軍ニ於テモセラレルトキ

前條付職ノ期間ハ一ノ月及ハ二ノ月ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ巡查

懲戒委員會又ハ裁判所ニ送附スルコトヲ早及カシテ其ノ場合ニ在リテハ

一ノ年トシテ第五條ノ場合ニ在リテハ百員中トス

(罰金)

巡查令

明治三十二年九月二十日
初令第一三五號

第五條

巡查令第六條ノ一項中ノ号乃至中ノ号ニ依リ休職ヲ命ぜらるル
ル巡查ニ其ノ休職中ノ月俸 三分ノ一ヲ給ス

巡查令第六條ノ五條ノ一項中ノ号ニ依リ休職スル中ノ号ニ依リテ

陸海軍ヨリ受ケル海給又ハ給料ノ月額付職ヲ命ぜらるル者ニ對シ

月俸給ヨリ算カケタルトシ其ノ不足額ニ相當スル金給金に因テ

給スルコトヲ得

(規定規程第五八三三三三號)

裏面白紙

大日本帝國政府

明治三十七年勅令第三號 (戰時又ハ軍需ニ際シ陸海軍ニ召集セラルル

看守ノ休職ノ件)

陸海軍ニ召集セラルル戰時又ハ軍需ニ際シ

戰時又ハ軍需ニ際シ陸海軍ニ召集セラルル看守ニ其ノ内休職

又命カントラ得

前項休職ノ日數ハ在職ノ年數ニ算メヌ

參考

○委任及判任待遇 監督 職員給與令 大正十一年勅令第四十八号

(國定規格紙(六×三寸))

裏面白紙

大日本帝國政府

明治三十七年勅令第百三十一号 (戦時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラルル)

貴族院及衆議院守衛ノ休職及休職給

ニ関スル件

陸海軍ニ召集セラルルニ際シ

戦時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラルルニ際シ貴族院及衆議院ノ守衛ハ其ノ内ノ休職ヲ命ズルコトヲ得
前項ノ休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

給料ノ額休職ヲ命ゼララルルニ際シ
不呈給ニ相当スル金額以内ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

(國定規格紙(25×37)種)

裏面白紙

大日本帝國政府

○昭和十六年勅令第五百六十六号（戦時又ハ軍変ニ際シ陸海軍ニ召集ロシ

之陸防拘禁所教導ノ休職ニ関スル件）

陸防拘禁所ニ在リテ

戦時又ハ軍変ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ召集ロシタル所拘禁所教導ニハ

其内休職ヲ命ズルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ準ス

○昭和十六年勅令第五百七十二号（戦時又ハ軍変ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ

召集セラレタル朝鮮總督府ヲ拘禁所

所教導ノ休職ニ関スル件）

右ニ合シ

裏面白紙

大日本帝國政府

大正七年勅令第三六六号（保健技師、保健技師、藥劑師、教師）

一、教師、作業者及び作業者の休職ニ関スル件

（國家規程第五二八之三三三條）

戰時又は非常時ニ際シ陸軍又は海軍ニ召集セラレシ保健技師、保健技師、藥劑師、海軍、教師、作業者及び作業者の休職ニ関スル件、其、肉休職ヲ命

スルニ付テハ

前項休職中、日數ハ在職年數ニ依リ算ス

中一、現定ニ依リ休職ヲ命ジラシムル者、陸軍又は海軍ニ於テ受ケル

俸給又は給料額休職ヲ命ゼラシムル者、其、肉休職ヲ命

ジラシムル者、其、肉休職ヲ命

ジラシムル者、其、肉休職ヲ命

ジラシムル者、其、肉休職ヲ命

ジラシムル者、其、肉休職ヲ命

裏面白紙

大日本帝國政府

公立學校職員令(明治三十四年勅令第三七五号)

公立學校職員令(明治三十四年勅令第三七五号) 公立學校職員令(明治三十四年勅令第三七五号) 公立學校職員令(明治三十四年勅令第三七五号)

一、懲戒事件ニ関シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラルルトス

二、刑罰ニ付ニ関シ起訴セラルルトス

三、學務校編成ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ過量ニ生ジラントス

四、教員養成ヲ目的トシテ官立府縣立ノ學校ニ入學スルトス

五、教員上又ハ事務上必要トス

六、外國ニ於テ本邦人ヲ教員トシテ設置シタル學校ノ教員トナルトス

公立學校職員令ニテ陸海軍現役ニ服シタル者ハ尙ホ休職有ラズ

師範學校ノ卒業生ニ限リ師範學校及國民學校訓導長ニシテ充テ

一、該令ニ依リ在任中ノ者

一、現任中ニ在任中ノ者

(國家規格B5(148x210))

裏面白紙

大日本帝國政府

第九條 休職ノ期間ハ所屬ノ一級ノ下及第二級ノ場合ニ在リテハ其ノ

事件ノ懲戒委員會又ハ裁判官ニ發見申上レテ三月ヲ越スル事ナカハ

場合ニ在リテハ勅任官又ハ委任官ノ待遇ヲ受クヘキ者ニ付テハ二年ノ勅任官

ノ待遇ヲ受クヘキ者ニ付テハ一年トシテ四月及所屬ノ二級ノ場合ニ在リテハ

其ノ事故止ミテ後尚ホ三月トス但シ所屬ノ一級ノ下及第二級ノ場合

ニ在リテハ所屬長官其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

(規定規格四六×三三×五)

283

裏面白紙

大日本帝國政府

公立學校職員俸給令

明治三十三年三月二十八日
勅令第六十六号

(國定規格B5(210×297))

第十五條

休職者ニ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ公立學校職員ニ
令限カ八條ノ規定ハ四号又ハ六号ノ規定ニ依リ休職ヲ命ぜら
し者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スニテ得

第十五條ノ二

師範學校ヲ卒業シタル師範學校訓導及國民學校訓導ニ
左ノ各号ノ一ニ該當スル者ハ其ノ職務中俸給ヨリ其ノ三分ノ二ニ相當スル
額及陸軍醫官又ハ海軍醫官ニ依リ多ク俸給ノ額ノ合算額
ヲ減ス

左ノ令限カ八條ノ規定ニ依リ得

裏面白紙

大日本帝國政府

勅令第六十二號（官報三月二十八日）

試補及判任官見習並非職休ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其
儘服役スルコトヲ得

但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日
ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

朕鎮守府條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

裏面白紙

月送受及號局議合 日月付受及號局管主

第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
送	送	送	送	送	送	送	送
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日



丙

案起

昭和十七年十月五日

施行昭和十七年拾月五日

局長 文書課長 事務官

主任

年月日

各局課長 文書課長 神戶院訓總裁 宛

右及官吏等、身分取扱ニ関シ勅令案件

標紙、件、同ニ法制局書記官ヨリ別紙、
通申越有之候、付御意見、至急御由ニテ

規格 115

386

裏面あり



日
第 3
第 2
第 1
月 月 日 日
日 日 日 日

中
正
大
學
出
發
日

相

相
相
相

日
月
日

めくれず

裏面白紙

應召官吏^等ノ身分取扱ニ關スル勅令案ニ件別紙ノ如キ内容ニ依リ起案上
申致度候ニ付テハ右ニ關シ御氣附ノ點（整理ヲ要スベキ勅令等ニ付）
又ハ御意見有之候ハバ至急承知致度

昭和十七年十月一日

法制局書記官

内務省文書課長殿

（追テ御回答ハ便宜上當局第二部佐藤參事官宛總送付相煩度）

秘

〔別紙第一號〕

應召者ヲ定員外トスル勅令案

大東亞戰爭ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル文官ハ之ヲ所屬官廳ノ定員外トシ其ノ補缺ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル者所屬官廳ニ復歸スル場合ニ於テ定員充實セルトキハ復歸後一年ヲ限り更ニ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

本令ハ待遇職員ニ之ヲ準用ス

本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年勅令第六十二號ハ之ヲ廢止ス

裏面白紙

左ノ勅令中「戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ」チ「陸海軍ニ徵集セラレ
又ハ戰時若ハ事變ニ際シ」ニ改ム

明治三十七年勅令第三十三號ハ戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セ
ラレタル看守ノ休職ニ關スル件

同年勅令第二百二十一號（戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタ
ル陸軍監獄看守等ノ休職及休職給ニ關スル件）

同年勅令第二百二十二號（戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタ
ル貴族院及衆議院守衛ノ休職及休職給ニ關スル件）

左ノ勅令中「戰時又ハ事變ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ」チ「陸海軍ニ徵集
セラレ又ハ戰時若ハ事變ニ際シ」ニ改ム

大正七年勅令第三百六十六號（保健技師、保健技手、藥劑師、教諭

裏面白紙

師、教師、作業技師及作業技手ノ休職ニ關スル件)

兩年勅令第百七十一號ノ、朝鮮總督府豫防拘禁所教導ノ休職

ニ關スル件)

昭和十六年勅令第五百六十六號(戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集
セラレタル豫防拘禁所教導ノ休職ニ關スル件)

公立學校職員分限令中第八條第二項ヲ削ル

同令第九條第一項中「及前條第二項ノ場合」ヲ「ノ場合及陸海軍ニ徵
集セラレタルニ因ル休職ノ場合」ニ、「前條第一項」ヲ「前條」ニ改
メ同條第二項中「第一項」ヲ削ル

上
海
海
軍
部
令
第
百
七
十
一
號
ノ
朝
鮮
總
督
府
豫
防
拘
禁
所
教
導
ノ
休
職
ニ
關
ス
ル
件

〔別紙第二號〕

明治三十七年勅令第二百六號（文官ニシテ陸海軍ニ
召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル件）改正勅令案

文官ニシテ徵集、召集等ノ事由ニ依リ軍人（陸海軍ノ學生生徒ヲ含ム
トシテ陸海軍ニ於テ俸給（之ニ準ズベキモノヲ含ム以下同ジ）ヲ受ク
ルモノハ他ノ勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外其ノ間文官俸給ノ
支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給ノ額文官俸給額ヨリ寡少ナ
ルトキハ其ノ不足額ハ奉職官廳ニ於テ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス
本令ハ他ノ勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外待遇官吏ニ之ヲ準用
ス

本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

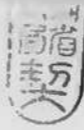
裏面白紙

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

巡查給與令第五條第一項中「第一號乃至第四號」及同條第二項ヲ削ル

公立學校職員俸給令第十五條中「第一項」ヲ削リ同令中第十五條ノ二
ヲ削ル



警保局警務發乙第四五二號

昭和十七年十月七日

内務省 警保局長



内務大臣官房 文書課長殿

應召官吏等ノ身分取扱ニ關スル件

十月三日付庶收第一〇〇八號ヲ以テ照會ノ首題ノ件別紙ノ通意
見有之候條可然御取計相成度

内務省

裏面白紙

大日本帝國政府

警保局意見

巡査給與令第五條第二項ノ規定ハ巡査分限令第五條第一項第五號ノ
規定ニ基ク陸海軍應召ニ依ル休職巡査ニ對スル特例的給與制度ニシ
テ現職應召者ノ給與規定タル第二勅令案ト必ズシモ直接ノ關係ヲ
有スルモノニアラズ且全然同趣旨ノ規定ハ委任及判任付遇監獄職員
給與令中ニモ現存スルモノニモ有之同趣定ノ關係ハ之ヲ行ハザル方
適當ト存ズ

裏面白紙

大日本帝國政府

警保局意見

巡查給與令第五條第二項ノ規定ハ巡查分限令第五條第一項第五號ノ
規定ニ基ク陸海軍應召ニ依ル休職巡查ニ對スル特例的給與制度ニシ
テ現職應召者ノ給與規定タル第二條勅令案ト必ズシモ直接ノ關係ヲ
有スルモノニアラズ且全然同趣旨ノ規定ハ委任及解任待遇監獄職員
給與令中ニモ現存スルモノニモ有之同規定ノ附屬ハ之ヲ行ハザル方
適當ト存ズ

裏面白紙



大日本帝國政府

防第六二一九號

昭和十七年十月七日

文書課長殿

防空局



應召官吏等ノ身分取扱ニ關スル勅令案ノ件

本月三日庶收第一〇〇八號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件當局ニ於

テハ意見無之

裏面白紙

大日本帝國政府

秘第八二號

昭和十七年十月八日

文書課長殿

國士局



應召官吏等ノ身分取扱ニ關スル勅令
案ノ件回答

十月三日庶收第一〇〇八號ヲ御申越ニ係ル標記ノ件ニ對スル意
見無之此段及回答候也

此の件は
見無之

裏面白紙



大日本帝國政府

神祇院一七內祕第一八七號

昭和十七年十月八日

神祇院副總裁

內務大臣官房文書課長 殿

應召官吏等ノ身分取扱ニ關スル勅令案ノ件

本月三日附庶收第一〇〇八號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件當院ニ
ハ意見無之候條御了知相成度



裏面白紙

裏面白紙

内第一七五九號

昭和十七年十月八日

内務大臣官房人事課長

内務大臣官房文書課長 殿

十月三日付庶收第一〇〇八號御照會ニ係ル應召官吏等ノ身分取扱ニ關スル勅令案ノ件別段意見無之此段及回答候也



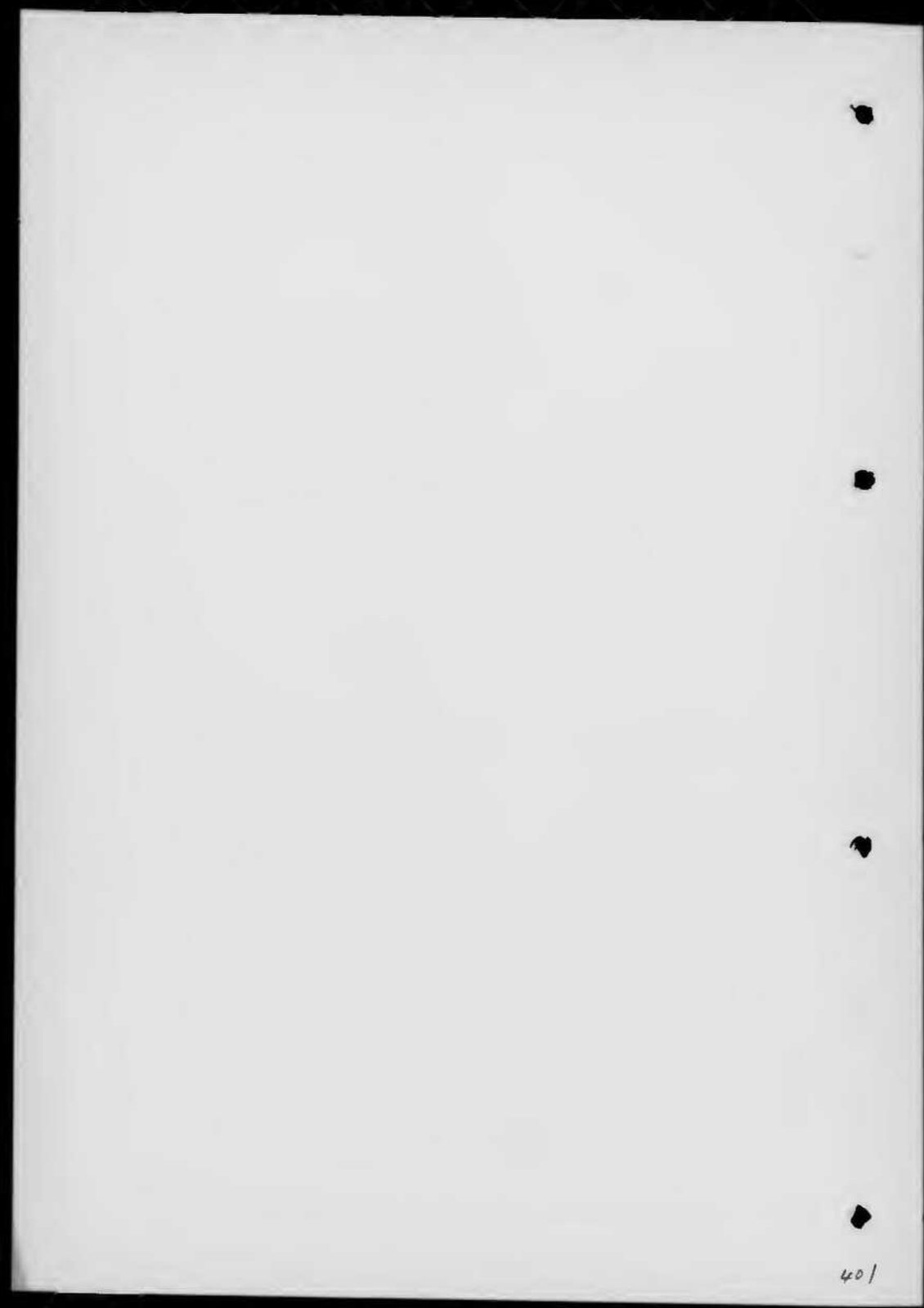
内務省

規格式

399

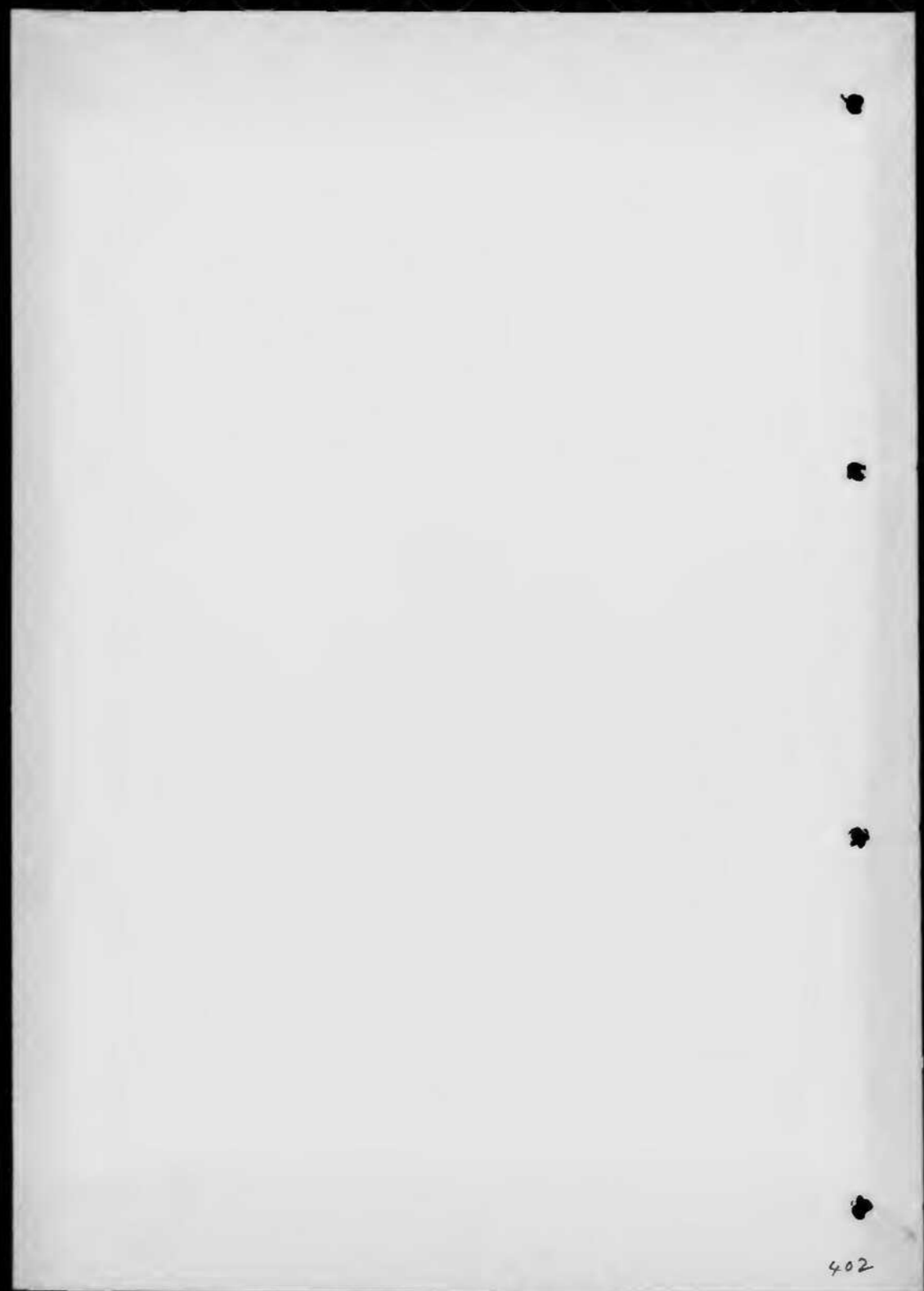


裏面白紙



401

裏面白紙



402

